中道・十蔵坊・在家遺跡

主要地方道　伊那箕輪線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2004年

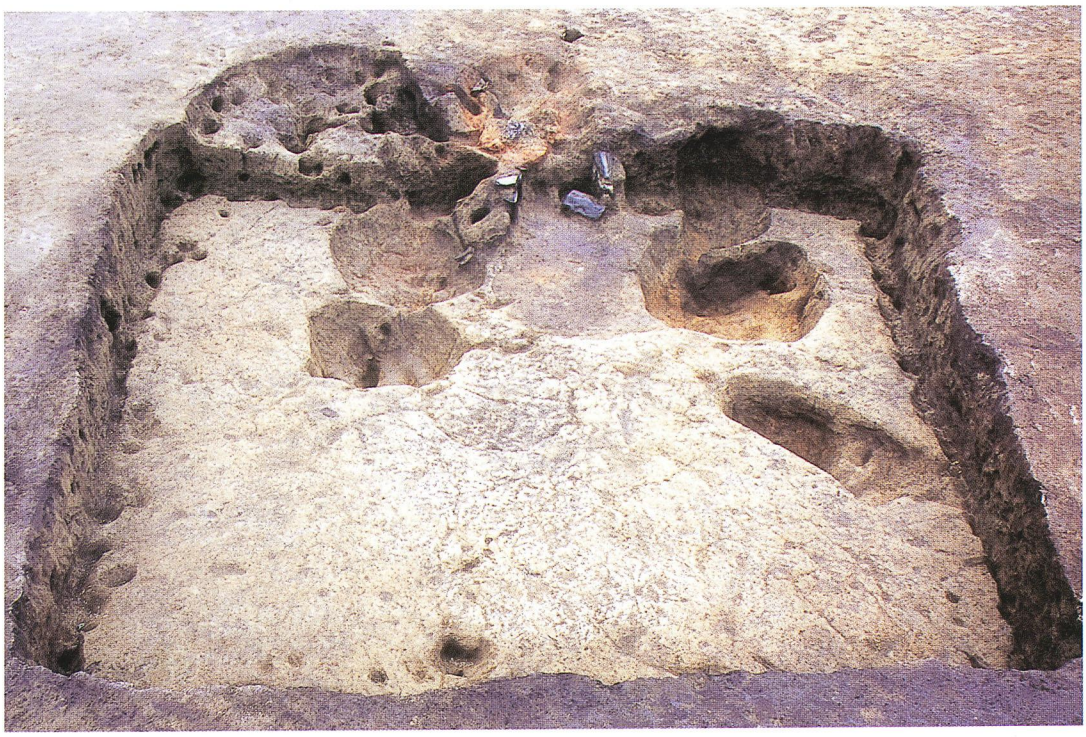
長野県伊那建設事務所
上伊那郡箕輪町教育委員会

中道・十蔵坊・在家遺跡

主要地方道　伊那箕輪線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

2004年

長野県伊那建設事務所
上伊那郡箕輪町教育委員会



2　号　住　居　址

2・3号掘立柱建物址

7　号　住　居　址

7号住居址カマド出土土器

序

箕輪町は、伊那谷の北部に位置し、東西には南北に連なる山々が望め、それらから流れ出す中小河川の清らかな水は、やがて諏訪湖を源流とする天竜川にそそがれ、山紫水明が織り成す自然豊かな美しい郷土であります。

この地の生み出す自然の恵みを求め、数万年も古くから人々が暮らし始め、幾年もの時を重ねる中で、その時代々に生きた先人達の努力により、今日の町の発展へと繋がってきました。そして、彼らが残した歴史と文化を今に伝える多くの文化遺産が土の中に眠っています。それが埋蔵文化財と言われています。

町の北西に位置する大出・沢区は、今回調査を行った中道・十蔵紡・在家遺跡のほかにも、縄文時代から近世にわたる多くの遺跡が密集するところであります。特に、調査地の東に位置する丸山遺跡は、町内でも屈指の縄文時代中期の遺跡として知られ、多くの遺物が収集・記録・保存されています。また、堂地・中道遺跡は、昭和48年に行われた中央自動車道建設時の発掘調査において、古代の大集落遺跡であることが判明し、これまでの調査で、奈良・平安時代の住居址が100棟以上出土し、また、遺物でも奈良三彩小壷蓋、銅製絞金具、大型紡錘車などが出土し、中央政権と政治的関わりを持つ集落であったのではないかと大変興味深いところであります。

町教育委員会が実施した本遺跡の緊急発掘調査としては、今回で三度目となりました。調査を重ねるごとに、少しずつではありますが、地域の歴史解明に繋がる貴重な成果を上げてきました。その成果につきましては、本書の中で詳細に記してありますので、これを広く活用していただき、これからの地域の発展の一助となれば幸いであります。

箕輪町教育委員会
教育長　小　林　通　昭

例　　言

1　本書は、平成13・14・15・16年度に実施した、長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪3366－5番地他に所在する（主）伊那箕輪線道路改良事業に伴う発掘調査業務の報告書である。

2　遺跡の発掘調査及び整理作業等の業務は、伊那建設事務所より委託を受けて、箕輪町教育委員会が実施した。

3　本書の作成にあたり、作業分担を以下のとおり行った。

遺物の洗浄・注記－大串久子、金澤　蘭、春日誠子、後藤主計

遺構図の整理・トレース－池上賢司、大串久子、金沢　蘭、中村孝子、根橋とし子

遺物の実測・拓本・トレース－大串久子、根橋とし子、向山英人

挿図作成－大串久子、根橋とし子

写真撮影・図版作成－大串久子、根橋とし子

4　本書の執筆は、赤松　茂、有賀　一治、柴　秀毅、根橋とし子が行った。

5　本書の編集は、大串久子、根橋とし子が行った。

6　出土遺物及び図版類は、すべて箕輪町教育委員会が保管している。

7　調査及び本書の作成にあたり、下記の機関からご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

機関－伊那建設事務所、大出区、沢区

凡　　例

1　挿図

・挿図の縮尺は、各図ごとの右下に表記（スケールを有するものも含む）した。

・遺物実測図及び拓影図は、以下の縮尺に統一した。

土器実測図－１：４　土器拓影図－１：３　鉄製品実測図－１：２　石器実測図－１：２

・土器実測図の土器断面の接合状況は、観察できるもののみ表示している。

・土器実測図の土器断面のスクリーントーンによる表示は、以下のものを表している。

…須恵器

・遺構実測図中におけるスクリーントーン及び記号による表示は、以下のものを表している。

…礫断面　…焼土　…焼土ブロック　●…土器　△…鉄器

・上記以外の表記については、各図ごとに凡例を設けているので参照されたい。

2　土層及び遺物観察

・土層及び土器の色調は、『新版　標準土色帖』を用いて記してある。

・出土土器観察表の法量は、上から「口径・底径・器高」の順に記し、単位はセンチメートル（cm）である。また、現存する数値は「（　）」で、「－」は計測不能を表している。

・出土鉄製品観察表の重量の単位はグラム（g）で表している。法量はすべて最大値である。また、現存する数値は「（　）」で、「－」は計測不能を表している。

3　写真図版

・各写真の数字は、挿図における遺物番号を表している。

本　文　目　次

巻頭カラー図版
序　例言　凡例
本文目次

第Ⅰ章　発掘調査の概要……1
　第１節　調査に至る経過……1
　第２節　調査概要と体制……2
　第３節　調査の経過（調査日誌から）……3
第Ⅱ章　遺跡の環境……6
　第１節　地形と地質……6
　第２節　歴史環境……7
第Ⅲ章　調査結果……10
　第１節　調査方法と結果概要……10
　第２節　土層堆積状況……10
第Ⅳ章　遺構と遺物……15
　第１節　検出遺構……15
　　1　竪穴住居址……15
　　2　掘立柱建物址……17
　　3　溝状遺構……17
　　4　集石……21
　　5　竪穴址……21
　　6　ロームマウンド……25
　　7　土坑……25
　　8　ピット……28
　第２節　遺物……28
　　1　土器……28
　　2　石器……32
　　3　鉄製品……32
第Ⅴ章　まとめ……55

図　版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　調査位置図・調査範囲図
第２図　周辺遺跡分布図
第３図　Ａ１区土層断面図
第４図　全体図･トレンチ設定図及び別図
第５図　Ａ１区･Ａ３区全体図
第６図　Ｃ区西・Ｃ区東全体図
第７図　１号住居址実測図
第８図　２号住居址実測図
第９図　３号住居址実測図
第10図　４・５号住居址実測図
第11図　６号住居址実測図
第12図　７・９号住居址実測図１
第13図　７・９号住居址実測図２
第14図　８号住居址実測図
第15図　１号掘立柱建物址実測図
第16図　３号掘立柱建物址実測図
第17図　２号掘立柱建物址実測図
第18図　５・６号溝状遺構実測図
第19図　集石・竪穴址・ロームマウンド実測図
第20図　土坑実測図１
第21図　土坑実測図２
第22図　土坑実測図３
第23図　ピット実測図１
第24図　ピット実測図２
第25図　ピット実測図３
第26図　ピット実測図４
第27図　土器実測図１
第28図　土器実測図２
第29図　土器実測図３
第30図　土器実測図４
第31図　土器実測図５
第32図　土器拓影図
第33図　石器実測図
第34図　鉄製品実測図
第35図　土層柱状図
第36図　発掘調査による集落址確認箇所

表　目　次

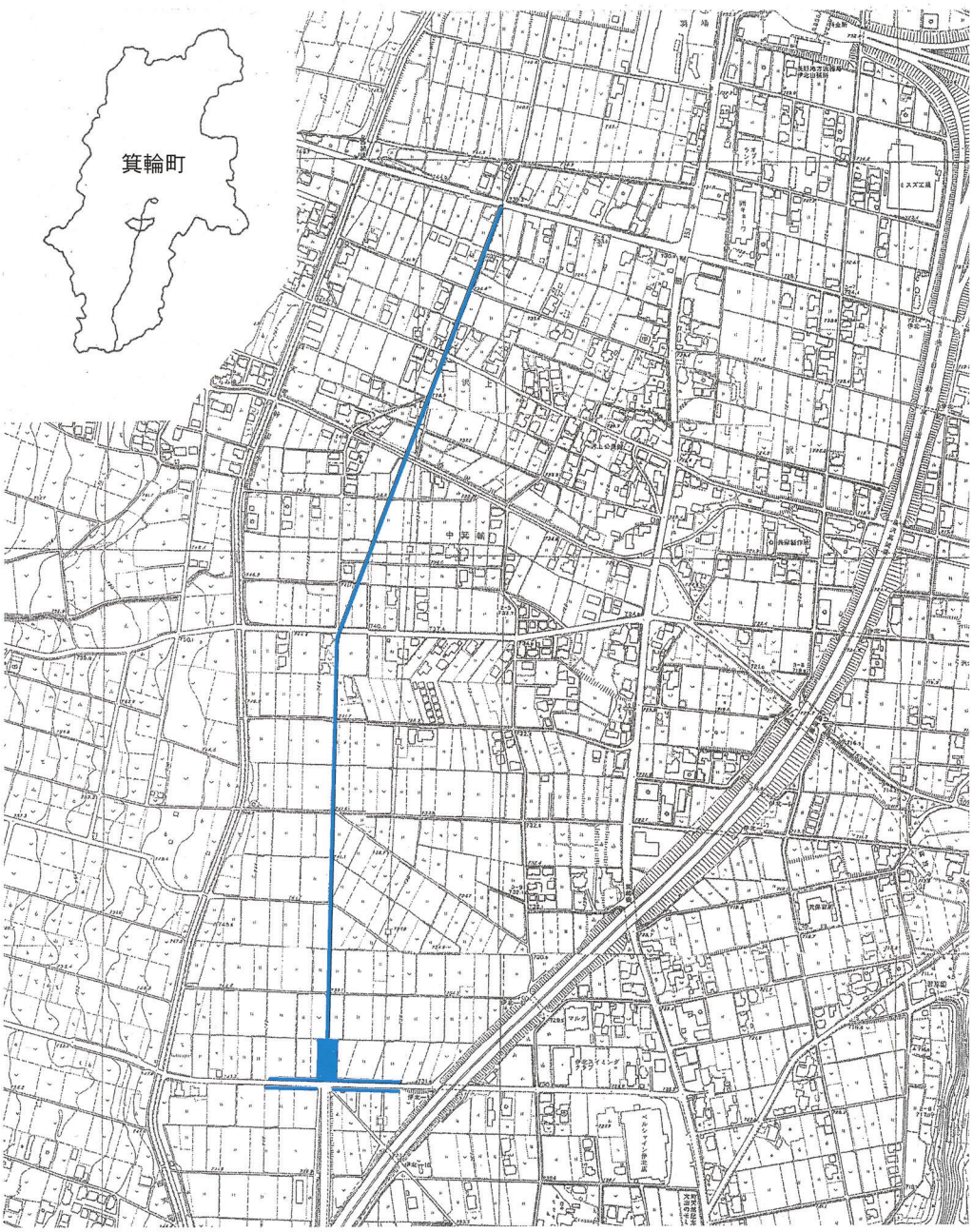
第１表　周辺遺跡一覧表
第２表　住居址一覧表
第３表　１号掘立柱建物址一覧表
第４表　２号掘立柱建物址一覧表
第５表　３号掘立柱建物址一覧表
第６表　土坑一覧表
第７表　ピット一覧表
第８表　土器観察表
第９表　石器観察表
第10表　鉄製品観察表

図　版　目　次

図版１　発掘調査地遠景、調査区土層堆積状況
図版２　Ａ１・３調査区、Ｃ区東４調査区
図版３　Ｃ区東３～１調査区
図版４　Ｃ区西１・４調査区、トレンチ、立会調査
図版５　住居址
図版６　住居址、掘立柱建物址、竪穴址
図版７　集石、ロームマウンド、土坑、ピット、出土編物石・刀子・砥石
図版８　出土遺物１
図版９　出土遺物２
図版10　出土遺物３

第Ⅰ章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経過



第１図　調査位置図・調査範囲図（1：7500）

主要地方道　伊那箕輪線は、通称春日街道と呼ばれ、伊那市と箕輪町を結ぶ重要な県道の一つである。今回伊那建設事務所より、箕輪町側の終点（箕輪町大出）から北側へ1,200mほど延長して建設する計画が平成13年８月に提示された。今回の建設予定地のうち一番南端には、旧石器時代から中世の複合遺跡として知られる中道遺跡が隣接している。

中道遺跡においては、過去に中央自動車道の建設や県道（既存箇所）の建設に際して発掘調査が行われており、古墳時代や奈良・平安時代の遺構・遺物を多く確認している。遺跡分布地図では、中道遺跡の範囲（北側）は明確でなく、今回の建設予定地付近に及ぶ可能性は十分考えられていた。建設予定地の中央付近（南北約320m）は、縄文時代の遺跡である十蔵坊遺跡の範囲（推定）に含まれている。また、建設予定地北端部については、遺跡分布地図上は遺跡の範囲に含まれていないが、すぐ西側に縄文・平安時代の複合遺跡である在家遺跡があり、その範囲（東側）もやはり明確でないため、遺跡が建設予定地付近まで広がる可能性も考えられた。

こうした状況を踏まえ、伊那建設事務所・長野県教育委員会・箕輪町教育委員会の３者により、平成13年11月に保護協議を行った。その結果、今回の建設予定地においては、遺跡分布調査や過去の発掘調査の結果から、建設予定地の全区間において遺跡の範囲が及んでいる可能性も考えられ、現地を視察した県教育委員会からも、地形的にも遺跡があるのではないかとの指摘をいただいた。そのため、建設予定区間全てを一応調査の対象とし、既存人家等を除く全ての箇所について、先に試掘調査を行ない遺構の有無を確認し、確認された場合は拡張して調査を行い、記録保存を行うということで合意した。なお、調査は伊那建設事務所が箕輪町教育委員会に委託し、費用は伊那建設事務所が負担することで合意した。

調査は工期に応じ、平成13年度は町道167号線まで（中道遺跡・十蔵坊遺跡）の試掘調査、14年度は同区間における遺構検出箇所（中道遺跡）の拡張調査（本調査）と町道109号線までの試掘調査（十蔵坊遺跡）、15年度は終点（広域農道）までの試掘調査（在家遺跡）を行い、まとめの作業と報告書の作成を平成16年度に行った。

第２節　調査概要と体制

１　遺　跡　名　　中道遺跡、十蔵坊遺跡、在家遺跡

２　所　在　地　　長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪3365－5番地他

３　事業期間　　平成14年２月18日～平成17年２月28日

（試堀調査　平成14年２月18日～14年３月12日）

（発掘調査　平成14年５月13日～14年11月８日、14年11月22日～14年12月24日、15年10月６日～15年11月５日）

（整理作業　平成15年10月９日～16年３月26日、平成16年４月６日～17年２月28日）

４　事　務　局

教　育　長　　大槻　武治（平成16年２月まで）　　小林　通昭（平成16年４月から）

文化財課長　　柴　登巳夫（平成16年３月まで）

生涯学習課長　藤原　　久（平成16年９月まで）　　平井　克則（平成16年10月から）

係　　長　原　省吾（平成16年３月まで）　鳥山　久夫（平成16年４月から）
係　　員　赤松　茂（平成16年４月から）　有賀　一治（平成15年４月から）
　　日野　和政（平成16年３月まで）　柴　秀毅（平成15年３月まで）
臨時職員　柴　チエ子（平成14年３月まで）　中村　孝子（平成16年４月から）
　　中坪　恵子（平成16年３月まで）　池上　賢司（平成17年３月まで）

5　調　査　団

調査団長　大槻　武治　小林　通昭
調査副団長　柴　登巳夫　藤原　久　平井　克則
調査担当者　柴　秀毅　有賀　一治

平成13年度

調　査　員　根橋とし子　福沢　幸一
調査団員　池上　賢司　遠藤恵実子　大串　久子　小川　陽三　春日　誠子
　　金沢　蘭　後藤　主計　田中　忠男　林　忠平　藤沢　具明
　　堀内　昭三　向山　英人　山田　武志　吉川　正剛

平成14年度

調　査　員　根橋とし子　福沢　幸一
調査団員　池上　賢司　伊藤　敏明　泉沢徳三郎　井上　隆次　大串　久子
　　大槻　茂範　大槻　泰人　小川　陽三　春日　誠子　片桐　勇
　　金沢　蘭　小松　峰人　後藤　主計　佐野　正俊　田中　忠男
　　中村　節　中村　有紀　根橋　恭子　林　忠平　藤沢　具明
　　堀内　昭三　向山　英人　山田　武志　吉川　正剛

平成15年度

調　査　員　根橋とし子　金沢　蘭
調査団員　池上　賢司　泉沢徳三郎　井上　隆次　内田　絹江　大串　進
　　大串　久子　大槻　泰人　小川　陽三　春日　誠子　春日　惣平
　　小松　峰人　後藤　主計　田中　忠男　中村麻衣子　根橋　恭子
　　藤沢　具明　堀内　昭三　向山　初美　向山　英人　山崎　朝男
　　山田　武志　吉川　正剛

第３節　調査の経過（調査日誌から）

■平成13年度試掘調査　中道・十蔵坊遺跡

２月18日　トレンチ設定。機材搬入後、調査区内の試掘調査。

２月19日　重機にてトレンチを掘削、遺構上面確認作業。１トレンチから住居址１軒、土坑、土師器が

出土。

２月20日～22日　トレンチの掘削を終了。１～８トレンチの遺構上面確認作業、壁削り、土層断面分層、写真撮影。

２月25・26日　１・２トレンチの壁削り、土層断面測量、写真撮影。ピットと土坑の土層断面測量と全掘。

３月１・４・５日　３～７トレンチ出土遺構の測量全般と写真撮影。

３月７・８日　６トレンチ、遺構の写真撮影。溝の平面測量。７トレンチの測量全般。

３月11日　７・８トレンチの測量全般。機材の整理。

３月12日　８トレンチの全体測量。BMの移動。機材の撤収。本日にて試掘調査を終了する。

■平成14年度　中道・十蔵坊遺跡

５月13・14日　神事を行い発掘作業の安全を祈る。ＢＭの移動。Ａ３区の調査に入る。重機にて表土剥ぎ、遺構上面確認作業。

５月15・20日　土坑、ピットの半掘、分層、写真撮影、土層断面測量、全掘。全掘写真撮影。

５月21日　全体写真撮影。ピットと土坑の平面測量、全体測量。

５月22日　ピットの平面測量。Ａ３区の調査を終了。６トレンチの全体測量。陸橋拡幅工事の立会い。

５月23日　Ａ１区の調査に入る。重機にて表土剥ぎを行い、遺構上面確認作業。

５月24・28日　遺構上面確認作業及び壁削り。

５月29日　遺構上面確認作業終了。住居址、土坑、建物址を検出。

５月30日　トレンチの壁削り。土層断面測量と写真撮影。道路拡幅工事立会い。土坑とピットの掘り下げ。

６月３・４日　土坑の掘り下げ。写真撮影、土層断面測量、２号住居址のプラン確認。

６月５・６日　１・３号住居址の掘り下げ。ピット、土坑の平面測量、写真撮影。集石、土坑の各測量。

６月７・10・12日　１号住居址の写真撮影後遣り方測量。２号住居址の掘り下げ。

６月13・14・19日　１～３号住居址の測量全般、遺物の取り上げ。写真撮影。

６月20日　１号住居址カマドの測量。２号住居址の土器取り上げ。Ｃ区西調査区の上面確認作業に入る。

６月21・24・28日、７月３・４日　１～３号住居址カマドの測量。Ｃ区西調査区の上面確認作業、土坑・ピットの掘り下げ、測量、写真撮影。Ｃ区西調査区の調査を終了。

７月５・８日　２号住居址カマド等の測量。

７月９・11・12日　Ａ１区の全体写真撮影。２号住居址の測量。

７月16日　２号住居址床面の掘り下げ。Ｃ区東調査区の遺構上面確認作業に入る。４号住居址を検出。

７月18日　２号住居址の測量。Ｃ区東調査区ピットの測量と写真撮影。

７月22・23・25日　２号住居址カマドの測量。４号住居址の掘り下げ、５号住居址を検出。

７月26・29日～８月９日　４・５号住居址の遣り方測量。遺物の取り上げ、全体写真の撮影、機材の撤収を行い、調査を一旦中断。

８月12日　ＢＭの移動。重機にて埋め戻し。

９月17～20日　Ｃ区東調査区の未調査部分の発掘を再開。重機にて表土剥ぎ。遺構上面確認作業。南壁の断面測量。住居址３棟（６～８号）を確認。

9月24日　　7号住居址の掘り下げ。9号住居址を確認。

9月25日　　9号住居址の完堀。7号住居址の掘り下げ、土層断面写真撮影、測量。

9月26日　　6～8号住居址の掘り下げ。9号住居址の測量、写真撮影。

9月27日　　9号住居址の測量。7号住居址掘り下げ、土層断面測量、写真撮影。

10月2・3日　　6～8号住居址の調査。

10月4日　　7号住居址土坑、ピットの完掘写真撮影、7・9号住居址の全体写真撮影、8号住居址の測量。

10月10・11・16日　　6～8号住居址の測量全般と掘り下げ。7号住居址の土器の取り上げ。

10月17日　　土坑36・37の完掘と写真撮影、8号住居址の全体写真撮影、C区東調査区の全体測量。

10月18日　　6号住居址の全体写真撮影、平面測量。8号住居址の平面測量。

10月22～25日　　6～8号住居址の写真撮影、測量全般。県文化課職員と今後の調査の打ち合わせ。

10月28・29日　　6号住居址、ピット2・6の写真撮影。掘り方平面測量、土器取り上げ、BMの移動。

10月30～11月7日　　7・8号住居址カマドの掘り下げ、測量。

11月8日　　機材の撤収を行い、一旦調査を終了する。

11月22日　　十蔵坊遺跡試掘箇所の試掘の為、機材を搬入。トレンチ設定。

11月25・26日　　重機にてトレンチの掘削。水路跡を検出。

11月27日　　9～11トレンチの断面・状況写真撮影。

12月3日　　12トレンチの断面・状況写真撮影。9・10トレンチの断面測量。

12月5日　　1・2号溝状遺構完掘写真、1号土坑全掘写真撮影。

12月6日　　9～13トレンチの測量と写真撮影。

12月16日　　14・15トレンチの測量と写真撮影。

12月18日　　各トレンチの平面測量を行い、調査を終了する。

12月24日　　重機による埋め戻し作業。バリケードの除去。ハウスの搬出。

■平成15年度　在家遺跡

10月6・7日　　調査地の草刈。トレンチの設定（16～21トレンチ）。状況写真撮影。重機にてトレンチ掘削。

10月8日　　遺構上面確認作業。土坑・ピット・溝状遺構を確認。

10月9日　　ピットと土坑の土層断面測量、写真撮影。遺構上面確認作業。

10月10・15日　　平面測量、全体測量。トレンチの遺構上面確認作業。土層断面測量と平面測量。

10月16日　　全体写真撮影。全体測量、11号溝状遺構の遣り方測量。遺構上面確認作業。

10月17日　　土層断面写真撮影と状況写真撮影。遺構上面確認作業、測量。

10月20日　　土層断面写真撮影、11号溝状遺構の礫出土状況写真撮影。

10月28日　　16トレンチの調査に入る。トレンチ設定後重機にて掘削。

10月29日　　トレンチの掘り下げ。遺構上面確認作業。土層断面測量。

10月30日　　状況、全体写真撮影。BMの移動。機材の撤収。

11月4日　　トレンチの写真撮影。機材の撤収。

11月5日　　トイレ、ハウスの撤収。すべての調査を終了する。

第Ⅱ章　遺跡の環境

第1節　地形と地質

中道・十蔵坊・在家遺跡のある箕輪町は、伊那盆地の北部に属している。伊那盆地は一般的に「伊那谷」と呼ばれている。それは次のような理由から来ている。

伊那盆地は、中央・南の両アルプスに囲まれて南北に細長い形をしているが、長野盆地や松本盆地などと比べると盆地内の扇状地堆積物の厚さが薄く、段丘崖によって山地変換線から盆地中央部の盆地底まで階段状の地形をしている。その盆地底から、天竜川両岸の山までは、まさに「伊那谷」というべき独特の景観をしている。

以前は伊那盆地を作りあげている盆地底まで続く階段状の地形は、天竜川によって造られた河岸段丘と考えられていたが、現在では地形の研究が進み、河岸段丘ばかりではなく、活断層の影響で盆地の中央部まで階段状の段丘崖が続いている構造盆地であることがわかってきた。

伊那盆地の盆地内部には伊那谷中央断層と呼ばれる断層があり　中央低地帯と呼ばれる盆地底を形成し

上空より遺跡地を望む（調査前）

ている。天竜川はこの中央低地帯を流下していて沖積低地を作っている。箕輪町を含む上伊那北部では、天竜川本来の段丘はこの中央低地帯に沿って形成されていて、最低位段丘には天竜川によって運搬されたとみられる円礫層が載っている。この面は2万年前の最終氷期最寒冷期の氾濫面に相当すると考えられる。

天竜川の東は「竜東」と呼ばれ、西は「竜西」と呼ばれているが、箕輪町は天竜川によって竜東と竜西にほぼ二分された形になっている。どちらの地域も伊那谷の他地域と同じような地形を形成しているが、竜東と竜西では地形の出来かたが違っている。

竜東では低山性の丘陵が天竜川近くまで迫り、支流による小規模な扇状地が形成されているため、比較的変化に富んだ地形をしている。

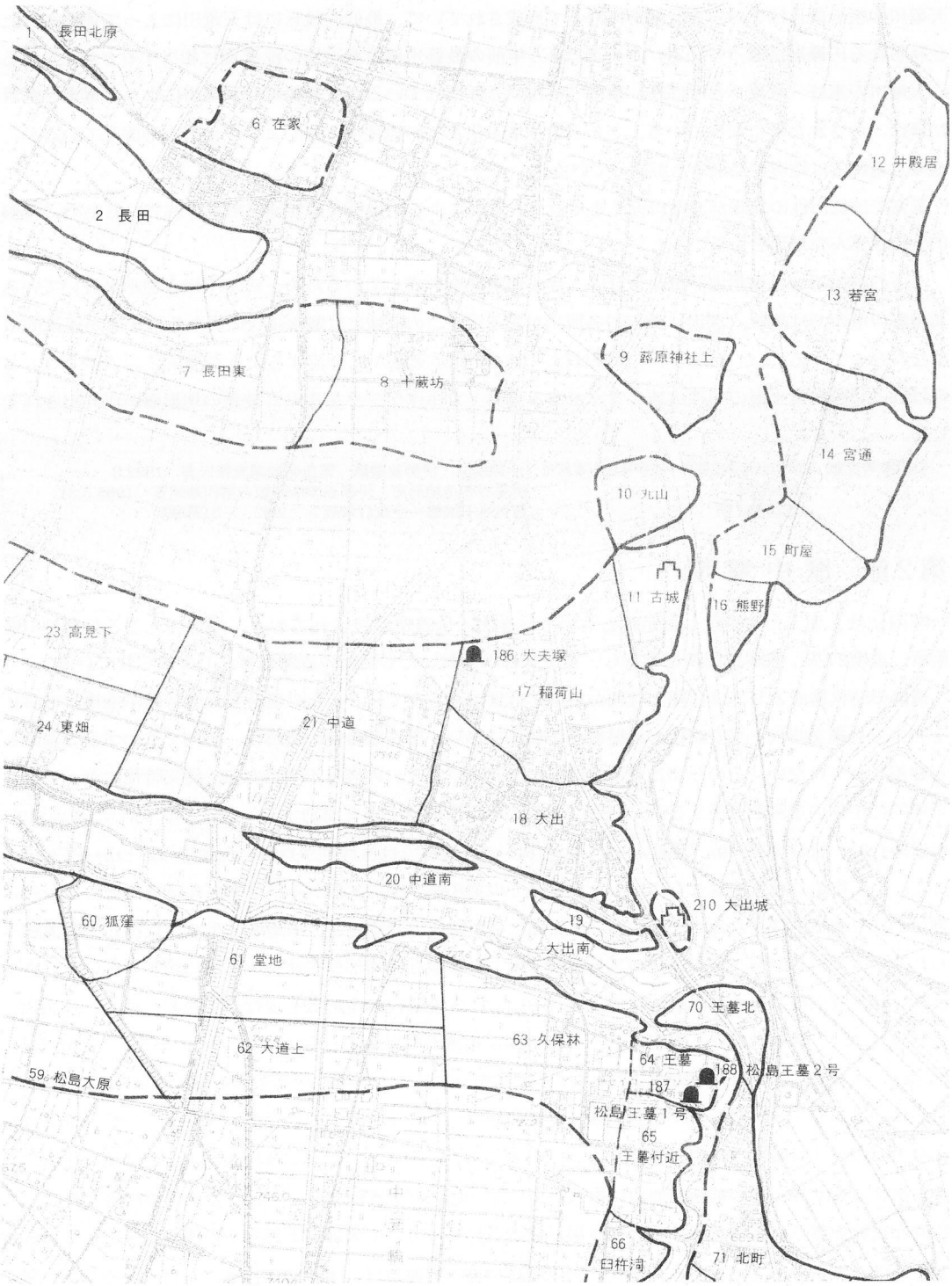
一方の竜西では、扇状地が重なり合い、合成扇状地を形成しているため、広く平坦な地形が続いている。箕輪町の竜西では帯無、深沢、桑沢の各河川があるが、この流域には離水年代の異なる扇状地が連続的に重なり合っている。また、1万2千年以降には、主に支流が天竜川に合流するような場所に、「クロボク」と呼ばれる黒色腐食土層の中に広域テフラである鬼界アカホヤテフラを含んだ最新の地形面が作り出されている。

引用参考文献　伊那市教育委員会・上伊那地方事務所　小黒南原・伊勢並遺跡　緊急発掘調査報告書　1992.3
松島信幸　伊那谷の造地形史　伊那谷の活断層と第四期地質　1995.3.31
益富壽之助　原色岩石図鑑＜全改訂新版＞　1992　8 31第3刷

第2節　歴史環境

町内には、先人たちが残した足跡ともいうべき多くの遺跡が残されており、現在のところ包蔵地182箇所、古墳27基、城跡13箇所を確認し、上伊那郡下においても屈指の遺跡地帯として知られている。

遺跡の時代構成としては、縄文時代から中・近世に至るまでほとんどの遺跡で複数時期が重複しており、その中でも縄文時代と平安時代の遺跡数が圧倒的に多い。旧石器時代の遺跡は、町内でもわずか５遺跡しか確認されていない。その一つに中道遺跡が含まれるが詳しい内容は不明である。縄文時代に至っては、全体的に中期の遺跡数が最も多い。中期初頭では、中道遺跡で土器を埋納する土坑群がみつかり、丸山(10)、中道南(20)、松島大原(59)、狐窪(60)、堂地(61) の各遺跡では住居址が点在した状況でみつかっている。また、中・後葉の集落遺跡としては、丸山遺跡で中葉８軒、後葉９軒がみつかり、各時期で更に２から３期にわたり集落形成されたことがわかっている。弥生時代の遺跡数は、本地域一帯では点在して数遺跡みられるが少ない傾向だ。南下に従って松島及び木下区の段丘突端部や扇状地末端部に増加していく。堂地遺跡では、町内唯一の方形周溝墓が発見されている。古墳時代の遺跡数も少ない。なお、中道、中道南、堂地遺跡では、本時代末から奈良時代への移行期に集落形成が始まったことがわかっている。古墳では、大出区に大夫塚古墳(186)、松島区北部には上伊那唯一の前方後円墳の松島王墓古墳１号(187)と、隣接して円墳の同２号 (188) がある。古代では、深沢川両岸一帯で奈良時代の集落が形成され、この一帯では他に例を見ない大きな集落形成がなされていたと考えられる。そして、平安時代前期にかけて更に住居の戸数が増えると共に、その範囲も周辺に拡大していく。特に中道遺跡では、奈良三彩や銅製銙帯金具などの特殊な遺物を伴う奈良時代後半の大型住居が建造されるなど、中央政権と何らかの関わりを持って形成された集落であったことが伺える。また、平安時代前期の遺跡数は、本遺跡地以外でも増大するが、中期以後となるとその数が減少する傾向がある。中世では、鎌倉から室町前半の遺跡ははっきり確認できていない。遺構や遺物から判断できるのは、室町後半から戦国時代であり、段丘突端部に大出城 (210) が築かれたのはこの頃である。



第2図　周辺遺跡分布図（1：12500）

第1表　周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺　跡	所在地	時代								立地	地　目	備　考
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			
6	在家（ざいけ）	沢		○				○			扇央	宅地・畑	
8	十蔵坊（じゅうぞうぼう）	〃		○							扇央	宅地・畑	
21	中道（なかみち）	大出～八乙女	○	○		○	○	○	○		扇央	宅地・畑・田	調－昭48・63、平5・6
1	長田北原（ながたきたはら）	沢		○	○			○			扇央	宅地・畑	
2	長田（ながた）	〃		○				○	○	○	扇央	宅地・畑・山林	
7	長田東（ながたひがし）	〃		○				○			扇央	宅地・畑・田	
9	蕗原神社上（ふきはらじんじゃうえ）	〃		○							段丘突端	宅地・田	
10	丸山（まるやま）	〃		○			○	○			段丘突端	宅地・田	調－平元・5
11	古城（ふるじょう）	〃		○				○	○		段丘突端	田	調－平元、城跡含む
12	井殿居（いどのい）	〃		○				○			扇状地	宅地・田	
13	若宮（わかみや）	〃		○				○	○		扇状地	宅地・畑	
14	宮通（みやどおり）	〃		○				○			扇状地	宅地・畑	
15	町屋（まちや）	〃		○		○		○	○		扇状地	宅地・畑	
16	熊野（くまの）	〃		○							扇状地	宅地・畑・田	
17	稲荷山（いなりやま）	沢～大出		○		○		○			段丘突端	宅地・田	
18	大出（おおいで）	大出		○				○		○	段丘突端	宅地・畑	
19	大出南（おおいでみなみ）	〃		○				○			段丘突端	宅地・畑	
20	中道南（なかみちみなみ）	〃		○		○	○	○			扇央	畑・田	調－昭63
23	高見下（たかみした）	八乙女		○				○	○	○	扇央	宅地・畑	
24	東畑（ひがしはた）	〃		○		○		○			扇央	宅地・畑	
59	松島大原（まつしまおおはら）	松島		○				○	○		扇央	畑・墓地	調－平6・9
60	狐窪（きつねくぼ）	〃		○				○	○		扇央	田	調－昭48
61	堂地（どうち）	〃	○	○	○	○	○	○			扇央	宅地・田	調－昭48・62、平5
62	大道上（おおみちうえ）	〃		○				○			扇央	宅地・田	調－平6・7
63	久保林（くぼばやし）	〃						○			扇央	宅地・田	
64	王墓（おうはか）	〃		○		○					段丘突端	宅地・田・林	一部県史跡
65	王墓付近（おうはかふきん）	〃		○				○			段丘突端	宅地・畑	
66	臼杵洞（うすきほら）	〃		○		○		○			段丘突端	宅地・畑・墓地	
70	王墓北（おうはかきた）	〃		○							段丘突端	宅地・畑	
71	北町（きたまち）	〃		○	○	○		○	○		段丘突端	宅地・畑	
186	大夫塚古墳（たゆうづかこふん）	大出				○					扇央	神社境内	
187	松島王墓古墳1号（まつしまおうはかこふん）	松島				○					段丘突端	林	県史跡　前方後円墳
188	松島王墓古墳2号（まつしまおうはかこふん）	〃				○					段丘突端	林	県史跡
210	大出城（おおいでじょう）	大出							○		段丘突端	林	

第Ⅲ章　調 査 結 果

第１節　調査方法と結果概要

中道・十蔵坊・在家遺跡の調査地は、南北間が1,200ｍで、調査地の地目は水田と未舗装の農業道路であった。調査内容は、遺跡包蔵地の範囲と本調査対象範囲を確認する為、各水田に２×10ｍトレンチを21本開け試掘調査を行った。試掘の結果、各トレンチの土層は第35図の柱状図に示したように、堆積層の深度に若干の差異が認められるものの、基本的な安定した土層堆積状況であり、少数の土坑・ピット・溝状遺構が検出された。

協議の結果、本調査対象範囲を住居址等の遺構の確認された１トレンチ周辺と決め調査範囲をＡ～Ｃ区に区切り、Ａ・Ｃ区は本調査を行いＢ区は立会調査をすることとした。本調査の結果は各章で述べることにする。検出遺構数については、巻末の報告書抄録を参照されたい。

第２節　土層堆積状況

遺跡地は、西方の山裾から東方の天竜川に向かって緩やかに傾斜する広大な扇状地の中腹に位置して、扇状地を切り天竜川に流下する中小河川が地形を複雑にしている。

調査地の土層堆積状況は、中道・十蔵坊遺跡では現水田耕作土（Ⅰ層）、基盤整備事業時の人為的堆積土（Ⅱ層）、基盤整備以前の水田・畑等の耕作土（Ⅲ層）、シルト質の自然堆積土（Ⅳ層）、漸移層（Ⅴ層）、ローム層あるいは礫層（Ⅵ層）に分けられる。遺構検出面はⅣ層である。現水田１枚の西側部分は削平され、東側底部の盛土に使用し基盤整備が行われている。在家遺跡では、Ⅲ層の下に西山からの押し出しにより２次堆積した砂礫混じりのローム層が所在し、また、泥炭層の厚く堆積した低地も見られる。

第Ⅰ層：10ＹＲ３/２（黒褐色）現水田の耕作土。締り強、粘性強。

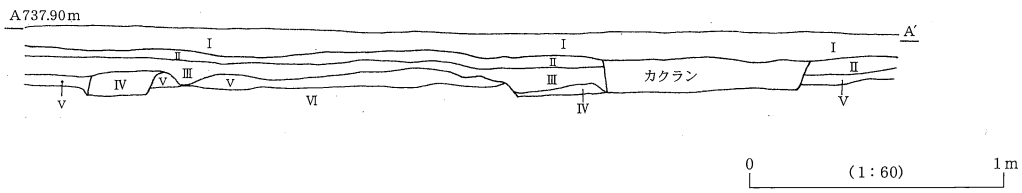
第Ⅱ層：10ＹＲ２/３（黒褐色）基盤整備事業時の人為的堆積土。締り強、粘性中。

第Ⅲ層：7.5ＹＲ２/２（黒褐色）基盤整備以前の水田・畑等の耕作土。径１～２cmの礫を５％含む。締り弱、粘性強。

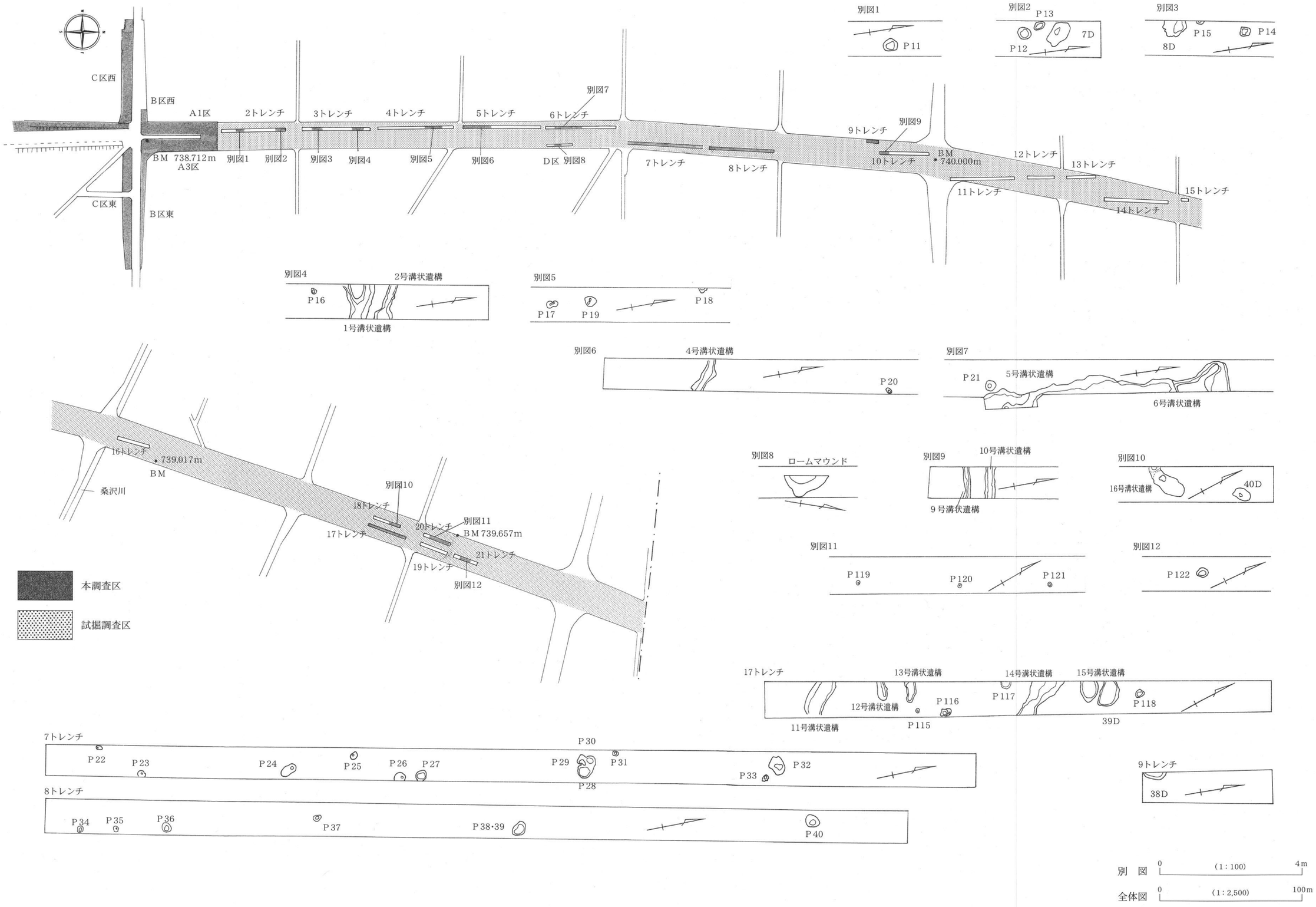
第Ⅳ層：7.5ＹＲ２/３（極暗褐色）遺構確認面。締り中、粘性強。

第Ⅴ層：10ＹＲ４/３（にぶい黄褐色）ローム粒子を30％以上含む。締り中、粘性強。

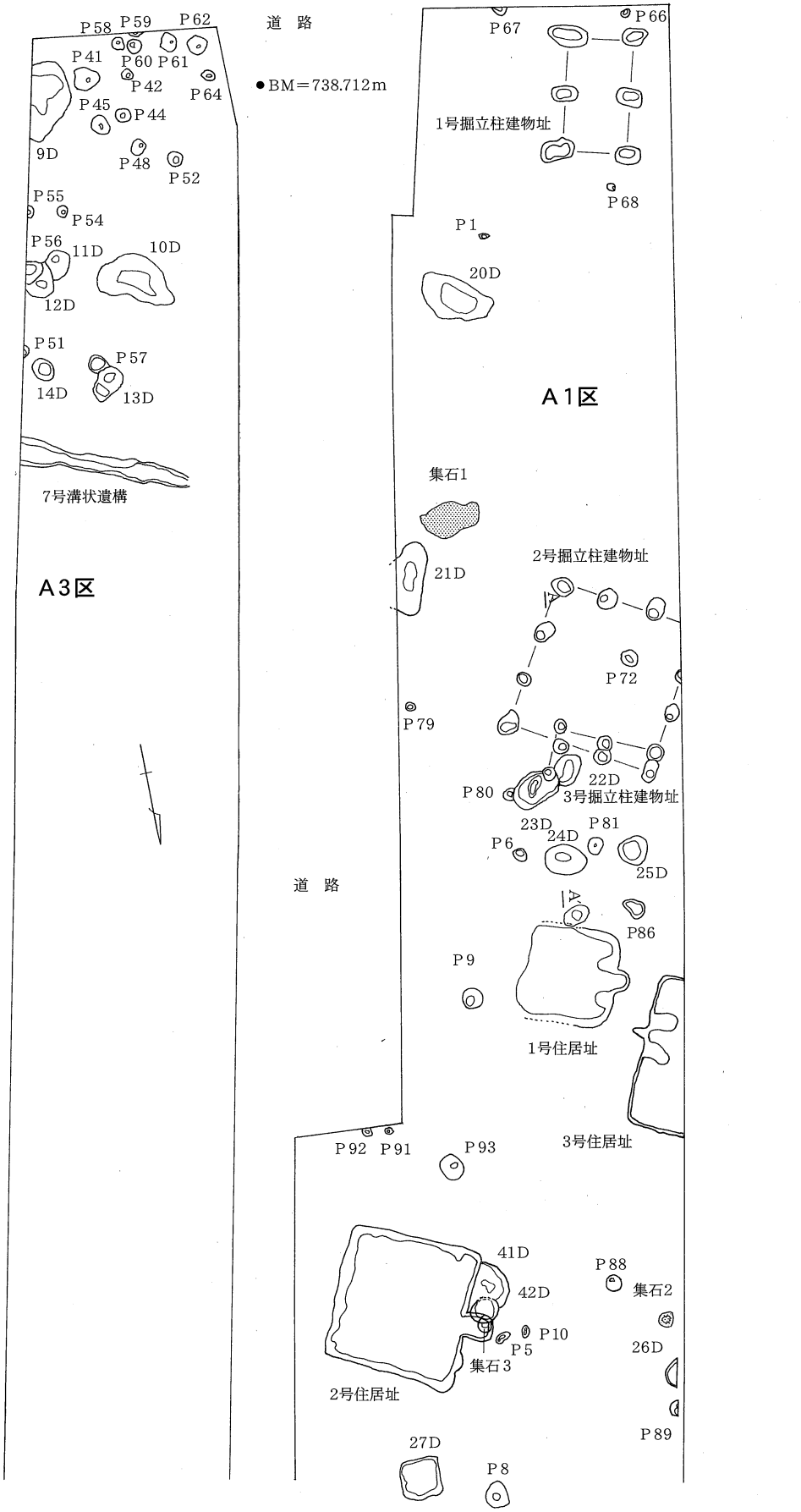
第Ⅵ層：10ＹＲ５/６（黄褐色）ローム（テフラ）層、あるいは礫層。



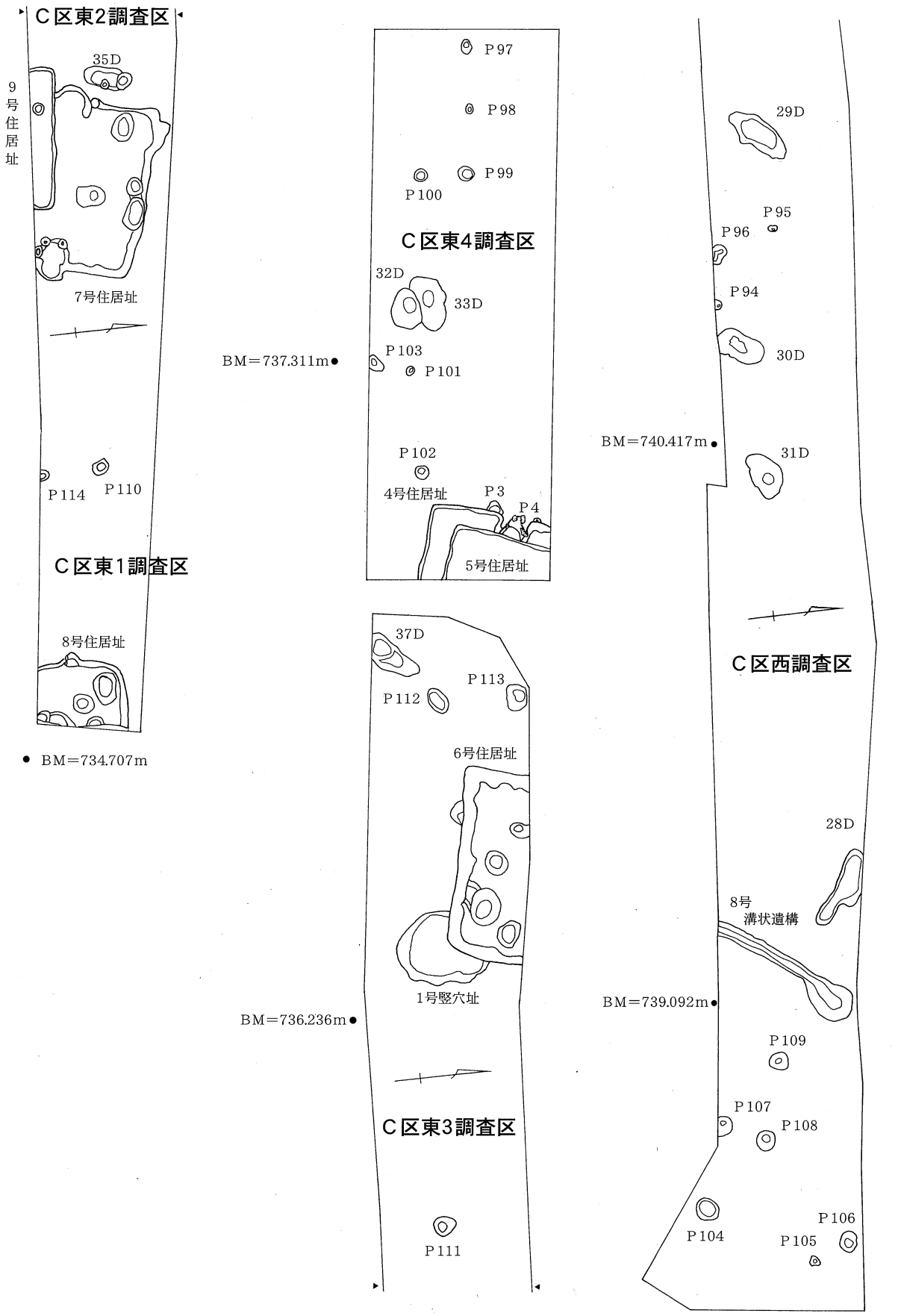
第３図　Ａ１区土層断面図



第４図　全体図・トレンチ設定図及び別図



第５図　Ａ１区・Ａ３区全体図



第6図　C区西・C区東全体図

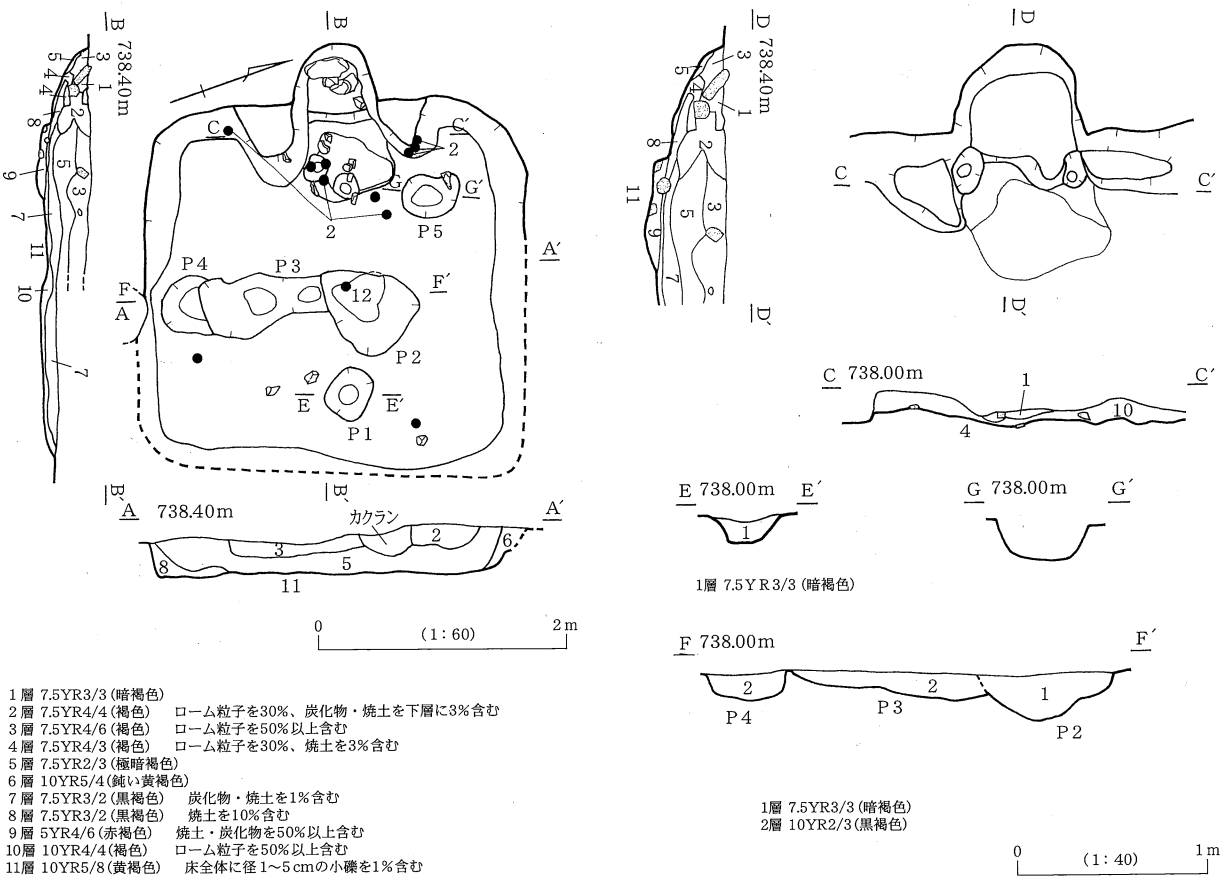
0　(1:200)　5m

第Ⅳ章　遺構と遺物

第１節　検出遺構

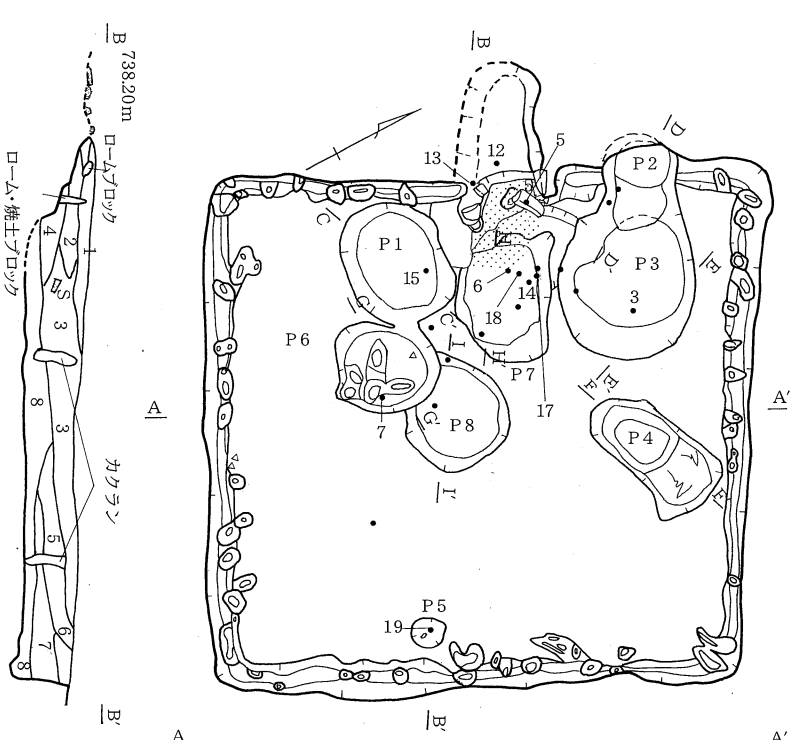
１　竪穴住居址（第７～14図）

竪穴住居址は、立会調査で確認されたものを含め10棟を検出している。その内、６・７号住居址の２棟が奈良時代、１～５・８号住居址の６棟が奈良時代末葉～平安時代初頭、10号住居址の１棟が奈良時代？、９号住居址の１棟が平安時代？に属するものと判断した。２号住居址は壁残高が38～50cmと深かった。水田造成時にも上部を削平されることなく、住居址の残りが非常に良く、カマド以外は完全な形で検出された。住居を廃絶したときに持ち去ったものか、遺物の出土量は少ないものの、カマド内部から底部ヘラケズリの高台付坏が、また、鉄鏃が出土している。住居址の特徴としては大きさは標準で柱穴が無く、周溝が巡る。床面のカマド付近に焼土を含む土坑が多く検出され、堅固な貼床が施された。使用頻度が高い住居址であると判断した。今回の調査ではカマドの残りが良いものが多く、石芯粘土カマドを構築する技術に優れていたものと思われる。尚、各住居址の詳細については第２表にて記述した。



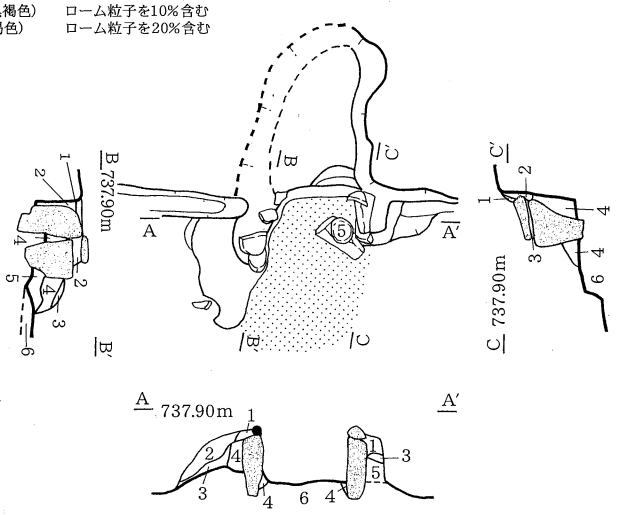
1層 7.5YR3/3（暗褐色）
2層 7.5YR4/4（褐色）　ローム粒子を30%、炭化物・焼土を下層に3%含む
3層 7.5YR4/6（褐色）　ローム粒子を50%以上含む
4層 7.5YR4/3（褐色）　ローム粒子を30%、焼土を3%含む
5層 7.5YR2/3（極暗褐色）
6層 10YR5/4（鈍い黄褐色）
7層 7.5YR3/2（黒褐色）　炭化物・焼土を1%含む
8層 7.5YR3/2（黒褐色）　焼土を10%含む
9層 5YR4/6（赤褐色）　焼土・炭化物を50%以上含む
10層 10YR4/4（褐色）　ローム粒子を50%以上含む
11層 10YR5/8（黄褐色）　床全体に径1～5cmの小礫を1%含む

第７図　１号住居址実測図

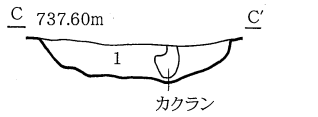


1層 7.5YR3/1(黒褐色)
2層 2.5YR3/4(暗赤褐色) 炭化物を3%、焼土を30%含む
3層 2.5YR3/2(暗赤褐色) ローム粒子・炭化物を3%含む
4層 7.5YR4/3(褐色) ローム粒子・炭化物・焼土を5%含む
5層 10YR5/6(黄褐色) ローム粒子を30%含む
6層 10YR6/6(明黄褐色) ローム粒子を50%以上含む
7層 10YR4/4(褐色) ローム粒子を20%、黒色土を20%含む
8層 10YR4/6(褐色) ローム粒子を20%含む
9層 10YR2/3(黒褐色) ローム粒子を10%含む
10層 10YR4/6(褐色) ローム粒子を20%含む

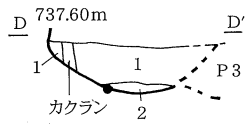
0 (1:60) 2m



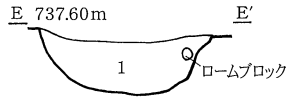
1層 10YR4/3(鈍い黄褐色) ローム粒子を30%含む
2層 10YR5/8(黄褐色) カマド石の貼りつけ粘土
3層 10YR4/3(鈍い黄褐色) ローム粒子を30%含む
4層 10YR3/3(暗褐色) 炭化物・焼土を20%含む
5層 10YR5/8(黄褐色) カマド石の貼りつけ粘土
6層 10YR5/8(黄褐色) ローム層



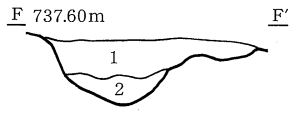
1層 7.5YR2/2(黒色) ローム粒子を3%、焼土を上部に5%含む



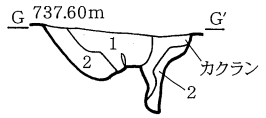
1層 7.5YR3/2(黒褐色) 炭化物・焼土を10%含む
2層 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子を30%以上含む



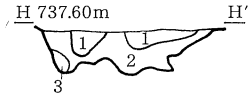
1層 7.5YR3/2(黒褐色)



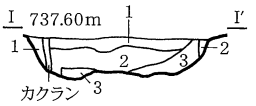
1層 7.5YR3/2(黒褐色) ローム粒子を20%、炭化物を5%含む
2層 7.5YR4/4(褐色) ローム粒子を30%含む



1層 10YR4/3(鈍い黄褐色) ローム粒子を30%含む
2層 10YR6/6(明黄褐色) ローム粒子を50%以上含む



1層 2.5YR3/6(暗赤褐色) 焼土を50%以上、炭化物を10%含む
2層 10YR5/6(黄褐色) ローム粒子を50%以上、焼土を10%、炭化物を10%含む
3層 7.5YR3/2(黒褐色) ローム粒子を50%含む



1層 10YR5/6(黄褐色) 非常に堅いローム
2層 10YR5/6(黄褐色) 少し締まりが弱い
3層 10YR4/3(鈍い黄褐色) ローム粒子に黒が混入

0 (1:40) 1m

第8図　2号住居址実測図

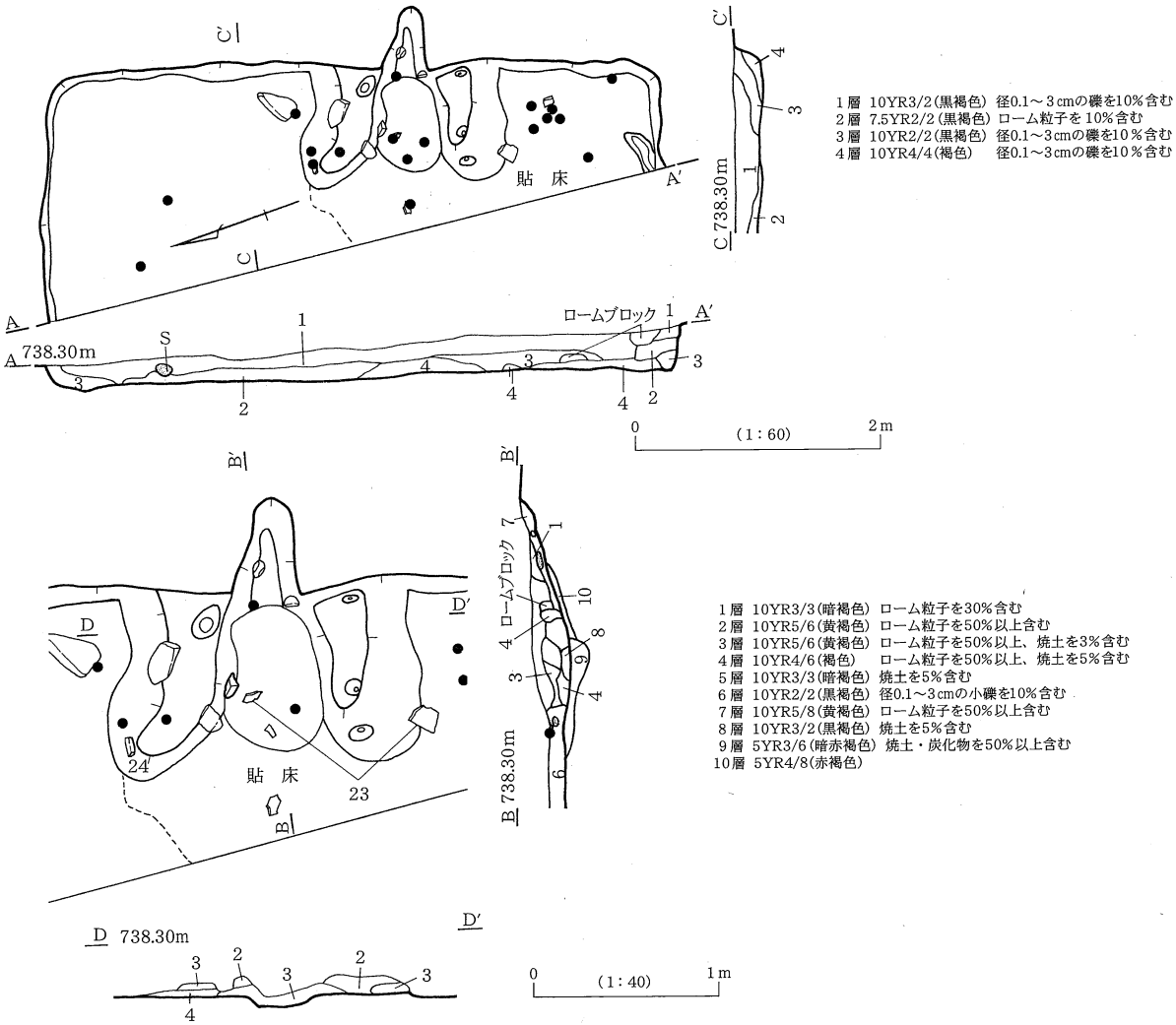
2　掘立柱建物址（第15～17図）

掘立柱建物址は３棟検出した。形態は１号掘立柱建物址２間×１間、２号掘立柱建物址３間×３間、３号掘立柱建物址（２間×２間）であった。１号掘立柱建物址については、長軸はN－15°－Wを示し、ピット２～５の柱穴底部の締りが非常に堅固で、柱痕を２基づつ確認したことから柱穴を入れ替えたものと判断した。

出土遺物としては須恵器の坏蓋や土師器の甕があり、出土住居址と同一時期に位置付けた。２号掘立柱建物址は、長軸はN－25°－Wを示し出土遺物はないがピット２～４・６は２柱穴底部の締りが非常に堅固で、３号掘立柱建物址と重複していた。なお、柱穴の切り合いが不明な為前後関係は掌握できなかった。３号掘立柱建物址は、調査区外に延びるものと思われる。

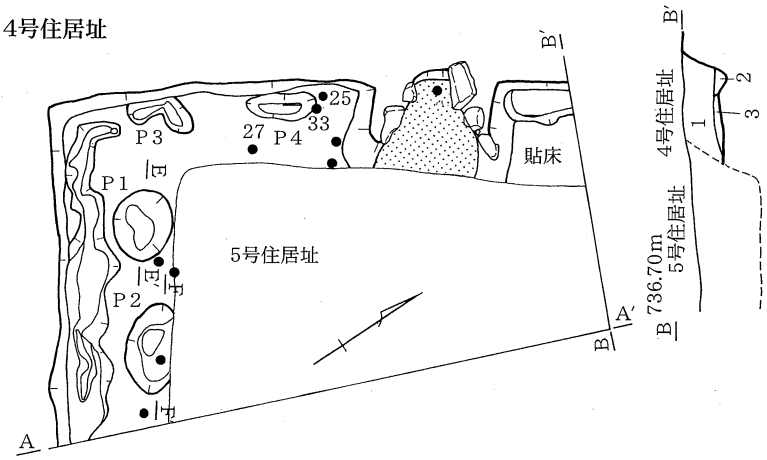
3　溝状遺構（第18図）

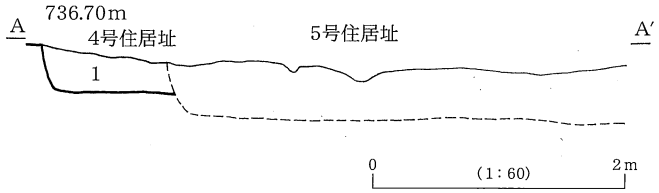
溝状遺構は18基検出された。地形的に西から東へ向かう自然流路と思われる。６トレンチの５・６号溝状遺構では、須恵器や土師器の甕片が出土している。土層堆積状況から湧水地と捉えた。５・６号溝状遺構以外からも土器片が僅かながら出土している。中道・十蔵坊遺跡の溝状遺構から出土している土器は須恵器と土師器が主体で、在家遺跡の溝状遺構では縄文土器であった。



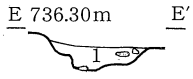
第９図　３号住居址実測図

4号住居址

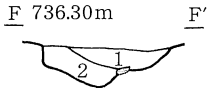




1層 10YR2/2(黒褐色) ローム粒子を5%、礫を1%、炭化物を3%、焼土を3%含む
2層 10YR3/3(暗褐色) 周溝 ローム粒子を10%、焼土を5%含む
3層 10YR4/6(褐色) 貼床 ローム粒子を50%、焼土を3%含む



1層 10YR3/4(暗褐色) ローム粒子を10%、炭化物を1%、焼土を3%、径1～3cmの礫を10%含む

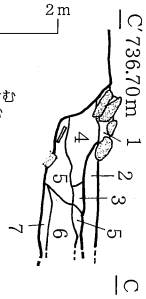


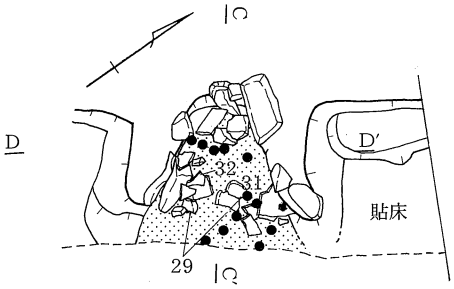
1層 10YR4/2(灰黄褐色) ローム粒子を10%、焼土を3%、炭化物を1%、径0.5～1cmの礫を3%含む
2層 10YR4/3(鈍い黄褐色) 焼土・炭化物を1%、径0.5～1cmの礫を3%含む

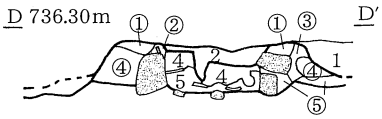
0 (1：40) 1m

1層 10YR2/2(黒褐色) ローム粒子を5%、礫を1%、炭化物を3%、焼土を3%含む
2層 10YR2/2(黒褐色) ローム粒子を3%、礫を1%、炭化物を1%、焼土を1%含む
3層 10YR2/2(黒褐色) ローム粒子を5%、炭化物を1%含む
4層 10YR2/3(黒褐色) ローム粒子を10%、炭化物を10%、焼土を1%含む
5層 2.5YR4/6(赤褐色) ローム粒子を50%以上、炭化物を3%、焼土を5%含む
6層 2.5YR5/6(黄褐色) ローム粒子を50%以上、炭化物を3%、焼土を5%含む
7層 2.5YR4/6(赤褐色) ローム粒子を5%、炭化物を3%、焼土を3%含む

①層 10YR6/8(明黄褐色) ローム粒子を50%以上含む
②層 10YR4/3(鈍い黄褐色) ローム粒子を30%、土器を含む
③層 10YR3/4(暗褐色) ローム粒子を20%含む
④層 10YR5/6(黄褐色) ローム粒子を50%以上含む
⑤層 10YR3/3(暗褐色) 焼土・炭化物を3%含む

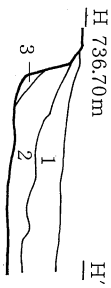


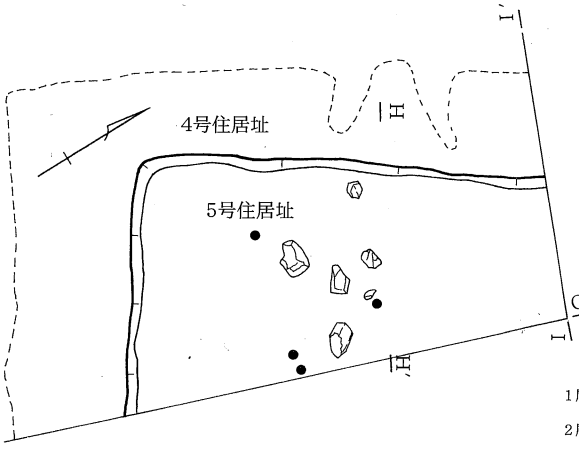


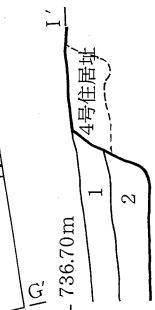


0 (1：40) 1m

5号住居址



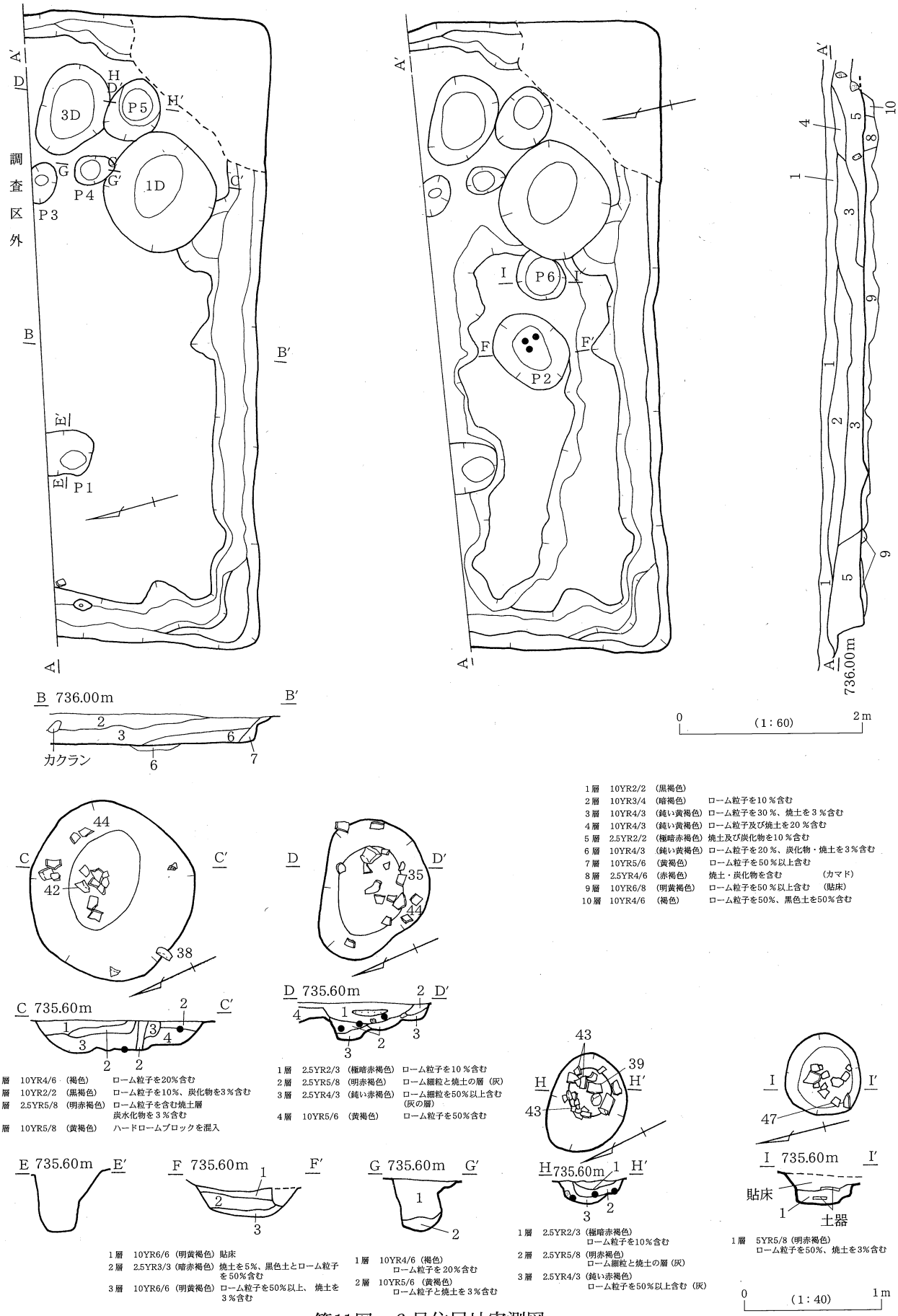




1層 7.5YR2/2(黒褐色) ローム粒子を3%、礫を3%、炭化物を1%、焼土を1%含む
2層 7.5YR2/2(黒褐色) ローム粒子を3%、礫を5%、炭化物を3%、焼土を3%含む
3層 7.5YR2/3(黒褐色) ローム粒子を3%、焼土を3%含む

0 (1：60) 2m

第10図　4・5号住居址実測図



1層　10YR2/2　(黒褐色)
2層　10YR3/4　(暗褐色)　ローム粒子を10％含む
3層　10YR4/3　(鈍い黄褐色)　ローム粒子を30％、焼土を3％含む
4層　10YR4/3　(鈍い黄褐色)　ローム粒子及び焼土を20％含む
5層　2.5YR2/2　(極暗赤褐色)　焼土及び炭化物を10％含む
6層　10YR4/3　(鈍い黄褐色)　ローム粒子を20％、炭化物・焼土を3％含む
7層　10YR5/6　(黄褐色)　ローム粒子を50％以上含む
8層　2.5YR4/6　(赤褐色)　焼土・炭化物を含む　(カマド)
9層　10YR6/8　(明黄褐色)　ローム粒子を50％以上含む　(貼床)
10層　10YR4/6　(褐色)　ローム粒子を50％、黒色土を50％含む

1層　10YR4/6　(褐色)　ローム粒子を20％含む
2層　10YR2/2　(黒褐色)　ローム粒子を10％、炭化物を3％含む
3層　2.5YR5/8　(明赤褐色)　ローム粒子を含む焼土層
炭水化物を3％含む
4層　10YR5/8　(黄褐色)　ハードロームブロックを混入

1層　2.5YR2/3　(極暗赤褐色)　ローム粒子を10％含む
2層　2.5YR5/8　(明赤褐色)　ローム細粒と焼土の層（灰）
3層　2.5YR4/3　(鈍い赤褐色)　ローム細粒を50％以上含む
(灰の層)
4層　10YR5/6　(黄褐色)　ローム粒子を50％含む

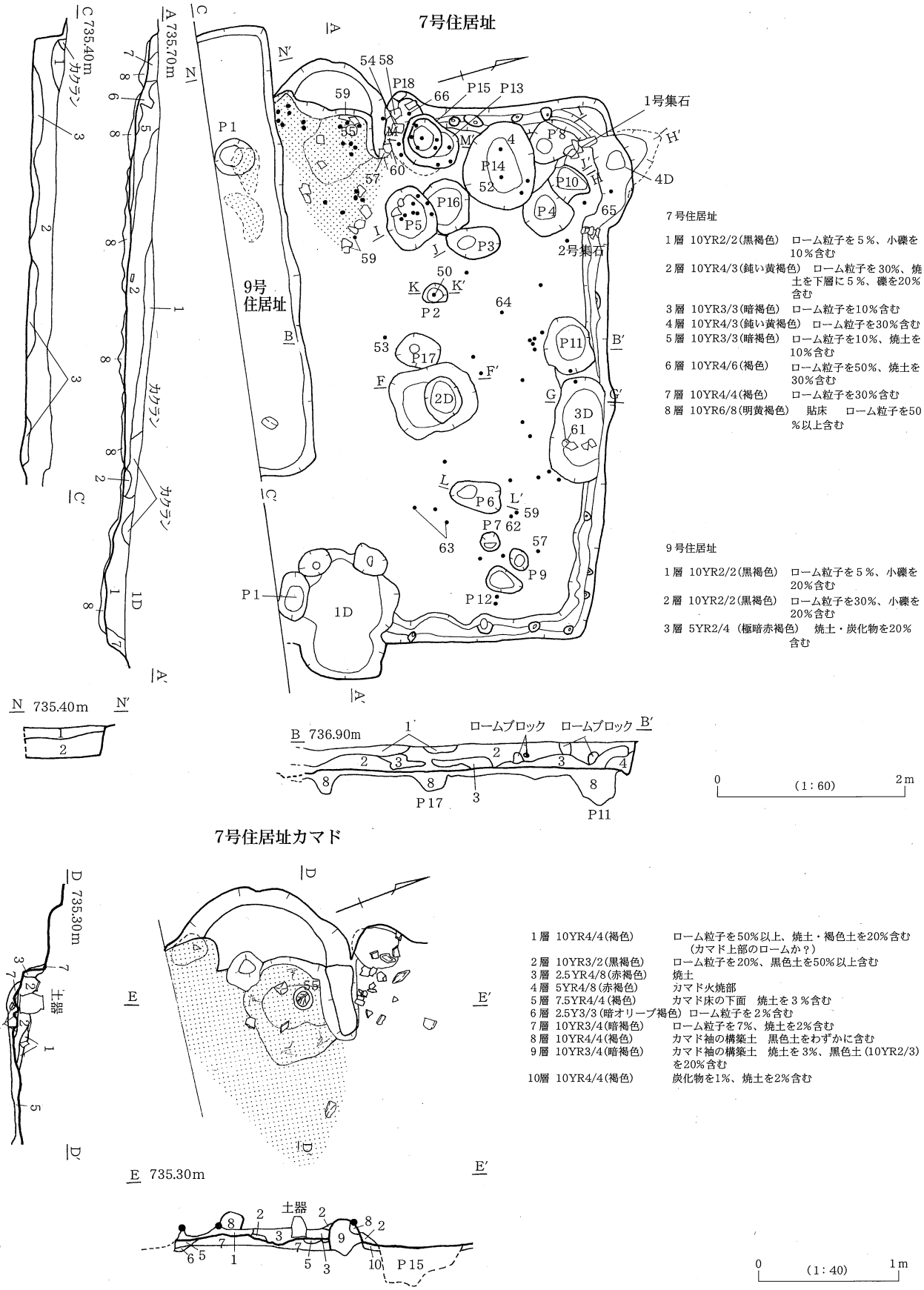
1層　10YR6/6　(明黄褐色)　貼床
2層　2.5YR3/3　(暗赤褐色)　焼土を5％、黒色土とローム粒子を50％含む
3層　10YR6/6　(明黄褐色)　ローム粒子を50％以上、焼土を3％含む

1層　10YR4/6　(褐色)
ローム粒子を20％含む
2層　10YR5/6　(黄褐色)
ローム粒子と焼土を3％含む

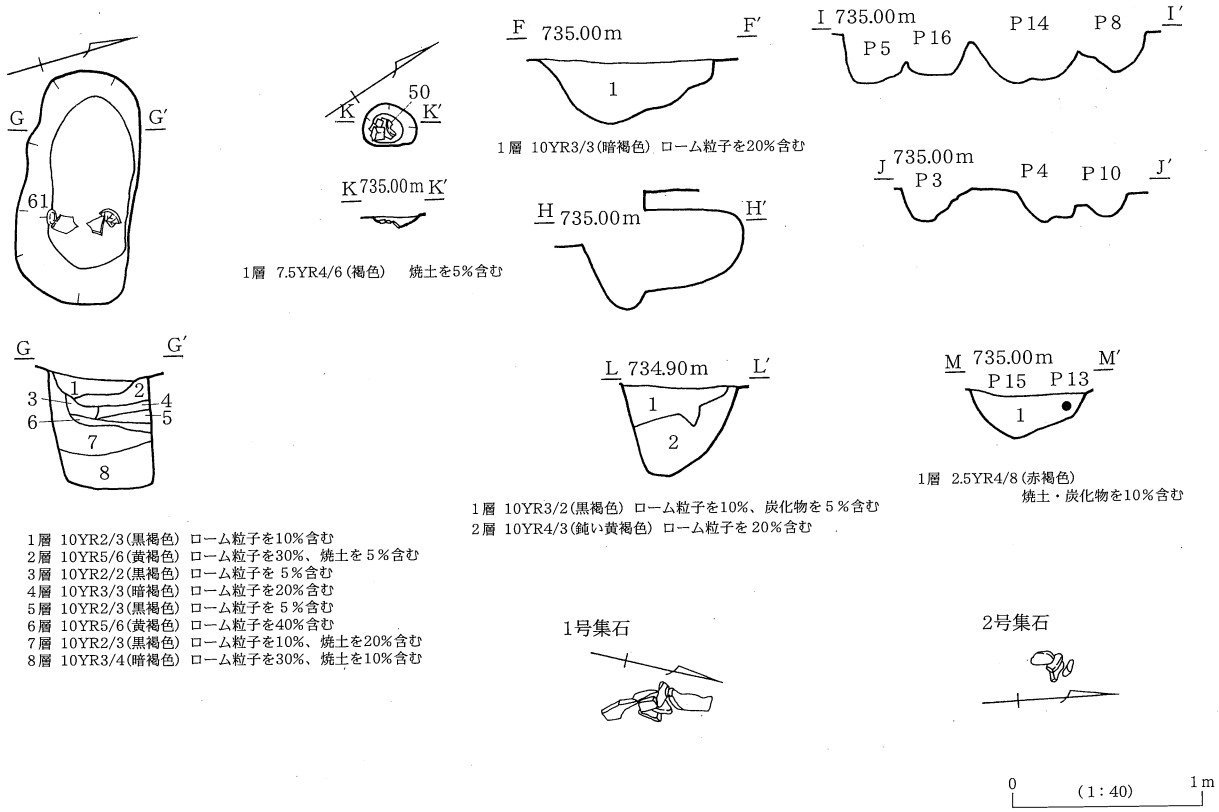
1層　2.5YR2/3　(極暗赤褐色)
ローム粒子を10％含む
2層　2.5YR5/8　(明赤褐色)
ローム細粒と焼土の層（灰）
3層　2.5YR4/3　(鈍い赤褐色)
ローム粒子を50％以上含む（灰）

1層　5YR5/8　(明赤褐色)
ローム粒子を50％、焼土を3％含む

第11図　6号住居址実測図



第12図　7・9号住居址実測図1



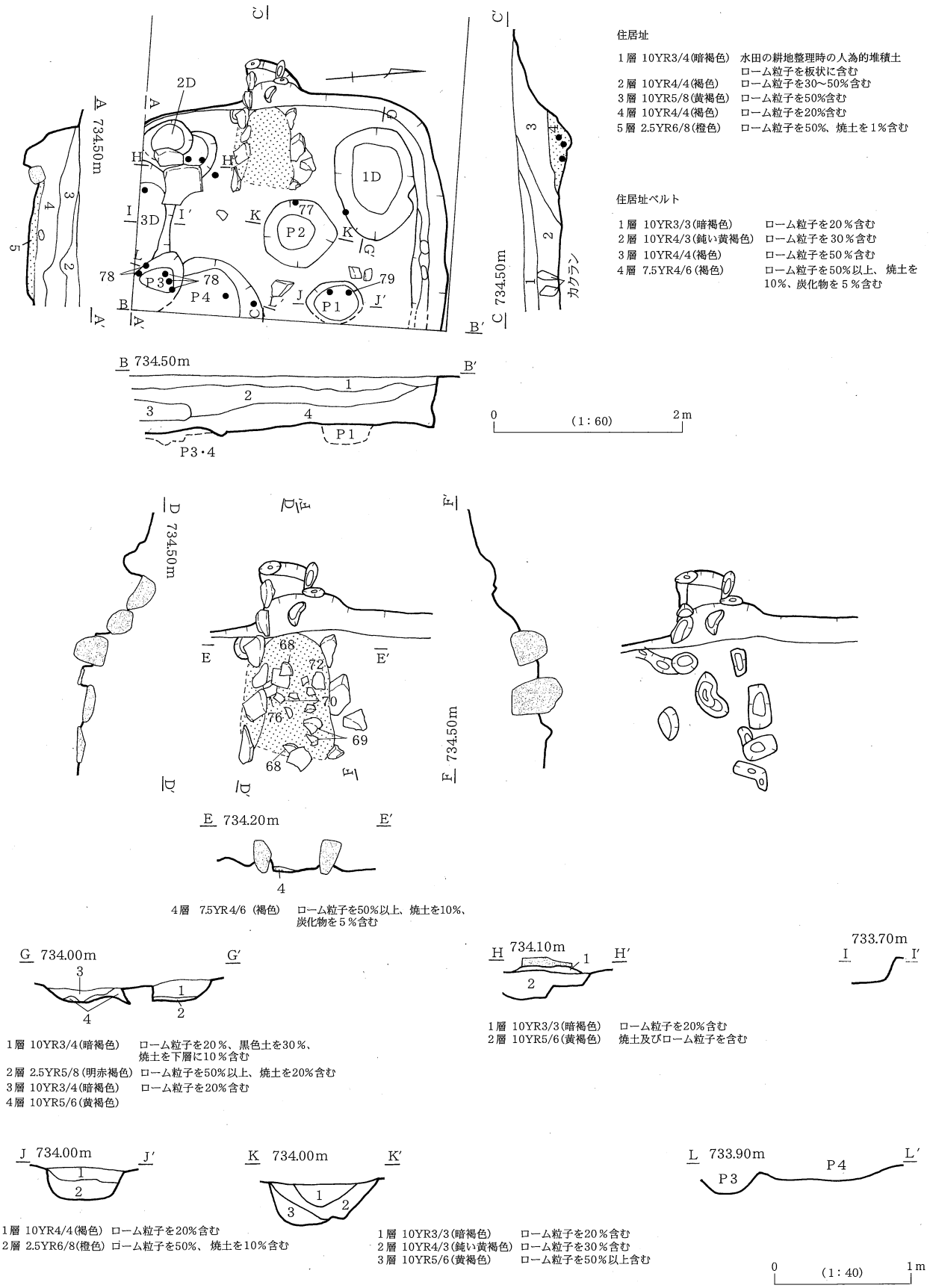
第13図　7・9号住居址実測図2

4　集石（第19図）

1号集石は削平されて形状は不明である。土師器や須恵器の出土も多く、覆土には焼土や炭化物が含まれていた。集石と捉えたが他の遺構の可能性もある。2号集石は円形を呈し径40cm、深さ13cmで小型であるが、石は緻密に詰まっており、覆土は黒褐色土であった。3号集石は径1.0m×0.8mの楕円形を呈する土坑で、底部は相当堅く焼結し、内部には焼土と僅かに石が詰まり、上部には霧ヶ峰産と思われる鉄平石が敷き詰められ、出土した石すべては火熱を受け非常に脆くなっていた。

5　竪穴址（第19図）

径3.3m×2.6m、深さ0.65mの楕円形を擁し、遺物は出土していない。床は平坦で、上部は6号住居址に切られていた。時期は不明。



第14図　8号住居址実測図

第２表　住居址一覧表

1号住居址

位　置	Ａ　区	重複関係	なし		
プラン	隅丸方形	規　模	2.5×2.7m	主　軸	N－70°－W
壁残高	25cm～30cm	床の状況	ローム交じりの砂礫層上で床は軟弱。貼床の痕跡は認められない。		
ピット	Ｐ1～Ｐ5（Ｐ1・Ｐ4・Ｐ5は柱穴？）				
カマド	石芯粘土カマドで、西壁中央に位置する。両袖に囲まれた前方部に火床面があり、煙道天井部に構築時の石組みが残る。				
遺　物	上部の覆土は削平されている。遺物の出土量は少ない。須恵器では坏（1）、土師器では長胴甕（2）がカマド付近から出土している。				
時　期	奈良時代末葉～平安時代初頭				
備　考	上部は水田造成時に削平されている。				

2号住居址

位　置	Ａ　区	重複関係	42号土坑・３号集石に切られる。41号土坑を切る。		
プラン	隅丸方形	規　模	3.6×3.9m	主　軸	N－60°－W
壁残高	38cm～40cm	床の状況	全体的に堅固に叩き締められている。		
ピット	Ｐ1～Ｐ8。Ｐ7はカマド前面火床部の下に位置する。				
カマド	石芯粘土カマドで、西壁中央に位置する。両袖に囲まれた中央部に火床面があり、支脚と思われる石が残り、掘り方からは火床部中央に痕跡を示すピット状の窪みが認められた。カマドの残存度は非常によく、構築時の芯石配置は、上部が扁平で下部は小さく逆三角形に構築。芯石の内面がカマド内壁と思われ、火熱を受けて赤褐色を帯びていた。煙道部は42号土坑と火葬墓に切られ不明確。				
遺　物	住居址を廃絶した時に持ち去ったのか、出土量は少ない。須恵器の坏と土師器の甕が同量出土している。須恵器では坏蓋（3・4）、坏（5～16）、土師器では坏（17）、甕（18～22）が出土。坏（5）はカマド内部に落ち込んでいた。付け高台で底部ヘラケズリ、底部は中心に向かって下がる。鉄製品では、尖根式の鉄鏃（1）が出土。鏃身部は片刃鏃で茎部には巻きつけた紐状植物繊維痕が認められる。				
時　期	奈良時代末葉～平安時代初頭				
備　考	壁はほぼ垂直で周溝を巡らす。壁高が40cmと深いため、住居址の残存度がよい。				

3号住居址

位　置	Ａ　区	重複関係	なし		
プラン	隅丸方形	規　模	(1.1)×4.5m	主　軸	N－108°－E
壁残高	15cm～27cm	床の状況	２次堆積土であるローム混じりの礫の上に、ロームの貼床が部分的に認められた。		
ピット	未確認				
カマド	東壁中央に位置する。袖部を構築する盛り土の一部は残存するが芯石はなく、ピット状の窪みが確認された。				
遺　物	土師器（23～24）を図化したが、他には土師器甕の破片が少量、須恵器大型甕の破片が１点出土。				
時　期	奈良時代				
備　考	住居址の3/2は調査区外であった。				

4号住居址

位　置	Ｃ区　東４	重複関係	５号住居址に切られる。		
プラン	方形	規　模	(2.1)×(4.0)m	主　軸	N－55°－W
壁残高	22cm～28cm	床の状況	カマド北は堅固な貼床が認められた。		
ピット	Ｐ1～Ｐ4				
カマド	石芯粘土カマドで、西壁中央に位置する。芯石は下の礫層まで掘り込んで構築されている様子はない。				
遺　物	5号住居址に切られている為、カマド周辺のみのプラン確認であったが、遺物量は多く、須恵器では坏蓋（25・26）、高台付坏（27）が、土師器では坏（28）、小型甕（29・30）、甕（31～34）が出土。（25・26）はつまみ部は欠損、頂部は回転ヘラケズリ。（29～32）はカマド出土。甕は口縁緩やかにわずかに外反し、ハケ調整が多い。図には表していないが、ロクロ成形の長胴甕や碗型鉄滓がカマドから出土している。				
時　期	奈良時代末葉～平安時代初頭				
備　考	周溝が巡る。				

5号住居址

位　置	Ｃ区　東４	重複関係	４号住居址を切る		
プラン	隅丸方形？	規　模	(3.3)×(1.5)m	主　軸	N－143°－W
壁残高	40cm～44cm	床の状況	締りは中で、堅固な床面は認められなかった。		
ピット	未確認				
カマド	不　明				
遺　物	出土量は極少なく実測できるものはなかったが、４号住居址と同時代の須恵器片や土師器片が出土している。須恵器では壷の底部が出土。				
時　期	奈良時代末葉～平安時代初頭				
備　考	調査区外に達しており、全形は掌握できなかった。周溝は確認できなかった。				

6号住居址

位　置	C区　東3	重複関係	1号竪穴址を切る。		
プラン	隅丸方形	規　模	(5.8)×(1.9)m	主　軸	N－102°　－E
壁残高	28cm～30cm	床の状況	凹凸はあるが、堅固な貼床が床全面に施されていた。		
ピット 土　坑	P1～P6、1D、3D。P4は底部が堅固で柱穴と捉えた。1D・3D、P5・P6は炭化物及び焼土の出土量が多く、土器片も多く包含されていた。P2・P6は床下ピット。				
カマド	東壁中央に位置する石芯粘土カマドであるが、調査区外のため未調査。				
遺　物	須恵器では坏(35～39)が、土師器では甕(40・41、43～49)と甑(42)、横瓶(図化なし)が出土している。 出土した須恵器坏の底部はすべて回転ヘラキリかヘラケズリ調整であった。特徴としては器形をとどめない甕が多量に出土しており、器面の調整はナデが主体である。カマド付近では、胴部球状で口縁部は「く」の字状に外反するハケ調整で極薄手の小型甕が出土。(42)は底部に不規則の穴を持つ器形の甑。				
時　期	奈良時代				
備　考	幅40ｃｍ前後の広めな周溝を巡らす。1辺6.7mで、出土住居址の中では一番大型。住居址北側1/2は調査区域外のため未調査。				

7号住居址

位　置	C区　東2	重複関係	9号住居址に切られる。		
プラン	隅丸方形	規　模	5.3×(3.2)m	主　軸	N－67°　－W
壁残高	10cm～24cm	床の状況	床面は土坑やピットが多い為凹凸が激しい。カマド前面には堅固な貼床が認められた。		
ピット 土　坑	P1～18、1～4D。P3・P6は柱穴と捉えた。P5・P15・P18には土器片と焼土が多量に認められ、上部には貼床が施されているものもあった。				
カマド	西壁中央に位置する。カマド内の支脚に小型甕を逆位にして用いている。地山を掘り残して袖を構築している為か、袖の残存度はよくない。				
遺　物	須恵器の出土は僅かであった。須恵器では坏(50・51)が、土師器では甕(52～67)が出土している。また須恵器では坏蓋をはじめとして大型甕(3固体以上出土)すべてが他地域からの搬入品であった。土師器甕の出土量が多く、器面調整はナデが主体である。他地域からの搬入品である薄手の小型甕にはハケ調整が見られた。鉄製品では刀子(2)が出土。石器では石鏃(1)と　敲石(8)が出土。				
時　期	奈良時代前半				
備　考	周溝が巡る。東壁には入口施設？が設けられている。集石(1・2)は、編物石と捉えた。1辺が6mあり、大型の住居址である。				

8号住居址

位　置	C区　東1	重複関係	なし		
プラン	隅丸方形	規　模	(2.2)×(2.9)m	主　軸	N－84°　－W
壁残高	42cm～43cm	床の状況	軟弱		
ピット・土坑	P1～4、1～3D。2Dの上には扁平な鉄平石(両輝石安山岩・霧ヶ峰産)が載っていた。				
カマド	西壁中央に位置する。土層堆積状況は褐色系のローム土で、カマド粘土との区別はできなかったが、石の配列から石芯粘土カマドと捉えた。袖部の芯石は土圧により少々外に開き気味ではあるものの、上部は扁平で逆三角形に置き、カマド火床部は床面より低く構築。また、煙道は外部へ突出し、火床部に対し登り窯状(住居址壁面は垂直)に段部を形成していた。				
遺　物	須恵器では坏蓋(68)坏(69～74)が、土師器では甕(75～79)が出土している。須恵器坏(69)は「若」？が記入された墨書土器。鉄製品では刀子(3)が出土。				
時　期	平安時代初頭				
備　考	周溝が巡る。				

9号住居址

位　置	C区　東2	重複関係	7号住居址を切る。		
プラン	隅丸方形	規　模	(4.7)×(0.6)m	主　軸	N－81°　－W
壁残高	20cm～31cm	床の状況	小礫の層が床面になっており軟弱である。部分的に炭化物と焼土を20％含む堅固な床面が確認されたことから、貼床が施されていたと思われる。		
ピット	P1				
カマド	未確認				
遺　物	須恵器では大型甕1片、土師器では甕5片のみの出土であった。石器では砥石(9)が出土。				
時　期	平安時代				
備　考	ごく一部の検出であった。周溝は確認できなかった。				

10号住居址

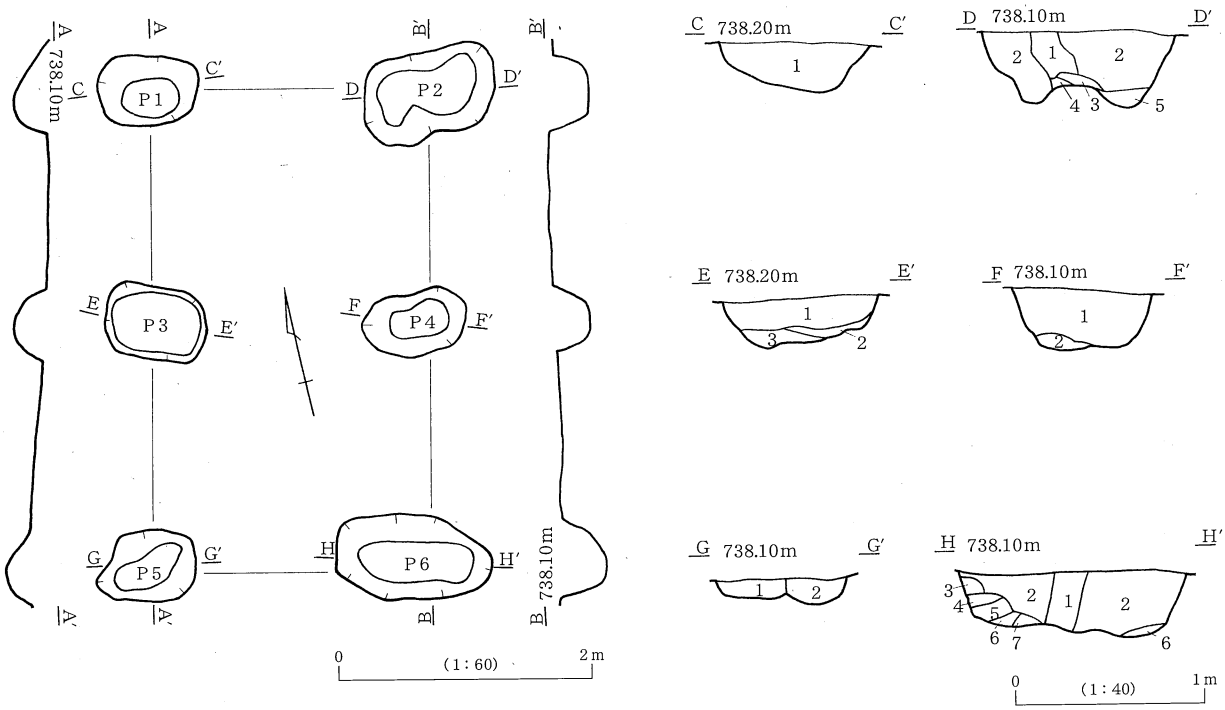
位　置	B　区	重複関係	不　明		
プラン	不　明	規　模	(2.5)×(1.9)m	主　軸	不　明
壁残高	不　明	床の状況	軟　弱		
ピット	未確認				
カマド	西壁中央に位置する。カマド内からは支脚石が出土。				
遺　物	灰釉陶器の坏、土師器の内外面ヘラミガキ甕が出土している。				
時　期	奈良時代？				
備　考	立会い調査のみの為、詳細は不明。				

6　ロームマウンド（第19図）

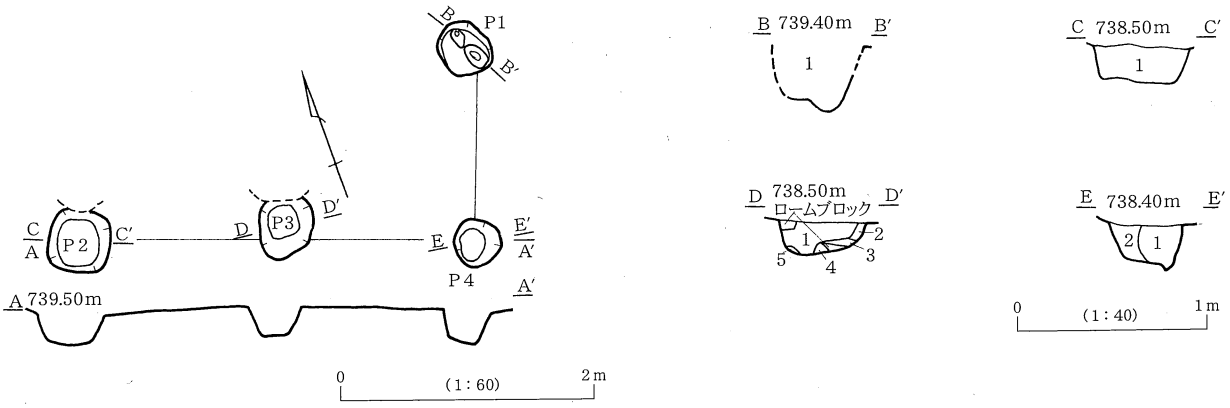
Ｄ区のトレンチより検出された。プランはやや不整形な円形を呈し、南北2.37m×東西（－）、深さ60cmを測る。マウンド部は僅かながら盛り上がり、テフラを主体とする明赤褐色土で２層目には黒褐色土が地山との間に挟まれていた。遺物の出土はなかった。

7　土坑（第20～22図）

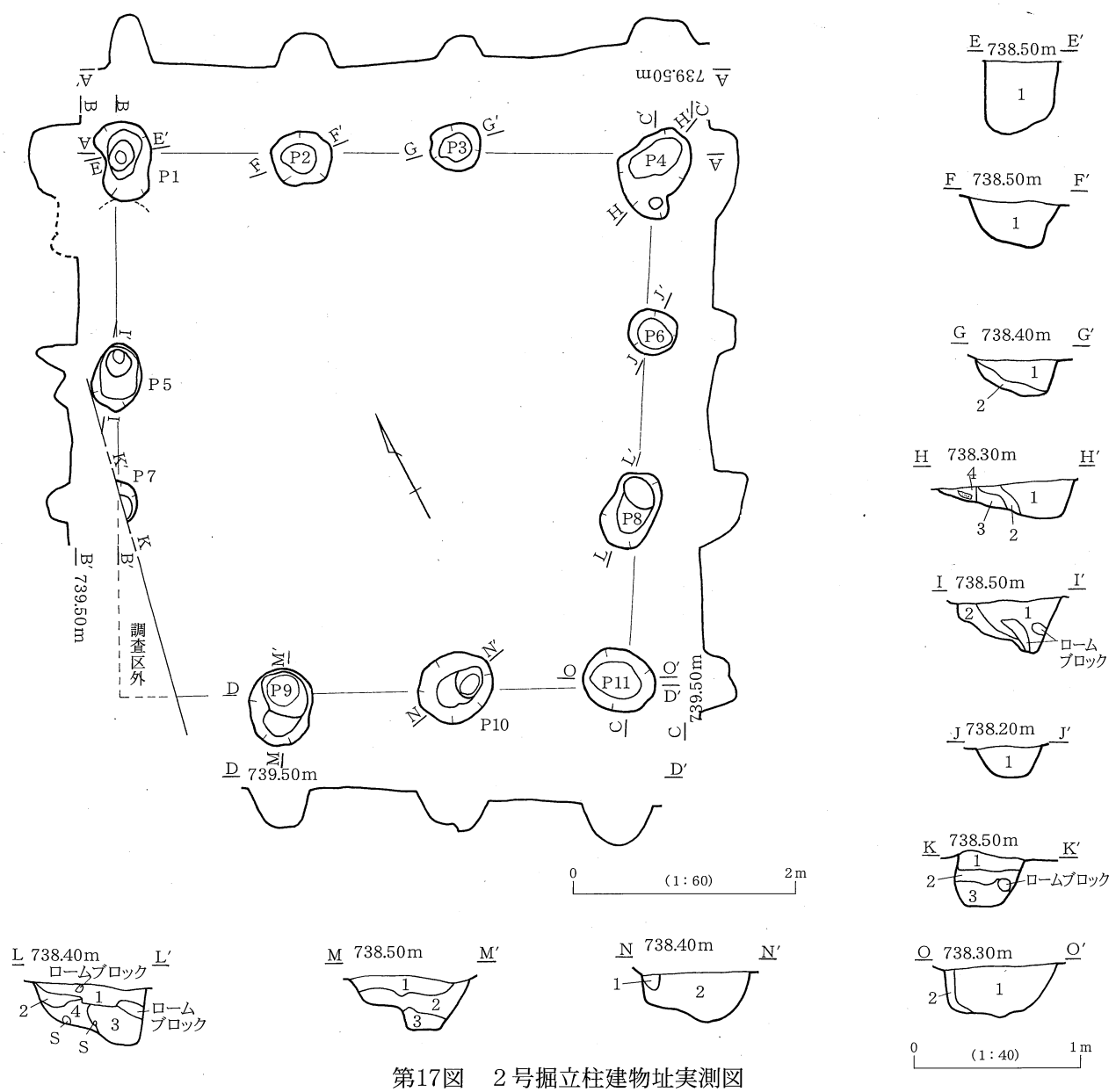
調査区から29基の土坑を検出した。比較的大型で覆土が複数に分層できたもので、断面鍋底型か擂鉢型を土坑とした。９号土坑からは須恵器坏蓋・坏（第32図80・83）が、20号土坑からは須恵器高台付坏（第32図87）が、11・12・38号土坑からは土師器が、9・11・33号土坑からは縄文中期の土器が出土している。



第15図　１号掘立柱建物址実測図



第16図　３号掘立柱建物址実測図



第17図　２号掘立柱建物址実測図

第３表　１号掘立柱建物址一覧表

No.	規模（cm）			平面形	覆　土			出土遺物	備　考
	長	短	深			締り	粘性		
Ｐ１	80	44	23	楕円形	1層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を５％含む	強	中	土師器　1	
Ｐ２	101	60	38	楕円形	1層　7.5ＹＲ4/3（褐色）　ローム粒子を20％含む 2層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む 3層　10ＹＲ3/1（黒褐色） 4層　10ＹＲ3/1（黒褐色） 5層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む	中 中 中 強 中	中 中 中 中 中	土師器　2	
Ｐ３	80	56	25	楕円形	1層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を5％含む 2層　7.5ＹＲ5/8（明褐色）　ローム粒子を50％以上含む 3層　7.5ＹＲ2/1（黒色）　ローム粒子を20％含む	強 中 強	中 強 強	土師器　1	
Ｐ４	78	47	31	楕円形	1層　10ＹＲ3/2（黒褐色）　炭化物10％、ローム粒子を10％含む 2層　7.5ＹＲ2/1（黒色）　ローム粒子を20％含む	中 強	中 強	須恵器　1	
Ｐ５	78	55	12	不整形	1層　7.5ＹＲ2/1（黒色）　ローム粒子を20％含む 2層　7.5ＹＲ3/1（黒褐色）　ローム粒子を20％含む	強 強	強 中	須恵器　1	

No.	規模（cm）			平面形	覆　土			出土遺物	備　考
	長	短	深			締り	粘性		
P 6	123	54	34	楕円形	1層　7.5ＹＲ4/3（褐色）　ローム粒子を20％含む 2層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む 3層　7.5ＹＲ4/3（褐色）　ローム粒子を20％含む 4層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む 5層　7.5ＹＲ4/3（褐色）　ローム粒子を20％含む 6層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む 7層　7.5ＹＲ4/6（褐色）　ローム粒子を30％含む	中 中 中 中 中 中 弱	中 中 中 中 中 中 中	第32図No.81 土師器　1	

第４表　２号掘立柱建物址一覧表

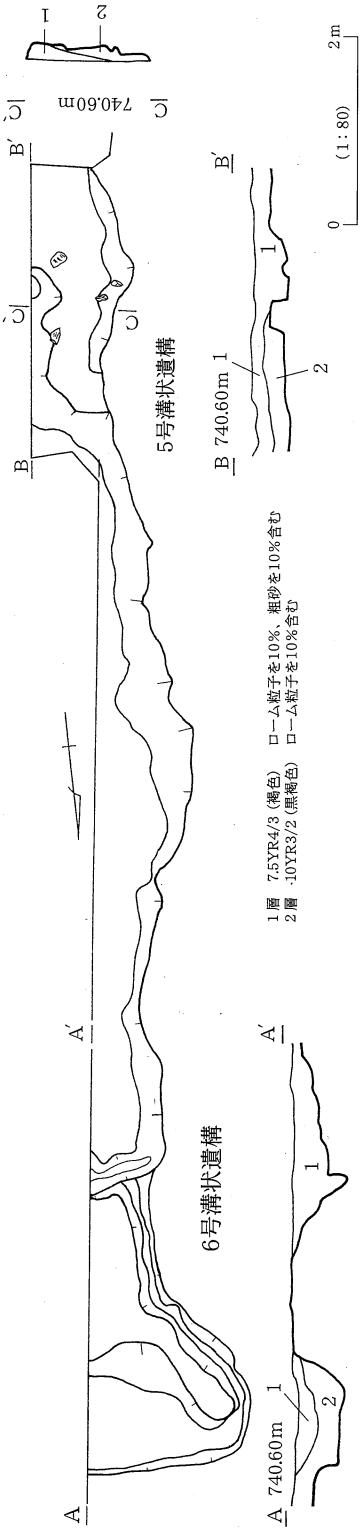
No.	規模（cm）			平面形	覆　土			出土遺物	備　考
	長	短	深			締り	粘性		
P 1	70	38	42	楕円形	1層　10YR4/4（褐色）　ローム粒子を40％含む	中	中		
P 2	52	46	26	円　形	1層　10ＹＲ3/3（暗褐色）	強	中		
P 3	47	41	21	円　形	1層　7.5ＹＲ3/2（黒褐色）　ローム粒子を20％含む 2層　7.5ＹＲ4/3（褐色）　ローム粒子を40％含む	強 強	中 中		
P 4	83	63	20	不整形	1層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む 2層　カクラン 3層　7.5ＹＲ3/2（黒褐色）　ローム粒子を20％含む 4層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む	中 強 中	中 中 中		
P 5	63	43	29	楕円形	1層　10ＹＲ2/1（黒色） 2層　10ＹＲ4/4（褐色）　ローム粒子を20％含む	中 中	中 中		
P 6	44	40	17	円　形	1層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む	中	中		
P 7	40	(11)	30	不　明	1層　10ＹＲ2/1（黒色） 2層　10ＹＲ3/2（黒褐色）　ローム粒子を10％含む 3層　10ＹＲ2/2（黒色）	中 強 強	中 中 中		
P 8	71	41	32	楕円形	1層　7.5ＹＲ3/2（黒褐色）　ローム粒子を20％含む 2層　7.5ＹＲ3/2（黒褐色） 3層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む 4層　7.5ＹＲ3/2（黒褐色）　ローム粒子を20％含む	強 中 中 強	中 中 中 中		
P 9	68	54	30	楕円形	1層　7.5ＹＲ3/2（黒褐色）　ローム粒子を20％含む 2層　7.5ＹＲ2/3（極暗褐色）　ローム粒子を10％含む 3層　7.5ＹＲ3/2（黒褐色）　ローム粒子を20％含む	強 中 強	中 中 中	縄文　1	
P10	66	64	29	円　形	1層　7.5ＹＲ5/4（鈍い褐色）　ローム粒子を50％含む 2層　7.5ＹＲ3/3（暗褐色）　焼土を1％含む	強 強	中 中		
P11	64	56	29	円　形	1層　7.5ＹＲ3/3（暗褐色）　焼土を1％含む 2層　7.5ＹＲ4/3（褐色）　ローム粒子を40％含む	強 強	中 中	土師器　1	

第５表　３号掘立柱建物址一覧表

No.	規模（cm）			平面形	覆　土			出土遺物	備　考
	長	短	深			締り	粘性		
P 1	30	25	(30)	楕円形	1層　10ＹＲ3/3（暗褐色）	強	中		
P 2	50	(48)	19	方　形	1層　7.5ＹＲ4/3（褐色）　ローム粒子を20％含む	強	中		
P 3	45	42	27	円　形	1層　10ＹＲ3/3（暗褐色） 2層　10ＹＲ4/6（褐色）　ローム粒子を50％含む 3層　10ＹＲ2/1（黒色） 4層　10ＹＲ2/1（黒色） 5層　10ＹＲ4/6（褐色）　礫を50％含む	強 強 強 強 強	中 中 中 中 中		
P 4	38	37	22	円　形	1層　10ＹＲ3/3（暗褐色）　ローム粒子を10％含む 2層　10ＹＲ4/3（鈍い黄褐色）　ローム粒子を20％含む	中 中	中 中		

8　ピット（第23～26図）

掘立柱建物址の柱穴と規模・形状が近似するものをピットとして包括した。総数97基を検出し、1・41・56・107・108号ピットから土師器が出土した。その他のピットからの出土は見られない。



第18図　5・6号溝状遺構実測図

第2節　遺物

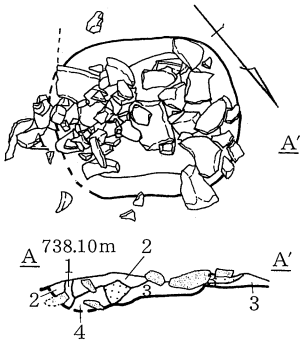
1　土器（第27～32図）

今回住居址から出土している土器を分類してみると、それぞれの住居址に大きな時代差がなく奈良時代から平安時代初頭に位置することが判明した。須恵器の坏蓋では器高が低く端部が僅かに内折するもの（6号住居址－35）と、器高が高く屈折する端部を明瞭に付けているもの（2号住居址－3・4）（4号住居址－25・26）（6号住居址－36）（8号住居址－68）（9号土坑－80）（15号土坑－81）（上面確認－82）があり、前者のほうがより古い要素を持っている。坏では、出土総数25個のうち、底部ヘラ切り手法のもの（17個体）と、糸切り底のもの（8個体）が混在する。高台付坏はヘラ切り手法のため底部中心に向かって下がる例が多い。また、口径に比し底径が小さいもの（1・7・9・12・14・17・38・51・69・70・73・83）が多い。大型の甕や壷や坏には他地域からの搬入品が見られる。

土師器では、各住居址とも小型甕と長胴甕の出土数が多い。7号住居址のカマドの支脚として使われていた小型甕（55）は、胴下部に最大径を持ちナデ調整で底部木葉痕であった。甕は稜線を失ったものがほとんどで、一条の沈線を巡らすものが僅かに見られた。甑（42）は鉢形で把手は持たない。高杯は出土していない。内面黒色処理した土器（28）が1点出土している。

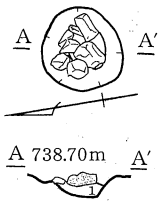
在家遺跡の調査において、縄文中期初頭を主体に、土器片が僅かに出土している。

3号集石



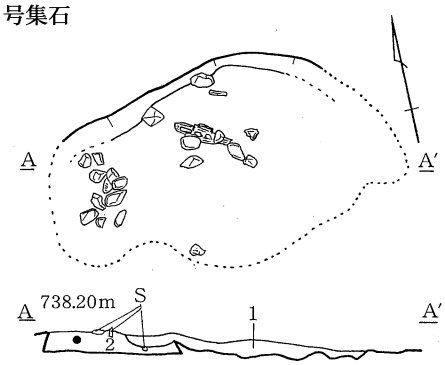
1層 7.5YR2/2(黒褐色)　焼土を10%、炭化物を30%含む
2層 2.5YR3/6(暗赤褐色) 焼土を50%以上含む
3層 7.5YR2/2(黒褐色)　焼土を10%、炭化物を30%含む
4層 2.5YR4/8(赤褐色)　焼土

2号集石



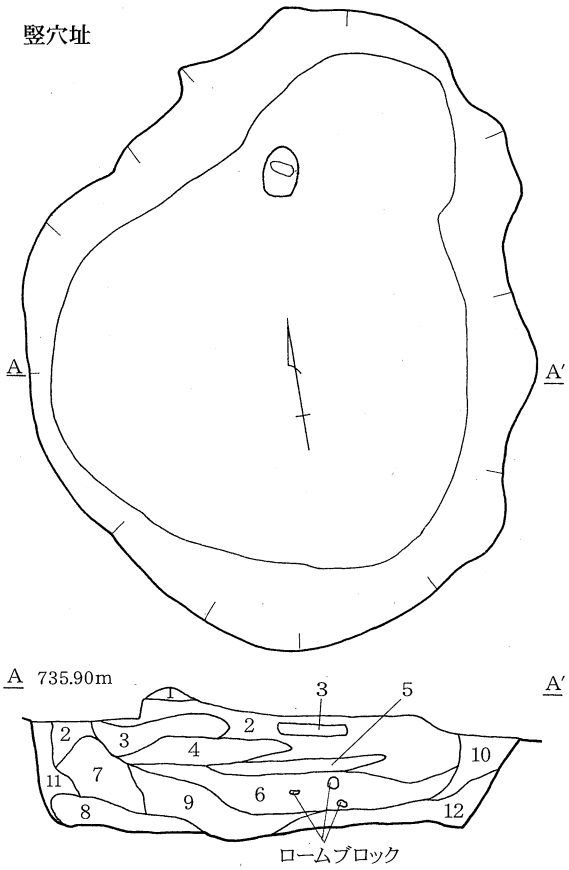
1層 7.5YR2/2(黒褐色)

1号集石



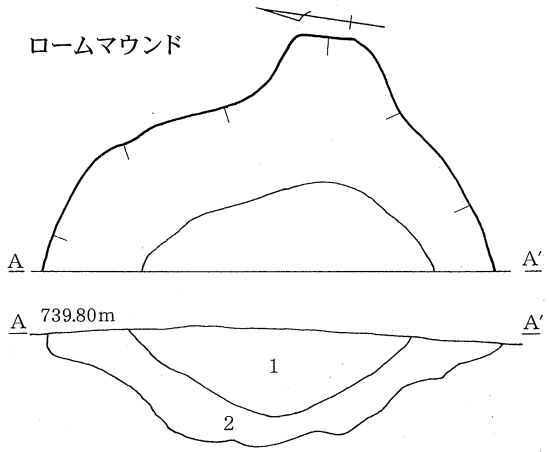
1層 炭化物5YR3/1(黒褐色)・焼土5YR5/8(明赤褐色)を50%以上含む
2層 5YR4/2(灰褐色)

竪穴址



1層 10YR4/4(褐色)　ローム粒子を10%、焼土を5%含む
2層 10YR2/3(黒色)　焼土を5%含む
3層 10YR2/3(黒色)　焼土を30%、土器を含む
4層 10YR3/4(暗褐色) ローム粒子を30%含む
5層 10YR2/3(黒色)　ローム粒子を20%含む
6層 10YR2/3(黒色)　ロームブロックを20%含む
7層 10YR3/4(暗褐色) ローム粒子を40%含む
8層 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子を30%含む
9層 10YR4/3(にぶい黄褐色) ローム粒子を50%含む
10層 10YR3/3(暗褐色) ローム粒子を30%含む
11層 10YR4/4(褐色)　ローム粒子を30%含む
12層 10YR4/6(褐色)　ローム粒子を50%以上含む

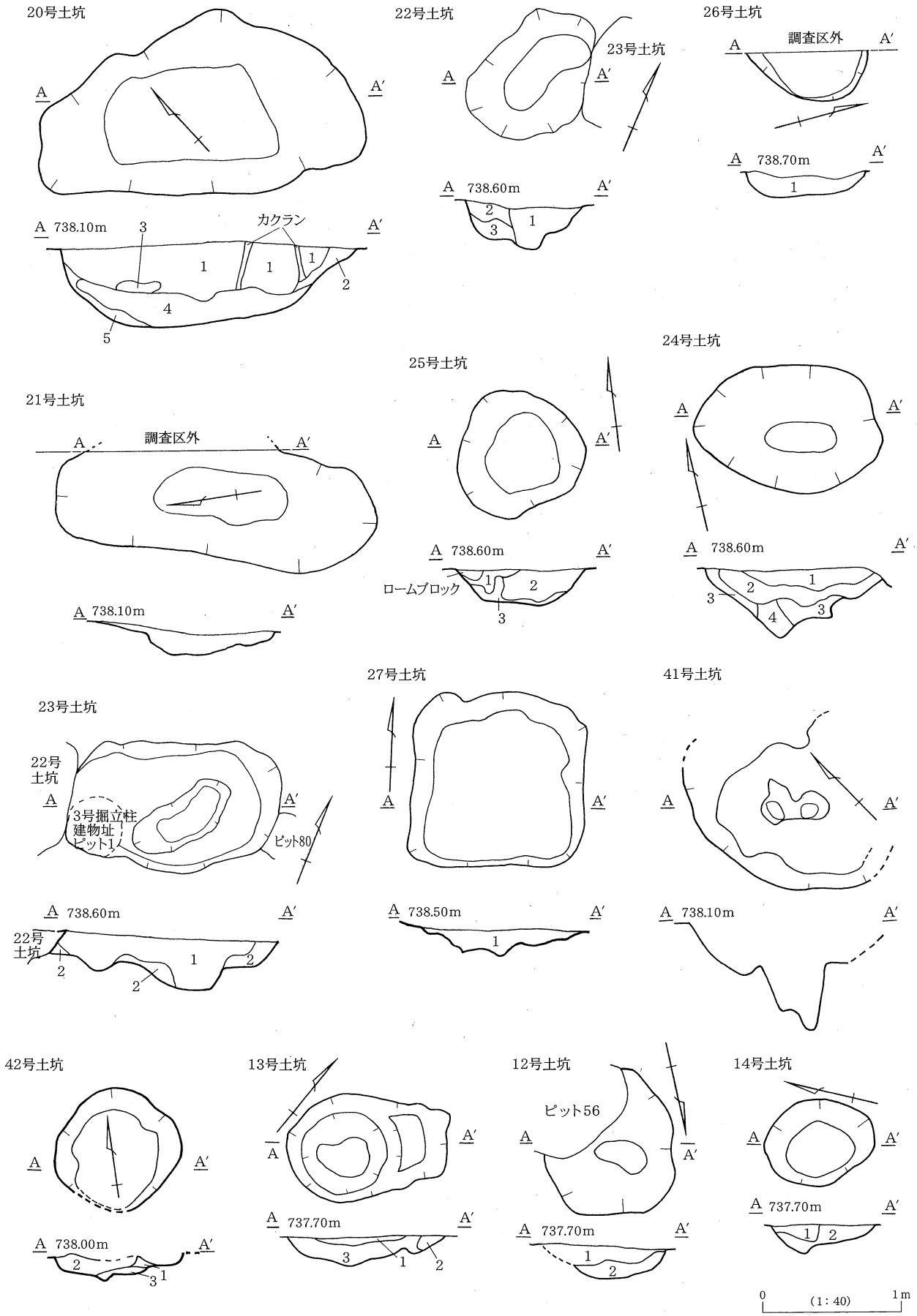
ロームマウンド



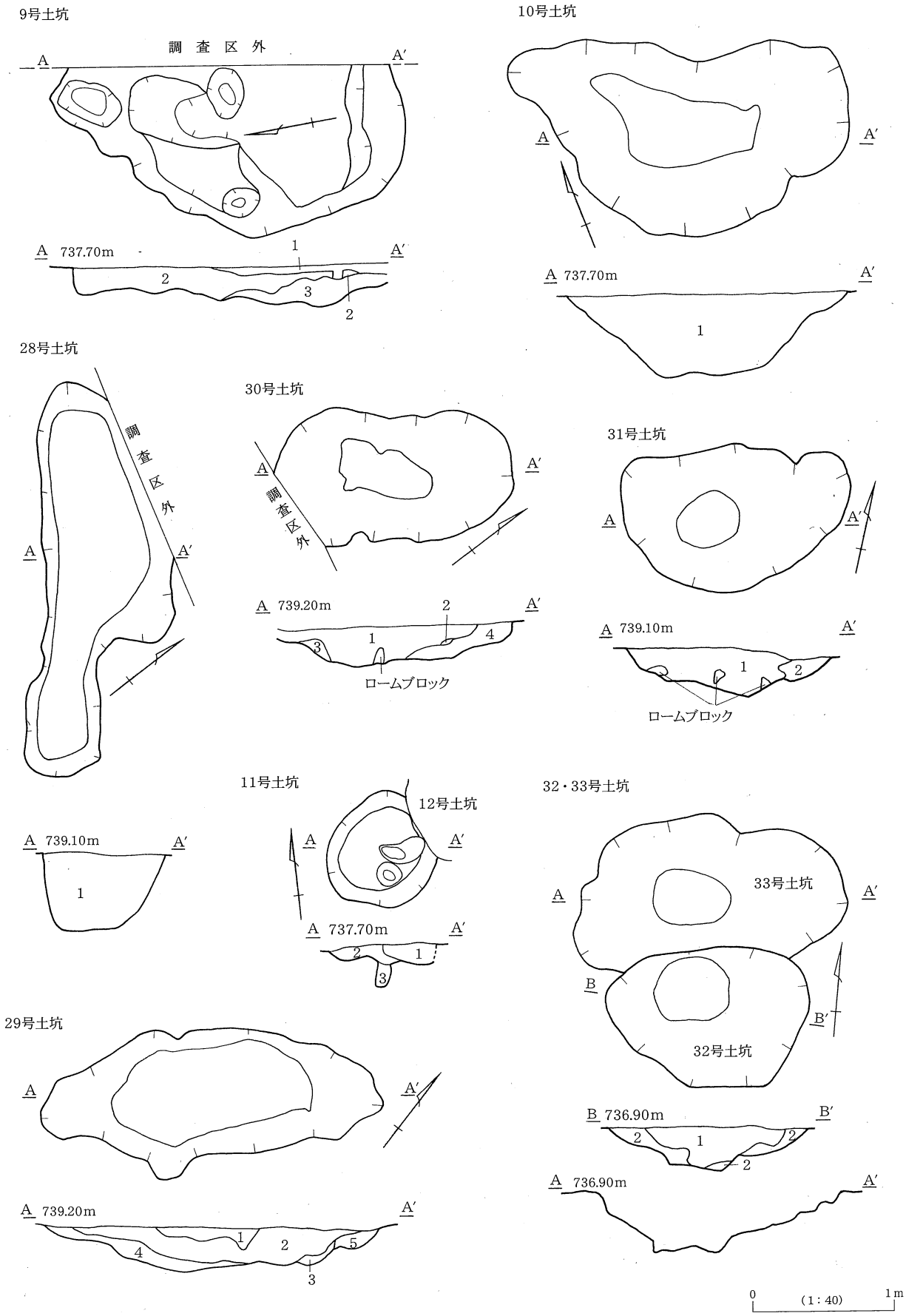
1層 5YR5/8(明赤褐色) ローム粒子を50%以上含む
2層 7.5YR3/2(黒褐色) ローム粒子を10%含む

0　(1:40)　1m

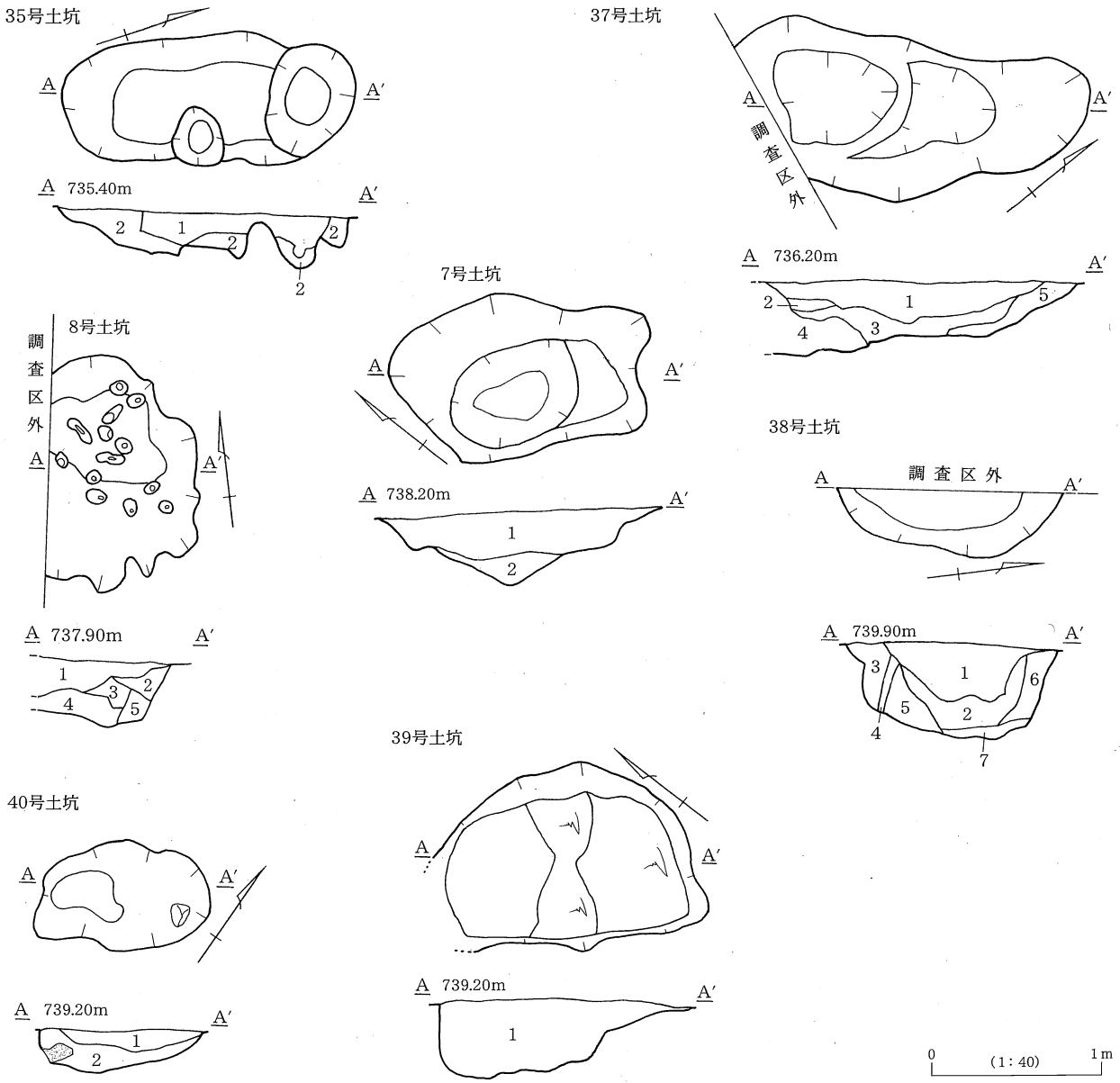
第19図　集石・竪穴址・ロームマウンド実測図


20号土坑
A
A′
A 738.10m
3
カクラン
1
1
1
2
4
5
22号土坑
23号土坑
A 738.60m
2
3
1
26号土坑
調査区外
A 738.70m
1
21号土坑
調査区外
A 738.10m
25号土坑
A 738.60m
ロームブロック
1
2
3
24号土坑
A 738.60m
1
2
3
4
3
23号土坑
22号土坑
3号掘立柱建物址ピット1
ピット80
A 738.60m
22号土坑
2
1
2
2
27号土坑
A 738.50m
1
41号土坑
A 738.10m
42号土坑
A 738.00m
2
3
1
13号土坑
A 737.70m
3
1
2
12号土坑
ピット56
A 737.70m
1
2
14号土坑
A 737.70m
1
2
0
(1：40)
1m

第20図　土坑実測図１


9号土坑
調 査 区 外
A
A′
A 737.70m
1
2
3
2
10号土坑
A
A′
A 737.70m
A′
1
28号土坑
調 査 区 外
A
A′
30号土坑
A
A′
調 査 区 外
A 739.20m
2
A′
1
3
4
ロームブロック
31号土坑
A
A′
A 739.10m
A′
1
2
ロームブロック
11号土坑
A 739.10m
A′
1
12号土坑
A
A′
A 737.70m
A′
2
1
3
32・33号土坑
33号土坑
A
A′
B
B′
32号土坑
B 736.90m
B′
2
1
2
2
A 736.90m
A′
29号土坑
A
A′
A 739.20m
A′
1
2
5
4
3
0
(1：40)
1m

第21図　土坑実測図２



第22図　土坑実測図３

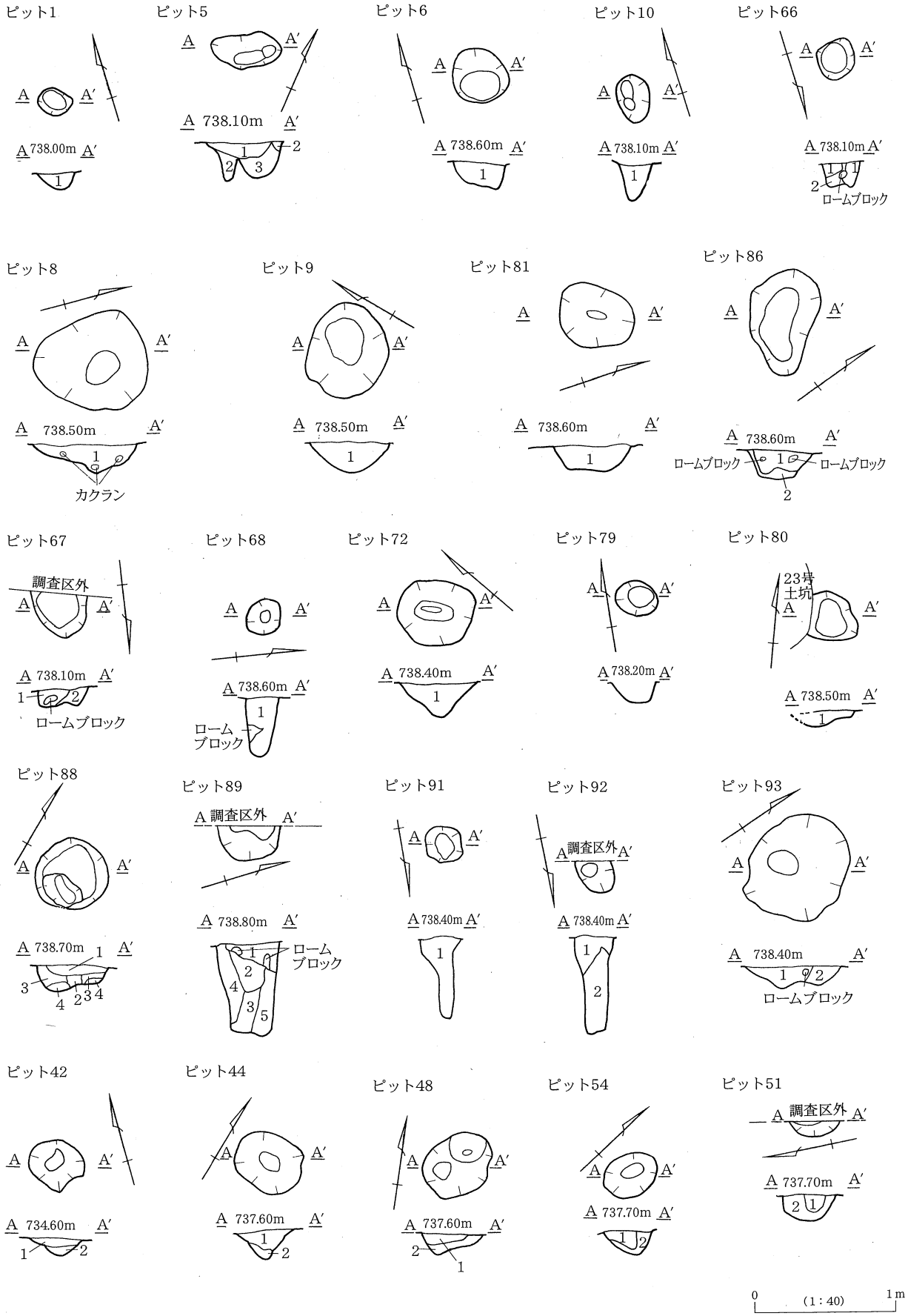
2　石器（第33図）

９号住居址から砥石（９）が出土している。また、縄文時代所産と考えられる石鏃（１・２）、打製石斧（３～７）、敲石（８）が出土しているが、トレンチ掘削や上面確認時、住居址内の流れ込みである。

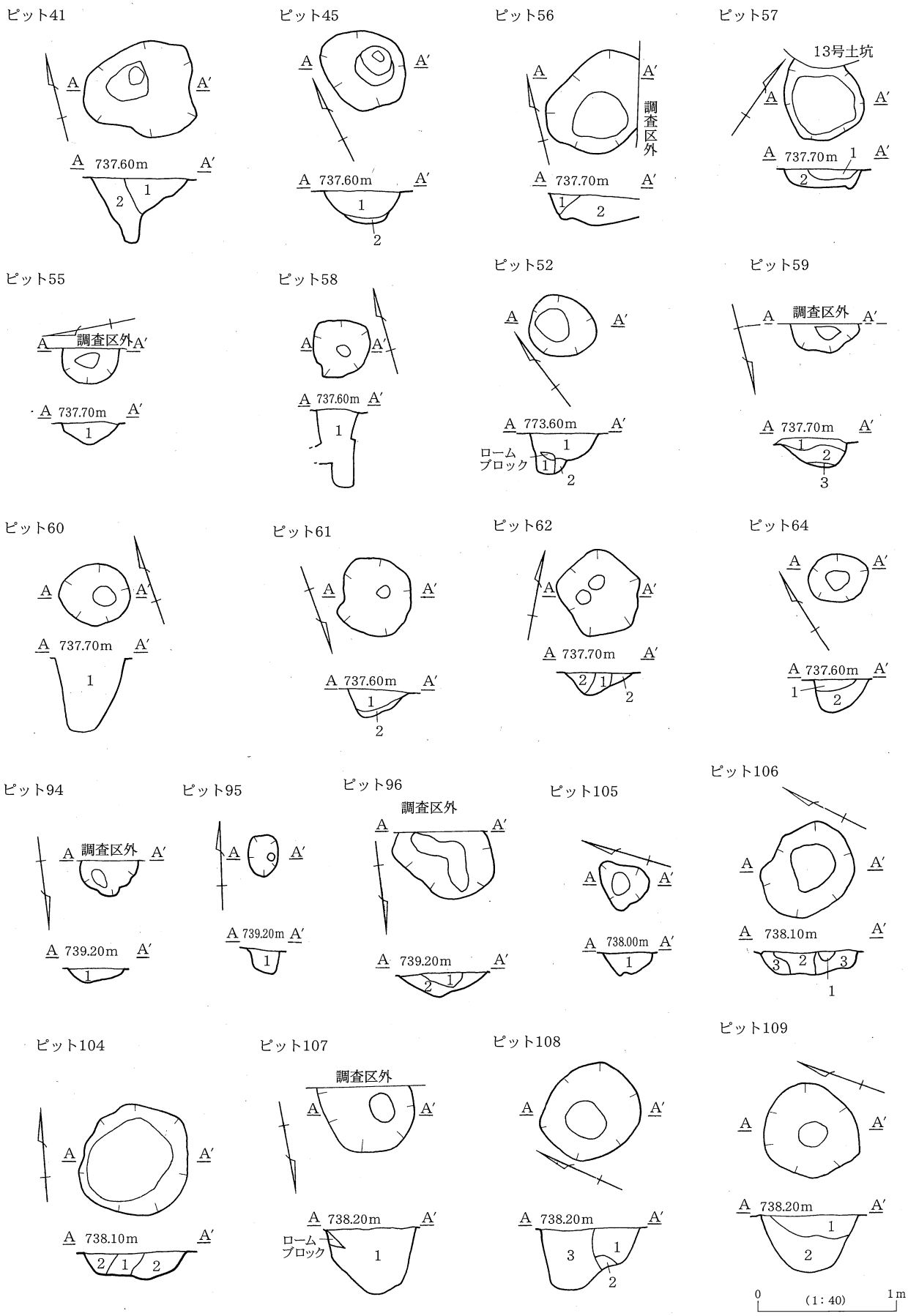
3　鉄製品（第34図）

刀子（２・３）、鉄鏃（１）、鎌（４）、楔状鉄器（５）が出土している。

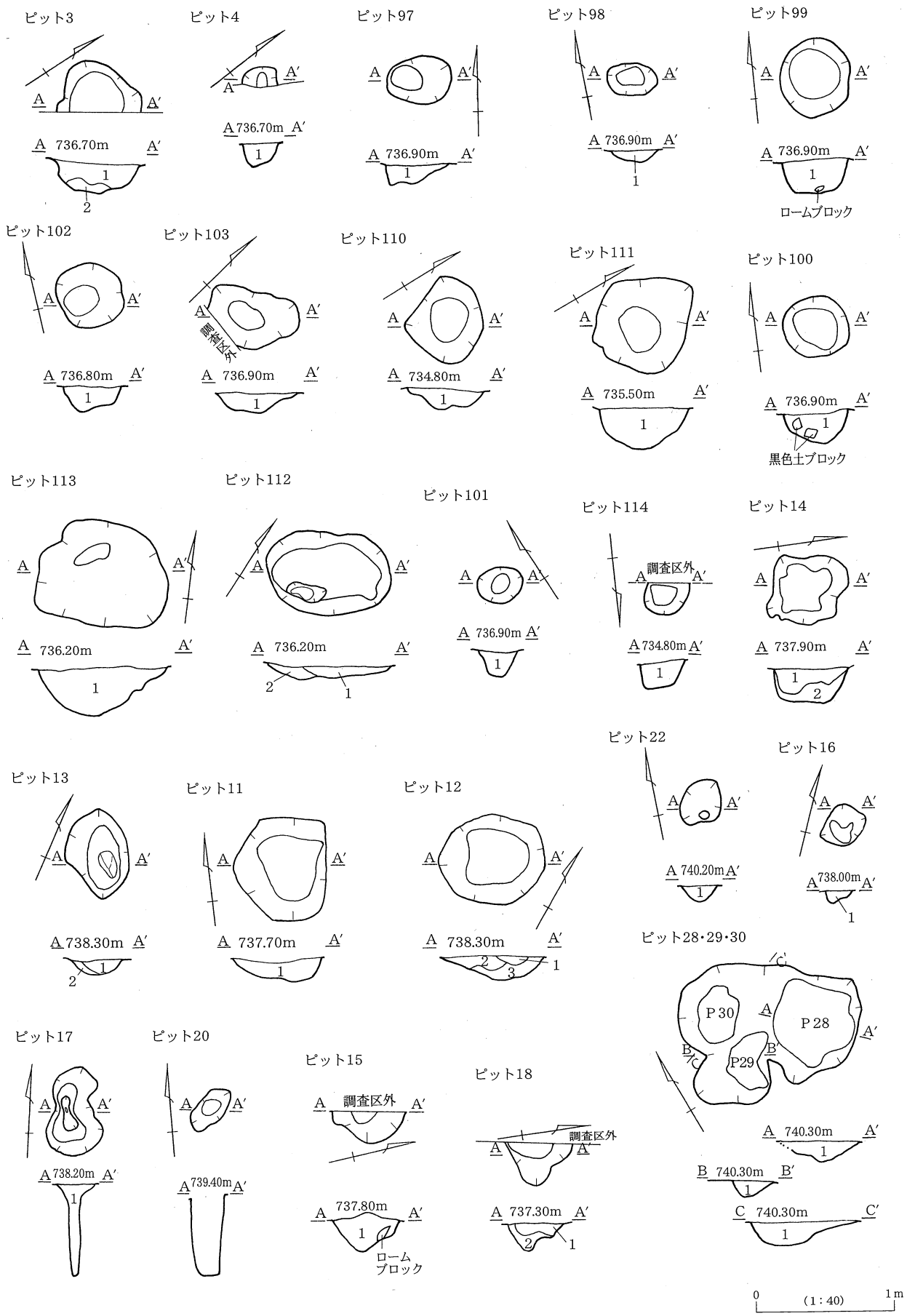
１は鏃身部片刃で、茎部にはら線状に巻きつけた紐状植物繊維痕が残る。２は柄部分に木質が残存する。また刀身部は使用減りが著しい。



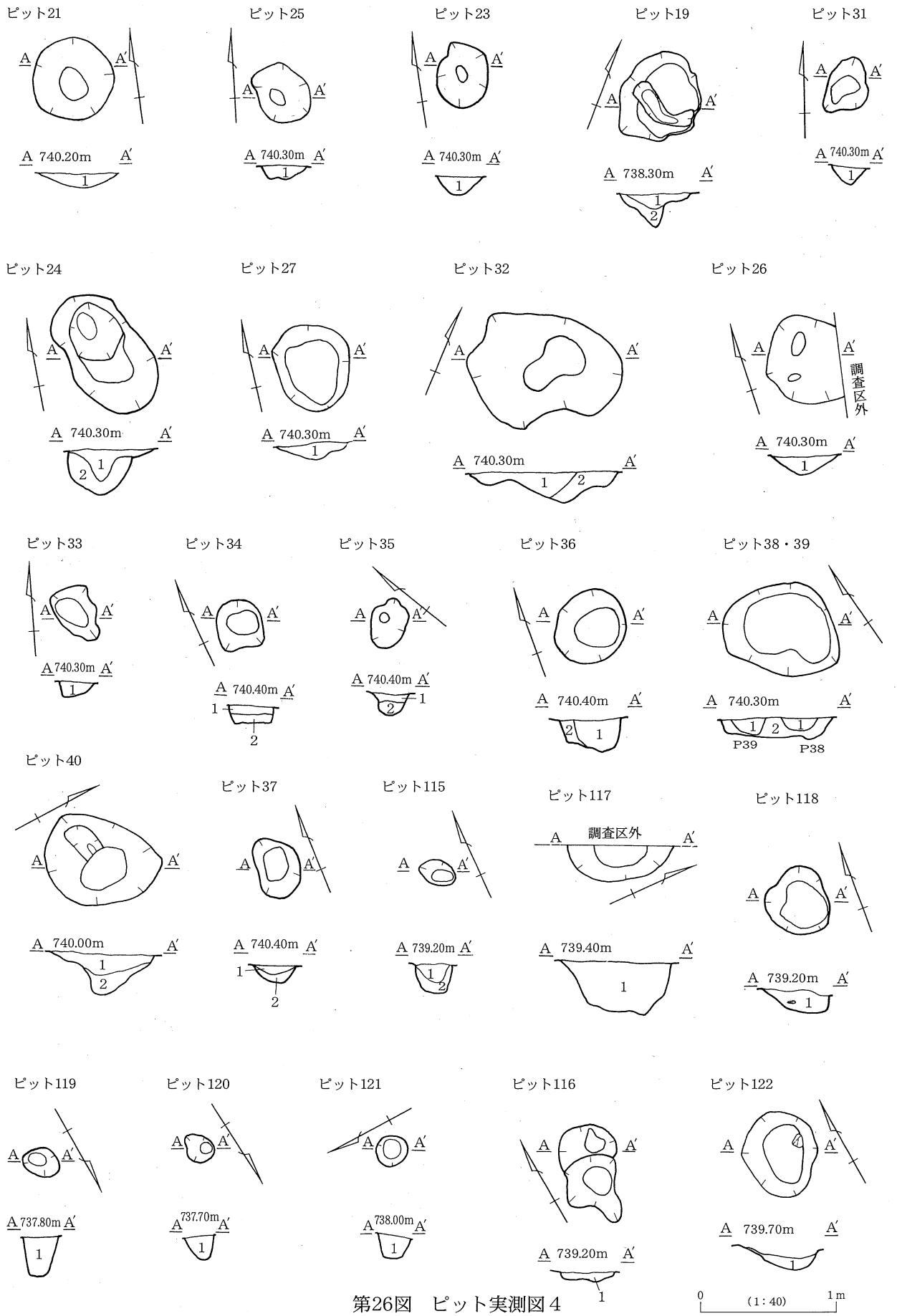
第23図　ピット実測図１



第24図　ピット実測図２



第25図　ピット実測図３



第26図　ピット実測図４

第6表　土坑一覧表

断面形　A-半円形　B-U字形　C-台形　D-底面不整形　E-中央部凹あり　F-二段構造

No.	規模(cm) 長	短	深	平面形	断面形	覆土	締り	粘性	出土遺物	備考
7	145	90	44	楕円形	F	1層10YR3/3（暗褐色）ローム粒子を10%、径2cmの礫を3%含む 2層10YR2/3（黒褐色）	中 強	中 中		
8	137	(84)	37	不整形	C	1層10YR2/2（黒褐色）ローム粒子を5%含む 2層10YR4/4（褐色）　黒色土を20%含む 3層10YR2/1（黒色）　ローム粒子を3%含む 4層10YR3/3（暗褐色）ローム粒子を5%、黒色土を5%含む 5層10YR2/1（黒色）　ローム粒子を20%含む	中 中 中 中 中	中 中 中 中 中		
9	260	(126)	30	不整形	D	1層7.5YR3/3（暗褐色）人為的カクラン 2層7.5YR3/1（黒褐色） 3層7.5YR3/3（暗褐色）ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	強 中	第32図 No.80・83 縄文　1 土師器 1	
10	253	129	60	楕円形	F	1層7.5YR3/1（黒褐色）	強	中		
11	187	(74)	31	円　形	E	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）ローム粒子を10%含む 3層7.5YR3/3（暗褐色）ローム粒子をブロック状に20%含む	強 強 弱	中 中 中	縄文　1 土師器 1	
12	95	(64)	23	楕円形	F	1層7.5YR3/3（暗褐色）ローム粒子を10%含む 2層7.5YR3/3（暗褐色）ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中	土師器 1 須恵器 1	
13	115	73	21	楕円形	F	1層7.5YR4/2（灰褐色）ローム粒子を20%含む 2層7.5YR4/2（灰褐色）ローム粒子をブロック状に30%含む　カクラン 3層7.5YR3/1（黒褐色）	強 強 強	強 中 中		
14	78	61	21	楕円形	F	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）ローム粒子を10%含む	強 強	中 中		
20	232	119	62	楕円形	F	1層7.5YR2/3（極暗褐色）炭化物を3%、ローム粒子を5%含む 2層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を30%含む 3層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を20%含む 4層7.5YR2/2（黒褐色）炭化物を3%、ローム粒子を5%含む 5層7.5YR3/4（暗褐色）ローム粒子を50%含む	強 中 中 強 中	中 中 中 中 中	第32図 No.87 須恵器 1 陶器　1	
21	226	(74)	21	楕円形	G	1層10YR2/2（黒褐色）ローム粒子を10%含む	強	中		
22	104	(73)	29	楕円形	F	1層10YR3/3（暗褐色） 2層10YR4/6（褐色） 3層10YR4/3（にぶい黄褐色）	強 強 強	中 中 中		土坑23に切られる
23	148	94	36	楕円形	F	1層10YR3/3（暗褐色） 2層10YR4/3（にぶい黄褐色）	強 強	中 中		
24	132	96	48	楕円形	F	1層10YR4/3（にぶい黄褐色） 2層10YR3/3（暗褐色） 3層10YR4/3（にぶい黄褐色） 4層10YR4/4（褐色）　ローム粒子を40%含む	強 強 強 強	中 中 中 強		
25	89	88	25	円　形	F	1層10YR5/8（黄褐色）ローム粒子を30%含む 2層10YR3/1（黒褐色） 3層10YR5/6（黄褐色）ローム粒子を50%以上、小礫を5%含む	強 強 強	中 中 中		
26	89	(35)	16	楕円形	A	1層7.5YR4/2（灰褐色）	弱	強		
27	127	124	17	方　形	D	1層10YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を20%含む	中	中		
28	289	(94)	58	不整形	C	1層7.5YR2/2（黒褐色）ローム粒子を5%、底部に礫を5%含む	中	中		
29	244	82	23	楕円形	F	1層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を3%含む 2層7.5YR2/2（黒褐色）ローム粒子を5%、礫を3%含む 3層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を20%含む 4層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を20%、礫を10%含む 5層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を30%、礫を3%含む	中 強 中 弱 中	中 中 中 中 中		
30	(174)	89	28	楕円形	F	1層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を10%、礫を3%含む 2層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を3%含む 3層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を縞状に30%含む 4層7.5YR3/3（暗褐色）ローム粒子を30%含む	中 弱 中 中	中 中 中 中		
31	154	106	34	楕円形	F	1層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を5%、礫を5%含む 2層10YR3/4（暗褐色）ローム粒子を10%、粗砂を5%含む	中 弱	中 中		
32	146	99	32	楕円形	F	1層7.5YR2/2（黒褐色）炭化物を1%、ローム粒子を3%含む 2層7.5YR3/2（黒褐色）ローム粒子を30%含む	中 中	強 強		
33	195	(109)	44	楕円形	F				縄文　2	
35	169	75	24	楕円形	D	1層10YR3/2（黒褐色） 2層10YR2/2（黒褐色）ローム粒子を10%含む	中 中	中 中		
37	(184)	95	42	楕円形	G	1層10YR2/2（黒褐色）小礫を10%含む 2層10YR4/6（褐色）　小礫を10%、ローム粒子を30%含む 3層10YR2/2（黒褐色）小礫を10%含む 4層10YR2/1（黒色）　小礫を10%含む 5層10YR4/6（褐色）　小礫を10%、ローム粒子を50%以上含む	強 強 強 中 中	中 中 中 中 強		

No.	規模(cm) 長	短	深	平面形	断面形	覆土	締り	粘性	出土遺物	備考
38	131	(48)	54	楕円形	F	1層10YR 2/1（黒色） ローム粒子を10%、径0.5～2cmのローム ブロックを3%含む 2層10YR 2/1（黒色） ローム粒子を20%、径0.5～2cmのローム ブロックを5%含む 3層10YR 2/1（黒色） ローム粒子を50%含む 4層10YR 2/1（黒色） ローム粒子を10%含む 5層10YR 2/1（黒色） ローム粒子を30%含む 6層10YR 2/1（黒色） ローム粒子を50%、径0.5～2cmのローム ブロックを5%含む 7層10YR 2/1（黒色） ローム粒子を20%含む	中 強 中 中 中 中 強強	中 中 中 中 中 中 中	土師器 1	9トレンチ
39	(140)	108	44	不明	D	1層10YR 3/2（黒褐色） 径2～5cmの礫を7%含む	強	強		
40	98	54	25	不整形	A	1層10YR 2/2（黒褐色） 径0.5cm以下の礫を5%、径0.5cm～1cmの礫を3%含む 2層10YR 3/3（暗褐色） 径3cmの礫を15%含む	中 中	中 中		
41	(161)	－	75	不明	E					
42	(90)	90	19	円形	F	1層2.5YR3/6（暗赤褐色） 焼土と炭化物を50%以上含む 2層10YR4/4（褐色） ローム粒子を50%以上含む 3層10YR3/3（暗褐色） ロームブロックを30%含む	強 強 強	強 強 強		

No.1～6、15～19、34、36は欠番

第7表　ピット一覧表

No.	規模(cm) 長	短	深	平面形	覆土	締り	粘性	出土遺物	備考
1	26	21	12	不整形	1層7.5YR 3/2（黒褐色） ローム粒子を20%含む	強	中	土師器 1	
3	(62)	(38)	22	不明	1層10YR3/2（黒褐色） ローム粒子を10%、焼土を1%、径1cm前後の礫を5%含む 2層10YR6/8（明黄褐色） ローム粒子を30%、径1cm前後の礫を5%含む	中 強	中 強		
4	(25)	(15)	16	不明	1層10YR3/2（黒褐色） ローム粒子を10%、焼土を1%、径1cm前後の礫を5%含む	中	中		
5	50	(35)	28	楕円形	1層10YR3/3（暗褐色） ローム粒子を20%、炭化物を10%含む 2層10YR5/8（黄褐色） 3層10YR4/4（褐色） ローム粒子を40%含む	中 強 中	強 強 強		
6	41	39	17	円形	1層10YR3/3（暗褐色）	強	中		
8	82	71	21	楕円形	1層7.5YR 2/2（黒褐色） ローム粒子を20%含む	強	強		
9	63	59	22	円形	1層7.5YR 3/2（黒褐色） 径1～2cmの小礫を5%含む	強	中		
10	35	23	25	楕円形	1層10YR3/3（暗褐色） ローム粒子を20%、炭化物を10%含む	中	強		
11	75	67	15	不整形	1層10YR3/3（暗褐色） 径0.5～1cmの礫を10%含む	強	中		
12	77	64	15	楕円形	1層10YR 4/2（灰黄褐色） 径1cmの礫を3%含む 2層10YR 4/3（鈍い黄褐色） ローム粒子を30%含む 3層10YR 5/6（黄褐色） ローム粒子を50%以上含む	弱 中 中	強 中 強		
13	66	45	10	不整形	1層10YR 2/3（暗褐色） 径0.5～1cmの礫を10%含む 2層10YR 5/6（黄褐色） ローム粒子を50%含む	中 中	中 中		
14	50	50	24	不整形	1層10YR 1.7/1（黒色） 2層10YR 4/4（褐色） 黒色土を30%含む	弱 弱	中 中		
15	55	(22)	24	不明	1層10YR 3/1（黒褐色） ローム粒子をブロック状に5%含む	弱	強		
16	36	30	8	不整形	1層10YR 2/2（黒褐色） ローム粒子を20%含む	中	中		
17	63	32	66	不整形	1層10YR 2/2（黒褐色） ローム粒子を5%含む	中	中		
18	48	(32)	19	不明	1層10YR 2/2（黒褐色） ローム粒子を5%含む 2層10YR 3/4（暗褐色） ローム粒子を20%含む	中 強	中 中		
19	70	56	22	不整形	1層10YR 2/2（黒褐色） ローム粒子を5%含む 2層10YR 3/4（暗褐色） ローム粒子を10%含む	中 中	中 中		
20	33	20	55	楕円形					
21	59	58	10	円形	1層10YR 2/3（黒褐色） ローム粒子を5%含む	強	中		
22	31	22	11	不整形	1層7.5YR 3/1（黒褐色） ローム粒子を10%含む	強	強		
23	45	36	13	不明	1層7.5YR 3/2（黒褐色） ローム粒子を20%含む	強	強		
24	94	57	32	楕円形	1層7.5YR 3/1（黒褐色） ローム粒子を10%含む 2層7.5YR 5/6（明褐色） ローム粒子を50%以上含む	強 中	強 強		
25	47	36	9	不整形	1層7.5YR 3/1（黒褐色） ローム粒子を10%含む	強	強		
26	63	(53)	13	不明	1層7.5YR 3/1（黒褐色） ローム粒子を10%含む	強	強		
27	61	52	12	不明	1層7.5YR 3/1（黒褐色） ローム粒子を10%含む	強	強		
28	65	61	16	不整形	1層7.5YR 3/1（黒褐色） ローム粒子を10%含む	強	強		
29	50	22	12	不整形	1層7.5YR 3/1（黒褐色） ローム粒子を10%含む	強	強		
30	40	30	20	不整形	1層7.5YR 5/6（明褐色） ローム粒子を50%以上含む	中	強		

No.	規模(cm) 長	短	深	平面形	覆土	締り	粘性	出土遺物	備考
31	38	34	11	不整形	1層7.5YR3/1（黒褐色）　ローム粒子を10%含む	強	強		
32	113	90	21	不整形	1層7.5YR3/1（黒褐色）　ローム粒子を10%含む 2層7.5YR5/6（明褐色）　ローム粒子を50%以上含む	強 中	強 強		
33	35	35	11	不整形	1層7.5YR3/1（黒褐色）　ローム粒子を10%含む	強	強		
34	34	32	12	円　形	1層7.5YR2/1（黒色） 2層7.5YR5/6（明褐色）	弱	強		
35	32	29	16	不整形	1層7.5YR2/1（黒色） 2層7.5YR5/6（明褐色）	弱	強		
36	53	51	23	円　形	1層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を10%含む 2層7.5YR5/6（明褐色）	弱	中		
37	45	31	12	楕円形	1層7.5YR2/1（黒色） 2層7.5YR5/6（明褐色）	弱	強		
38	－	－	14	不　明	1層7.5YR2/1（黒色） 2層7.5YR5/6（明褐色）	弱	強		ピット39と重複
39	－	－	12	不　明	1層7.5YR2/1（黒色） 2層7.5YR5/6（明褐色）	弱	強		ピット38と重複
40	82	67	29	楕円形	1層7.5YR2/1（黒色） 2層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を10%含む	弱 弱	強 中		
41	77	72	47	不整形	1層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
42	37	35	12	不整形	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中	土師器1	
44	51	40	20	楕円形	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
45	65	55	23	楕円形	1層10YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
48	51	45	15	不整形	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
51	(35)	(15)	18	不　明	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
52	50	45	30	楕円形	1層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
54	40	30	17	楕円形	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
55	40	(26)	17	不　明	1層7.5YR4/3（褐色）　ロームブロックを30%含む				
56	77	(66)	22	不　明	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む	強 強	中 中	土師器1	
57	(53)	45	14	不　明	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む	強 強	中 中		土坑13に切られる
58	42	39	57	不整形	1層7.5YR3/1（黒褐色）	中	中		
59	49	(21)	20	不　明	1層　カクラン 2層7.5YR3/1（黒褐色） 3層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
60	49	46	45	円　形	1層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む	強	中		
61	59	55	20	不整形	1層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
62	64	61	17	方　形	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む	強 強	中 中		
64	43	37	23	楕円形	1層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む 2層7.5YR3/3（暗褐色）　ローム粒子をブロック状に20%含む	強 弱	中 中		
66	27	26	17	不整形	1層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を10%含む 2層7.5YR4/6（褐色）　ローム粒子を30%含む	中 弱	中 中		
67	(32)	34	12	不　明	1層7.5YR3/1（黒褐色） 2層7.5YR4/3（暗褐色）　ローム粒子を20%含む	強 強	強 強		
68	26	25	42	円　形	1層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を15%含む	中	中		
72	54	49	25	円　形	1層7.5YR3/3（暗褐色）　焼土を1%含む	強	中		
79	31	25	16	楕円形					
80	(35)	32	10	不　明	1層10YR4/3（鈍い黄褐色）	強	中		土坑23に切られる
81	55	43	17	楕円形	1層10YR3/3（暗褐色）	強	中		
86	75	50	21	不整形	1層10YR3/1（黒褐色） 2層10YR5/6（黄褐色）　ローム粒子を50%以上含む	強 強	中 中		
88	52	49	17	円　形	1層10YR3/3（暗褐色）　炭化物を3%含む 2層10YR3/3（暗褐色）　ローム粒子を10%含む 3層10YR4/4（褐色）　ローム粒子を20%含む 4層10YR4/6（褐色）　ローム粒子を30%含む	強 中 強 強	中 中 中 中		

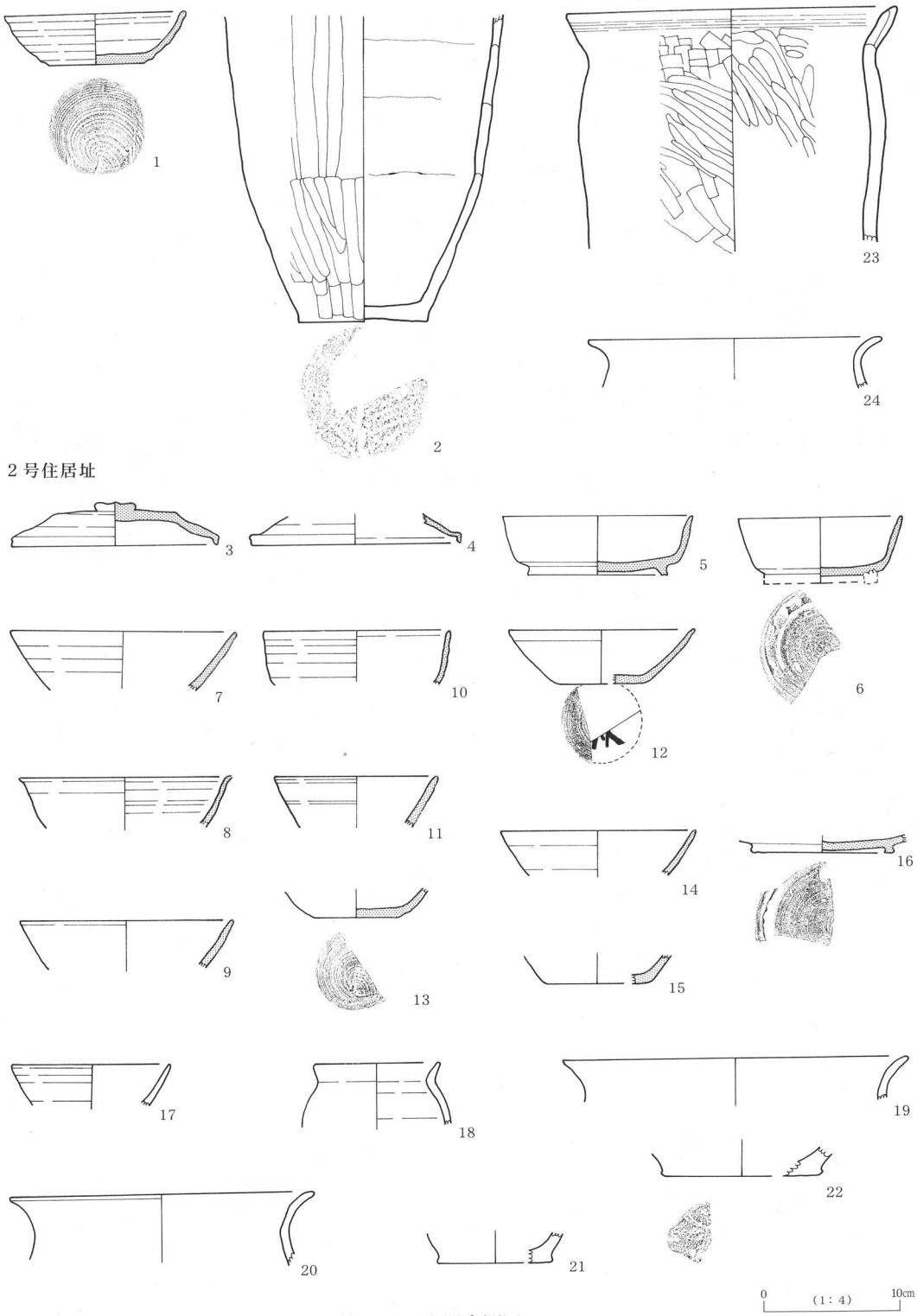
No.	規模(cm) 長	短	深	平面形	覆土	締り	粘性	出土遺物	備考
89	48	(24)	67	円形	1層7.5YR4/2（灰褐色） 2層7.5YR3/1（黒褐色） 3層7.5YR2/2（黒褐色） 4層7.5YR5/6（明褐色）　ローム粒子を30%含む 5層7.5YR3/3（暗褐色）	弱 弱 弱 強 弱	強 強 強 強 強		
91	25	26	60	円形	1層10YR4/3（鈍い黄褐色）ローム粒子を5%含む	弱	中		
92	27	23	68	不整形	1層10YR3/1（黒褐色）　炭化物を3%含む 2層10YR4/3（鈍い黄褐色）ローム粒子を5%含む	強 弱	中 中		
93	80	75	15	楕円形	1層7.5YR2/1（黒色） 2層7.5YR5/6（明褐色）　ローム粒子を50%以上含む	強 強	強 強		
94	43	26	10	不明	1層7.5YR3/2（黒褐色）　ローム粒子を20%含む	中	中		
95	28	24	17	楕円形	1層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を3%含む	強	中		
96	72	(50)	17	不明	1層7.5YR2/2（黒褐色） 2層7.5YR3/2（黒褐色）　ローム粒子を30%含む	強 中	中 中		
97	48	35	14	楕円形	1層7.5YR2/1（黒色）　ローム粒子を40%含む	強	強		
98	38	24	8	楕円形	1層7.5YR2/1（黒色）　ローム粒子を40%含む	強	強		
99	58	50	24	楕円形	1層7.5YR2/1（黒色）	強	強		
100	49	45	21	円形	1層7.5YR2/3（極暗褐色）ローム粒子を5%含む	強	強		
101	33	26	16	楕円形	1層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を10%含む	中	強		
102	46	48	19	円形	1層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を5%含む	中	強		
103	(55)	52	14	不明	1層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を10%含む	中	強		
104	79	79	19	円形	1層7.5YR2/1（黒色）　ローム粒子を1%含む 2層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を10%、礫を3%含む	中 中	強 強		
105	36	34	15	不整形	1層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を10%、礫を5%含む	中	強		
106	69	67	15	円形	1層7.5YR2/1（黒色）　ローム粒子を1%含む 2層7.5YR2/1（黒色）　ローム粒子を3%、礫を1%含む 3層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を10%、礫を3%含む	中 中 中	強 強 強		
107	64	(43)	48	不明	1層7.5YR2/1（黒色）　ローム粒子を10%、礫を5%含む	中	強	土師器 1	
108	72	65	44	円形	1層7.5YR2/1（黒色）　ローム粒子を3%、礫を1%含む 2層7.5YR2/3（黒褐色）　ローム粒子を10%、礫を3%含む 3層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を10%、礫を3%含む	中 中 中	強 強 強	土師器 1	
109	72	64	42	円形	1層7.5YR2/2（黒色）　ローム粒子を5%、礫を5%含む 2層10YR3/2（黒褐色）　ローム粒子を10%、礫を10%含む	中 弱	強 強		
110	57	52	14	不整形	1層10YR3/4（暗褐色）　ローム粒子を10%含む	中	中		
111	79	71	30	不整形	1層10YR3/2（黒褐色）　ローム粒子を10%含む	強	中		
112	92	62	22	楕円形	1層10YR2/1（黒色）　ローム粒子を10%含む 2層10YR4/6（褐色）　ローム粒子を50%以上含む	強 強	強 強		
113	95	72	35	不整形	1層10YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を5%、炭化物を3%含む	弱	強		
114	31	(23)	19	不明	1層10YR4/4（褐色）　ローム粒子を30%含む	中	中		
115	20	15	22	楕円形	1層10YR3/1（黒褐色） 2層10YR4/3（鈍い黄褐色）	強 中	中 中		
116	48	40	8	不整形	1層10YR3/1（黒褐色）　径0.5～1cmの礫を1%含む	弱	弱		
117	77	(25)	37	不明	1層10YR2/2（黒褐色）	中	強		
118	50	46	16	不整形	1層10YR3/2（黒褐色）　径2～5cmの礫を1%含む	強	強		
119	25	22	23	円形	1層 5YR2/1（黒色）	中	中		
120	20	20	18	不整形	1層 5YR2/1（黒色）	中	中		
121	22	23	16	円形	1層 5YR2/1（黒色）	中	中		
122	62	54	9	円形	1層7.5YR2/2（黒褐色）　ローム粒子を20%、小礫を10%含む	中	中		

※46・47・49・50・53・63は欠番

1号住居址

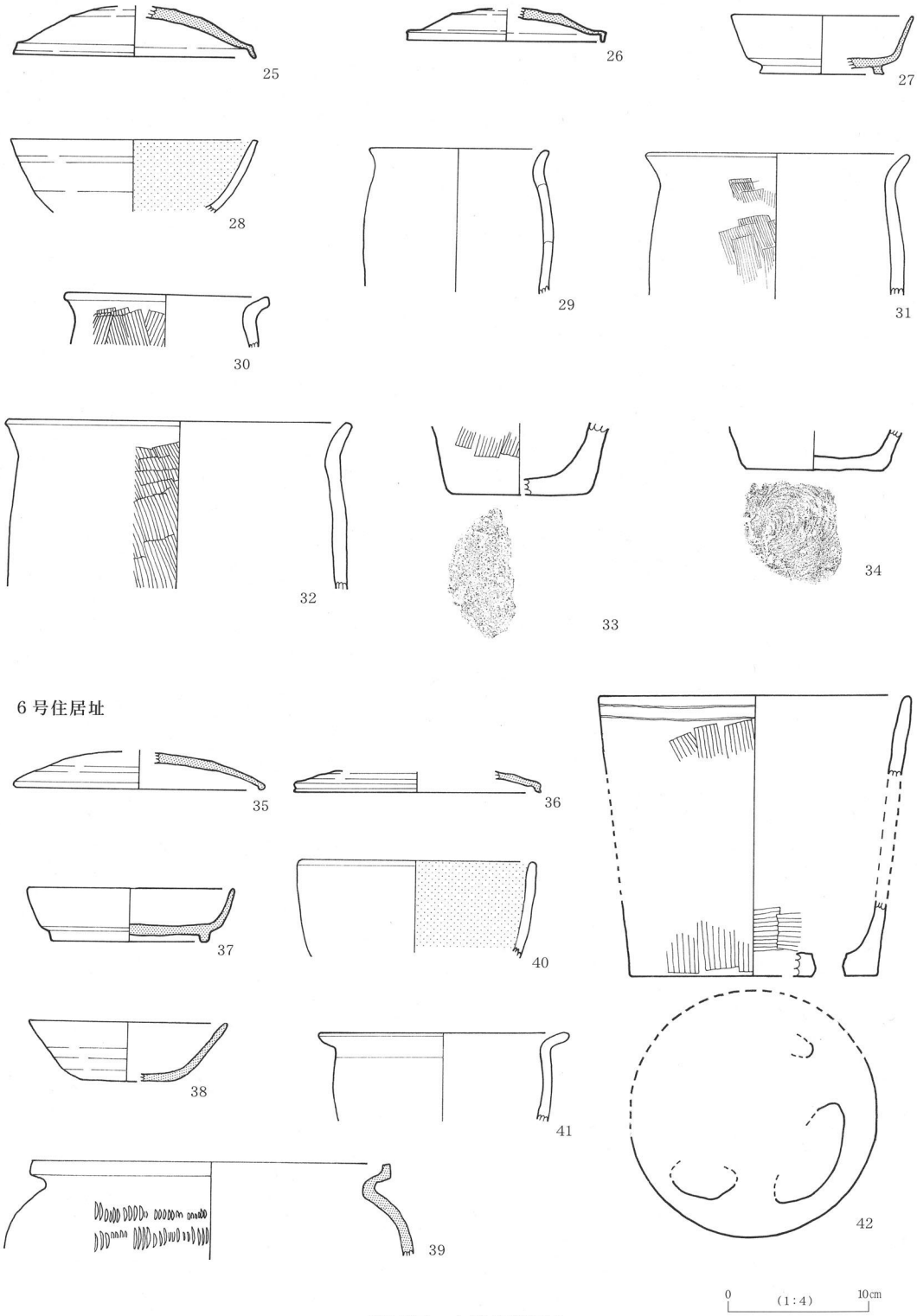
3号住居址

2号住居址

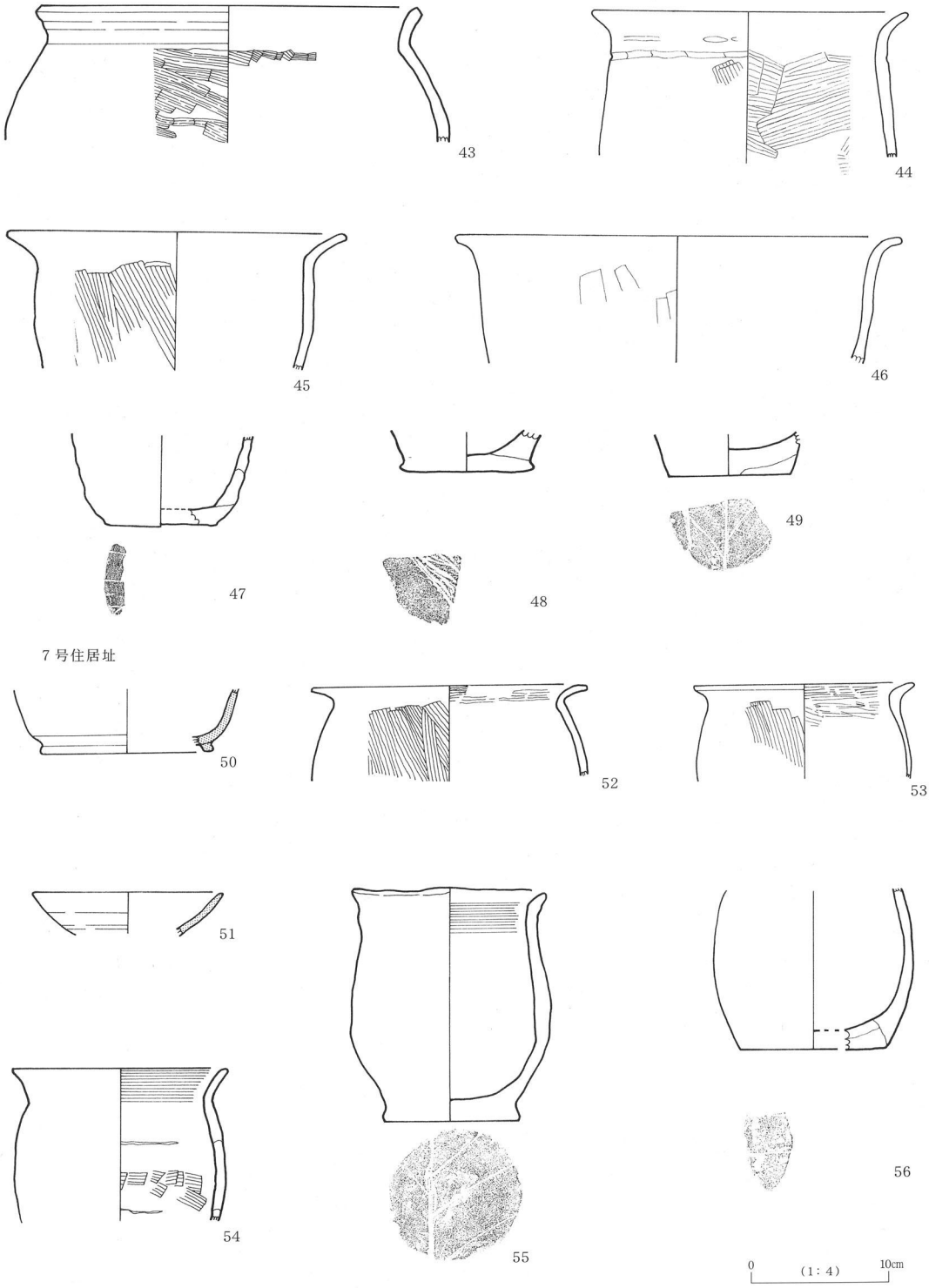


第27図　土器実測図1

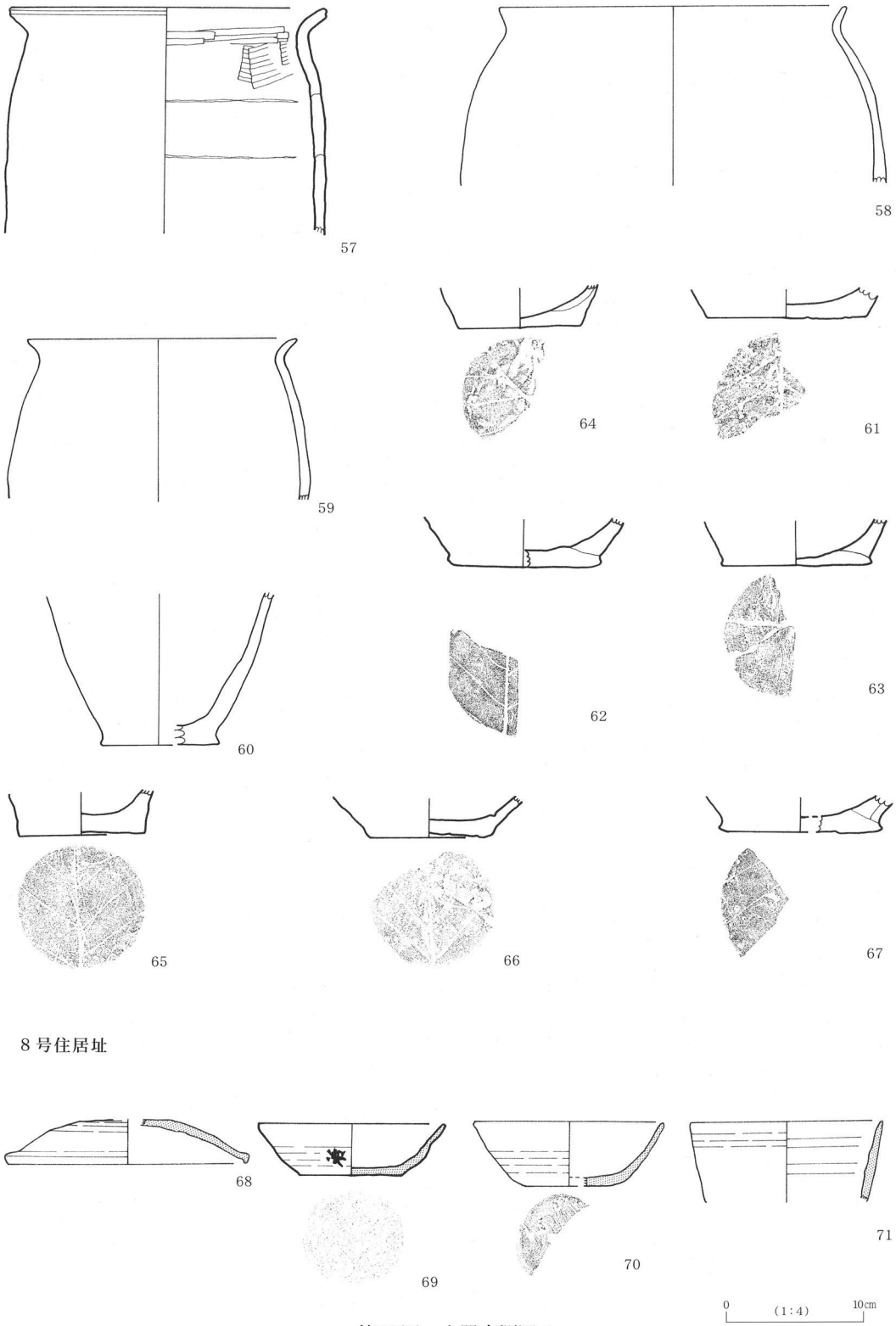
4号住居址



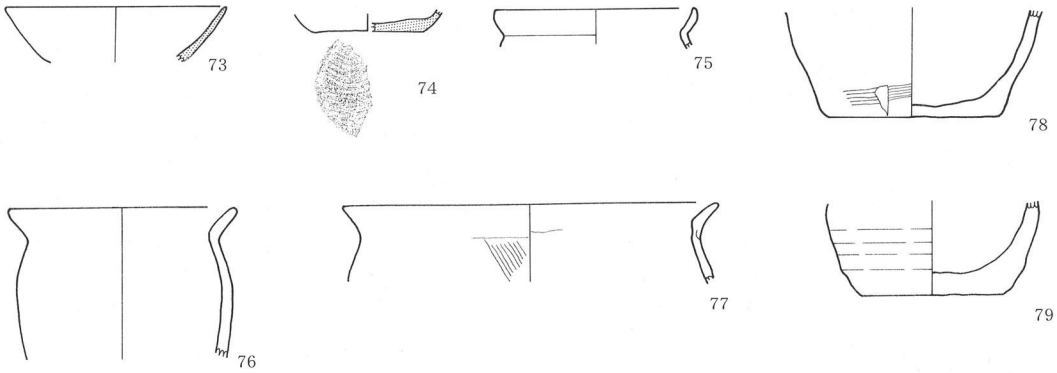
第28図　土器実測図2



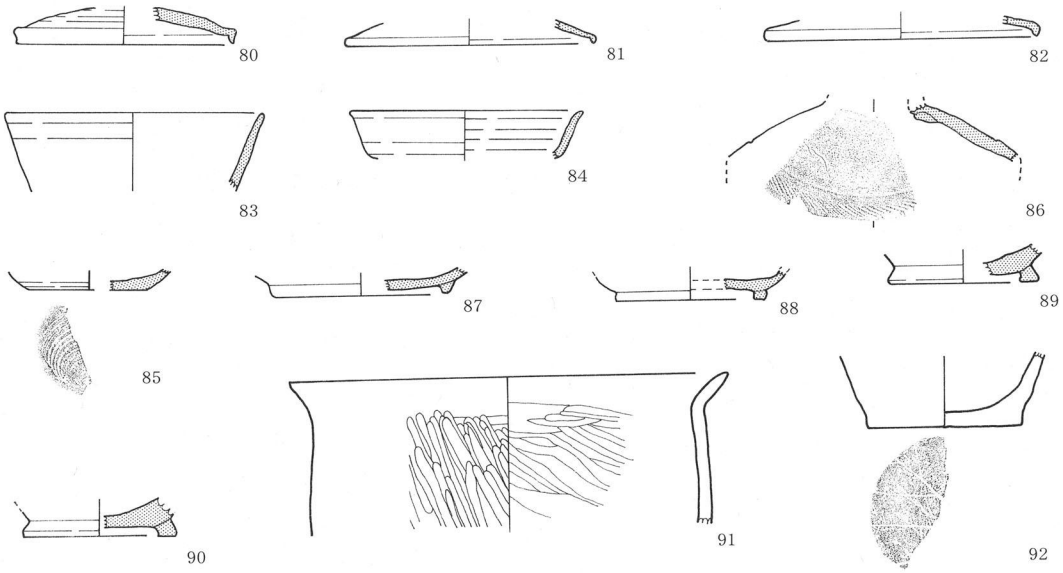
第29図　土器実測図３



第30図　土器実測図４

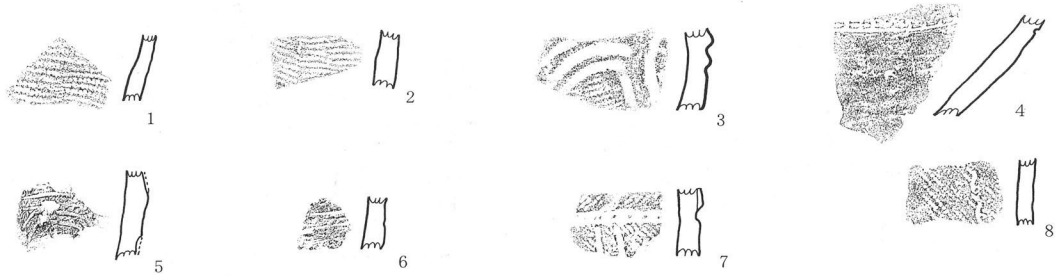


その他の遺構



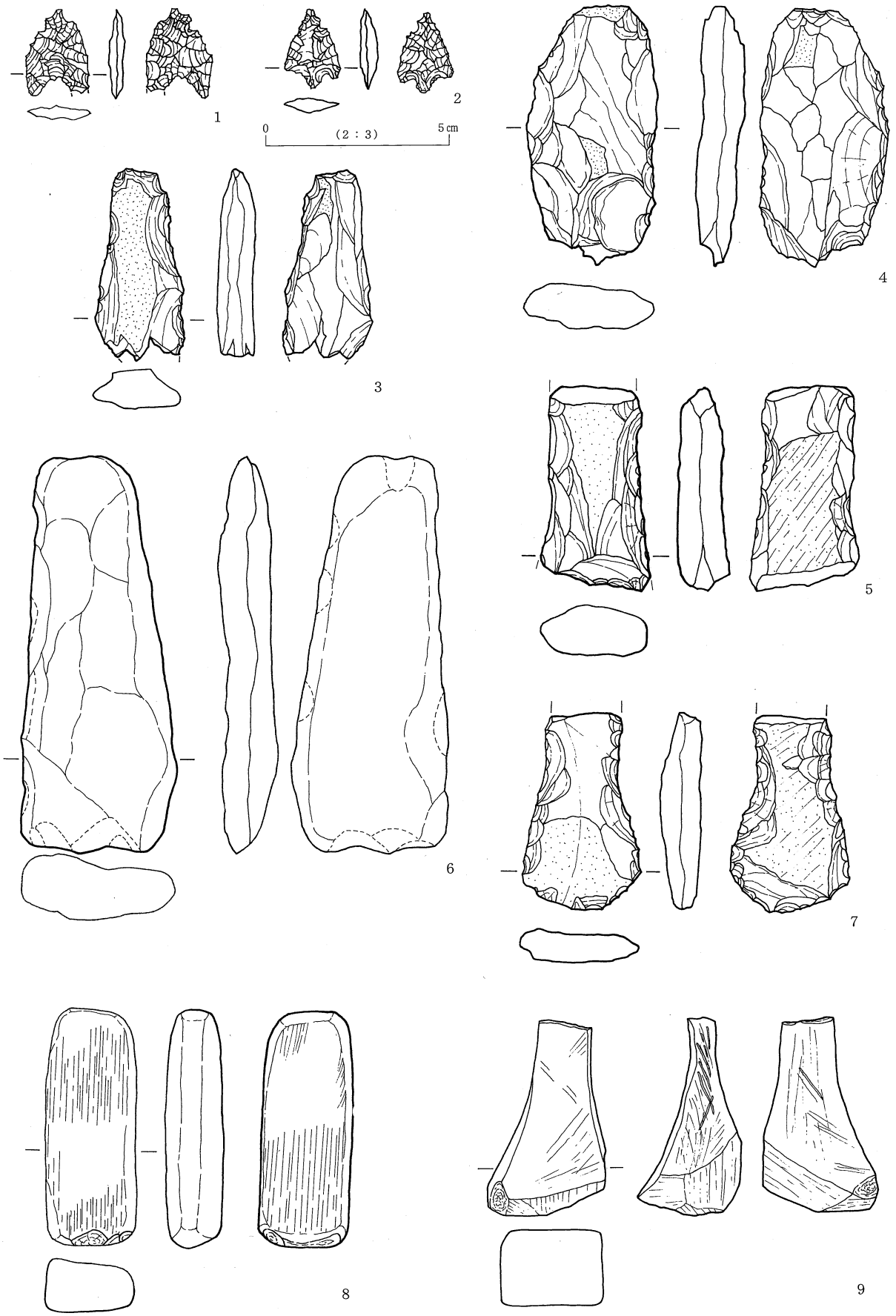
0 (1：4) 10cm

第31図　土器実測図５

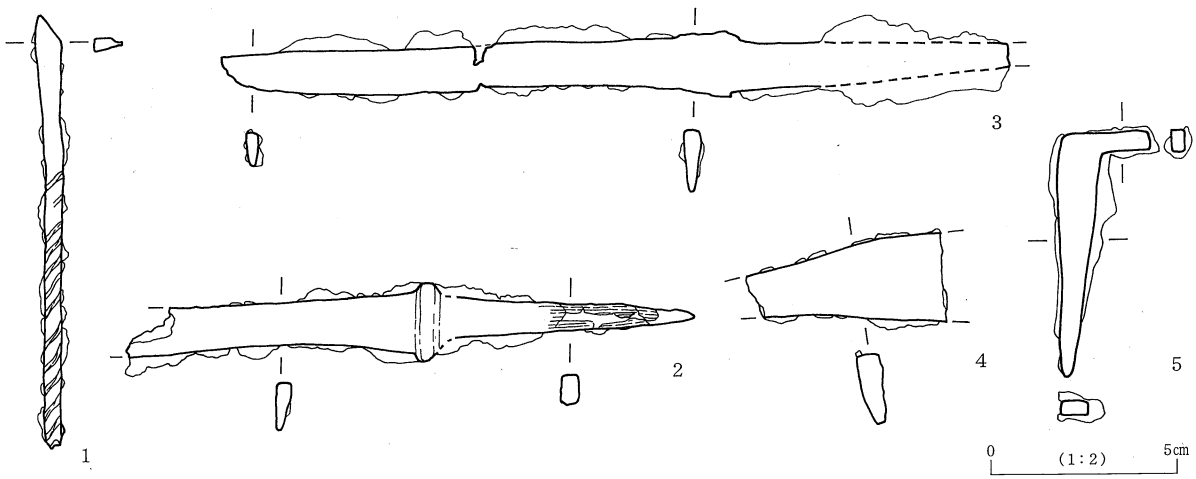


0 (1：3) 10cm

第32図　土器拓影図



第33図　石器実測図



第34図　鉄製品実測図

第８表　土器観察表

法量上-口径　中-底径　下-器高（cm）

番号	出土地点	焼物種類	器　種	法 量	成形・器形の特徴	文様・調整	備　考
1	1住	須恵器	坏	(12.8) 6.6 3.5	底部-回転糸切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y5/1（黄灰色）
2	1住	土師器	甕	－ 9.0 －	輪積成形 薄手	外面－縦ヘラケズリ 底部－木葉痕	色調－内面10YR6/3（鈍い黄橙色） 外面10YR6/4(鈍い黄橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
3	2住 ピット7 他	須恵器	坏蓋	14.4 － 3.1		内面－ヨコナデ 外面－ヘラケズリ ヨコナデ	色調－内面10YR5/1（褐灰色） 外面10YR5/2（灰黄褐色）
4	2住	須恵器	坏蓋	(14.5) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5Y4/1（灰色） つまみ部欠損
5	2住24 カマド	須恵器	坏 (高台付)	13.2 9.6 4.1	底部－回転ヘラ切り、付高台 中心に向かって下がる	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面N5/0（灰色） 外面2.5GY5/1（オリーブ灰色）
6	2住	須恵器	坏 (高台付)	(11.4) － －	底部－回転ヘラ切り 焼成良好	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y5/1（黄灰色） 胎土－白色粒を含む
7	2住 ピット6	須恵器	坏	(15.8) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－N5/0（灰色） 胎土－白色粒を含む
8	2住 カマド	須恵器	坏	(14.8) － －	焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y6/2（灰黄色）
9	2住 カマド	須恵器	坏	(14.8) － －	焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y8/2（灰白色）
10	2住	須恵器	坏	(13.0) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5Y5/1（灰色）
11	2住 カマド	須恵器	坏	(11.4) － －	焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y6/1（黄灰色）
12	2住	須恵器	坏	(13.0) (5.5) (3.7)	底部－回転ヘラ切り 焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5Y7/1（灰白色） 墨書土器
13	2住	須恵器	坏	－ (5.8) －	底部－回転糸切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面5Y5/2（灰オリーブ色） 外面5Y6/2（灰オリーブ色）
14	2住	須恵器	坏	(13.6) － －	焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5Y7/1（灰白色）
15	2住 ピット1	須恵器	坏	－ (7.2) －	底部－ヘラ切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面5Y5/1（灰色） 外面2.5Y5/1（黄灰色）

番号	出土地点	焼物種類	器　種	法 量	成形・器形の特徴	文様・調整	備　　考
16	2住	須恵器	坏 (高台付)	－ (9.8) －	底部－回転ヘラ切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面10YR6/3（鈍い黄橙色） 外面7.5YR5/3(鈍い褐色)
17	2住	須恵器	坏	(11.0) － －	焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－10YR7/4（鈍い黄橙色） 胎土－砂粒を含む
18	2住 A区他	土師器	小型甕	(8.8) － －	輪積成形	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5YR6/6（橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む　炭化物付着
19	2住	土師器	甕	(24.0) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－10YR7/4（鈍い黄橙色） 胎土－雲母を含む
20	2住	土師器	甕	(21.2) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－10YR7/4（鈍い黄橙色） 胎土－雲母を含む
21	2住	土師器	甕	－ (8.0) －			色調－内面7.5YR5/4（鈍い褐色） 外面7.5YR4/2（灰褐色） 胎土－砂粒、雲母を含む
22	2住	土師器	甕	－ (11.2) －		底部－木葉痕	色調－内面2.5Y6/3（鈍い黄色） 外面10YR6/3（鈍い黄橙色）
23	3住	土師器	甕	(23.0) － (16.3)	輪積成形	内面－ヘラミガキ 外面－ナデ後ヘラミガキ 口縁-ナデ	色調－内面7.5YR6/4（鈍い橙色） 外面7.5YR6/6（橙色） 胎土－雲母、長石を含む
24	3住	土師器	甕	(20.4) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－7.5YR6/4（鈍い橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
25	4住	須恵器	坏蓋	(16.8) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ・ ヘラケズリ	色調－2.5Y6/2（灰黄色） つまみ部欠損
26	4住他	須恵器	坏蓋	(13.4) － －	焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ 回転ヘラケズリ	色調－2.5Y6/1（黄灰色） つまみ部欠損
27	4住他	須恵器	坏 (高台付)	(12.6) (8.6) 4.0	底部－回転ヘラ切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面7.5Y6/2（灰オリーブ色） 外面7.5Y5/1（灰色）
28	4住	土師器	坏	(17.0) － －	内面黒色処理	内面－ヘラミガキ 外面－ロクロナデ	色調－内面N1.5（黒色） 外面7.5Y5/4（鈍い褐色）
29	4住	土師器	小型甕	(12.4) － －	輪積成形	内面－ナデ 外面－ナデ 口縁－ヨコナデ	色調－内面10YR6/4（鈍い黄橙色） 外面7.5YR5/4（鈍い褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
30	4住	土師器	小型甕	(14.0) － －		内面－ヘラナデ 外面－ヘラナデ	色調－内面10YR5/4（鈍い黄褐色） 外面7.5YR5/4（鈍い褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
31	4住 カマド	土師器	甕	(18.2) － －		内面－ハケ 外面－ハケ	色調－内面10YR5/4（鈍い黄褐色） 外面7.5YR75/4（鈍い褐色）
32	4住 カマド	土師器	甕	(23.6) － －		内面－ヨコナデ 外面－ハケ 口縁－ヨコナデ	色調－内面7.5YR5/4（鈍い褐色） 外面10YR5/4（鈍い黄褐色） 胎土－雲母、白粒を含む 外面炭化物付着
33	4住	土師器	甕	－ (9.8) －	底部－手持ちヘラ切り	外面－ハケ 底部－指紋？圧痕	色調－内面10YR6/4（鈍い黄橙色） 外面10YR5/4（鈍い黄褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
34	4住 ピット3	土師器	甕	－ (9.6) －	ロクロ成形 底部－回転糸切り 焼成不良		色調－7.5YR7/6（橙色） 胎土－白色粒を多く含む
35	6住 土坑3	須恵器	坏蓋	(17.0) － －		内面－ロクロナデ 外面－頂部回転ヘラ ケズリ	色調－内面5Y6/1（灰色） 外面10Y6/1（灰色） つまみ部欠損
36	6住 カマド	須恵器	坏蓋	(17.0) － －	焼成不良	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面2.5Y5/4（黄褐色） 外面2.5Y6/3（にぶい黄色） 炭化物付着　転用硯？
37	6住 カマド	須恵器	坏 (高台付)	(14.2) － 3.7	底部－回転ヘラ切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面2.5Y6/1（黄灰色） 外面2.5Y6/2（灰黄色）
38	6住 土坑1	須恵器	坏	(13.8) － －	底部－手持ヘラ切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面2.5Y6/2（灰黄色） 外面5Y7/1（灰白色）

番号	出土地点	焼物種類	器　種	法 量	成形・器形の特徴	文様・調整	備　　考
39	6住	須恵器	甕	(24.8) — —	畿内搬入品 焼成良好	内面－タタキ目 外面－タタキ目	色調－内面10YR3/2（暗赤褐色） 外面5YR3/2（暗赤褐色） 胎土－緻密
40	6住 ピット5	土師器	坏	(16.2) — —	ロクロ成形 内面黒色処理	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面N2/0（黒色） 外面5YR5/4（鈍い赤褐色）
41	6住	土師器	小型甕	(17.0) — —		内面－ヘラケズリ 外面－ヘラケズリ	色調－10YR5/3（鈍い黄褐色） 口縁部に炭化物付着 胎土－雲母、白色粒を含む
42	6住 土坑1他	土師器	甑	(23.0) (17.0) (19.5)	底部に不規則な穴	外面－ヘラケズリ後ハケ 口縁－ヨコナデ	色調－内面7.5YR8/4（浅黄橙色） 外面7.5YR7/4（鈍い橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む 炭化物付着
43	6住 カマド	土師器	甕	(26.0) — —	輪積成形 焼成良好	内面－ヘラ後ナデ 外面－ヘラ後ナデ 口縁－ナデ	色調－内面7.5YR6/4（鈍い橙色） 外面7.5YR6/6（橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む 炭化物付着
44	6住 土坑1	土師器	甕	(21.8) — —	輪積成形	外面－ヘラ後ハケ 口縁－ヨコナデ沈線1	色調－7.5YR6/4（鈍い橙色） 胎土－雲母を多く含む
45	6住	土師器	甕	(22.8) — —		外面－ハケ	色調－内面7.5YR7/6（橙色） 外面7.5YR7/4（鈍い橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
46	6住	土師器	甕	(30.0) —		内面－ヘラナデ 外面－ヘラナデ	色調－内面7.5YR6/3（鈍い褐色） 外面7.5YR6/4（鈍い橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
47	6住 床下 ピット6	土師器	甕	— (7.8) —	輪積成形	内面－ヘラナデ 外面－ヘラナデ	色調－10YR8/3（浅黄橙色） 胎土－白色粒、雲母を僅に含む
48	6住 A区下	土師器	甕（底部）	— (9.4) —		内面－ナデ 外面－ナデ 底部－木葉痕	色調－2.5Y7/2（灰黄色） 胎土－白色粒を含む
49	6住 A区下	土師器	甕（底部）	— (8.4) —	焼成やや不良	内面－ナデ 外面－ナデ 底部－木葉痕	色調－7.5YR8/3（浅黄橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
50	7住 ピット5	軟質 須恵器	坏 （高台付）	— (11.8) —	焼成不良 付高台	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ 底部－木葉痕	色調－内面7.5YR5/4（鈍い褐色） 外面7.5YR5/3（鈍い褐色）
51	7住 C区東2	須恵器	坏	(13.2) — —		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5YR7/2（灰黄色）
52	7住 ピット14	土師器	甕	(18.6) — (6.4)	輪積成形	内面－カキ目 外面－カキ目	色調－内面10YR5/4（鈍い黄橙色） 外面5Y7/2（灰白色） 胎土－雲母、長石を含む
53	7住 B区中	土師器	小型甕	(15.0) — (6.6)	輪積成形 薄手	外面－カキ目 口縁－粗いカキ目	色調－内面10YR3/1（黒褐色） 外面10YR7/3（鈍い黄橙色） 炭化物付着
54	7住 カマド	土師器	小型甕	(14.6) — —	輪積成形	内面－粗いカキ目 外面－粗いカキ目 口縁－粗いカキ目	色調－内面7.5YR6/4（鈍い橙色） 外面7.5YR5/4（鈍い褐色） 内面－炭化物付着
55	7住 カマド	土師器	小型甕	13.6 9.0 16.0	弱い稜線	内面－ヨコナデ 外面－ヨコナデ 底部－木葉痕	色調－7.5YR7/4（鈍い橙色）
56	7住 カマド他	土師器	小型甕	— (8.6) —	焼成やや不良	底部－木葉痕	色調－7.5YR7/4（鈍い橙色）
57	7住 カマド	土師器	甕	(22.2) — —	輪積成形		色調－7.5YR6/4（鈍い橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
58	7住 土坑3他	土師器	甕	(24.6) — —		内面－ナデ 外面－ナデ 口縁－ヨコナデ	色調－7.5YR6/4（鈍い橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
59	7住	土師器	甕	(18.0) — —		内面－ヨコナデ 外面－ナデ	色調－内面7.5YR5/3（鈍い褐色） 外面10YR7/4（鈍い黄橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む　炭化物付着
60	7住 C区下	土師器	甕	— (8.2) —		内面－ナデ 外面－ナデ・布目	色調－内面5YR6/6（橙色） 外面7.5YR5/4（鈍い褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
61	7住 土坑3	土師器	甕	— (11.4) —		底部－木葉痕	色調－10YR8/3（浅黄橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
62	7住	土師器	甕	— (11.0) —	輪積成形	内面－ナデ 外面－ナデ 底部－木葉痕	色調－10YR8/3（浅黄橙色） 胎土－白色粒を含む

番号	出土地点	焼物種類	器　種	法 量	成形・器形の特徴	文様・調整	備　　考
63	7住	土師器	甕	－ (10.6) －	輪積成形	内面－ナデ 外面－ナデ 底部－木葉痕	色調－10YR7/4（鈍い黄橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
64	7住 B区床	土師器	甕	－ (8.6) －	焼成やや不良	内面－ヘラナデ 底部－木葉痕	色調－10YR8/3（浅黄橙色） 胎土－白色粒を含む
65	7住	土師器	甕	－ 9.0 －	輪積成形	内面－ヘラナデ 底部－木葉痕	色調－10YR8/4（浅黄橙色） 胎土－白色粒、雲母を僅に含む
66	7住 カマド	土師器	甕	－ (8.6) －	焼成やや不良	底部－木葉痕	色調－10YR7/3（鈍い黄橙色） 胎土－雲母、白色粒を含む
67	7住 D区下	土師器	甕	－ (11.5) －	輪積成形	内面－ナデ 外面－ナデ 底部－木葉痕	色調－5YR7/6（橙色） 胎土－白色粒を含む
68	8住 カマド	須恵器	坏蓋	(16.8) － －	頂部－回転ヘラケズリ	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面5Y5/2（灰オリーブ色） 外面5Y4/1（灰色） 胎土－緻密、砂粒を含む　つまみ部欠損
69	8住 カマド	須恵器	坏	(13.2) (7.0) 4.5	底部－回転糸切り ほぼ完形	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y6/2（灰黄色） 口縁部2.5Y5/1（黄灰色） 胎土－緻密、墨書土器「若」？
70	8住 カマド	須恵器	坏	(13.6) (6.2) 4.5	底部－回転糸切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面7.5Y6/1（灰色） 胎土－白色粒を含む
71	8住 ベルト	須恵器	坏 (高台付)	(13.4) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面2.5Y5/2（暗灰黄色） 外面2.5Y5/1（黄灰色） 胎土－緻密、砂粒を含む
73	8住 土坑2他	須恵器	坏	(6.7) － (3.3)		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面2.5GY6/1（オリーブ灰色） 外面7.5YG6/2（灰オリーブ色） 胎土－緻密、砂粒を含む
74	8住 A区	須恵器	坏	－ (6.6) (1.3)	底部－回転糸切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面2.5GY5/1（オリーブ灰色） 胎土－白色粒を含む
75	8住 A区	土師器	小型甕	(12.0) － －	輪積成形		色調－2.5GY5/1（オリーブ灰色） 胎土－雲母、白色粒を含む、炭化物付着
76	8住 カマド	土師器	小型甕	(13.6) － －		内面－ヨコナデ 外面－ヨコナデ	色調－内面10YR6/3（鈍い黄橙色） 外面7.5YR5/4（鈍い褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
77	8住 ピット3	土師器	甕	(22.4) － －	輪積成形	内面－ナデ 外面－ナデ 口縁－ヨコナデ	色調－内面7.5YR6/6（橙色） 外面7.5YR5/4（鈍い褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
78	8住	土師器	甕	－ (10.4) (6.4)	輪積成形	下部－ハケ	色調－5YR5/6（明赤褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む 風化が激しい
79	8住	土師器	甕	－ (8.4) －		外面－ヘラナデ	色調－内面7.5YR5/4（鈍い褐色） 外面7.5YR5/6（明褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
80	土坑9	須恵器	坏蓋	(13.0) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ 頂部－回転ヘラケズリ	色調－5Y5/1（灰色） つまみ部欠損
81	1号掘立	須恵器	坏蓋	(14.8) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5Y6/1（灰色）
82	A1区	須恵器	坏蓋	(16.4) － －	美濃須恵	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y6/2（灰黄色） 自然釉付着
83	土坑9	須恵器	坏	(15.5) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5Y6/1（灰色） 胎土－砂粒を含む
84	A3区	須恵器	坏	(14.0) － －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－7.5YR4/2（灰褐色） 胎土－砂粒を含む
85	C区東1	須恵器	坏	－ (7.0) (1.2)	底部－回転糸切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－5Y6/2（灰オリーブ色） 胎土－砂粒を含む
86	C区東1	須恵器	長頸壺	－ － －	美濃須恵	内面－ロクロナデ 外面－沈線・櫛歯刺突	色調－内面2.5Y6/3（鈍い黄色） 外面2.5Y7/4（浅黄色）
87	土坑20	須恵器	坏 (高台付)	－ (10.4) －	底部－回転ヘラ切り	内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－2.5Y6/3（鈍い黄色）

番号	出土地点	焼物種類	器　種	法 量	成形・器形の特徴	文様・調整	備　　考
88	A３区	須恵器	壷	－ (8.8) －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－N6/0（灰色）
89	A１区	須恵器	壷	－ (9.0) －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面7.5YR4/1（褐灰色） 外面2.5Y4/1（黄灰色）
90	C区 南の畑	灰釉	壷	－ (9.2) －		内面－ロクロナデ 外面－ロクロナデ	色調－内面2.5Y6/1（黄灰色） 外面5Y6/1（灰色）
91	C区東３	土師器	甕	(26.4) － －	輪積成形	内面－ナデ 外面－ヘラミガキ	色調－内面7.5YR6/4（鈍い橙色） 外面7.5YR6/3（鈍い褐色） 胎土－雲母、白色粒を含む
92	C区東２	土師器	甕	－ (9.2) －		内面－ヘラナデ 外面－ヘラ後ナデ 底部－木葉痕	色調－10YR8/4（浅黄橙色） 胎土－白色粒多く、雲母を僅に含む

＊72は欠番

第９表　石器観察表

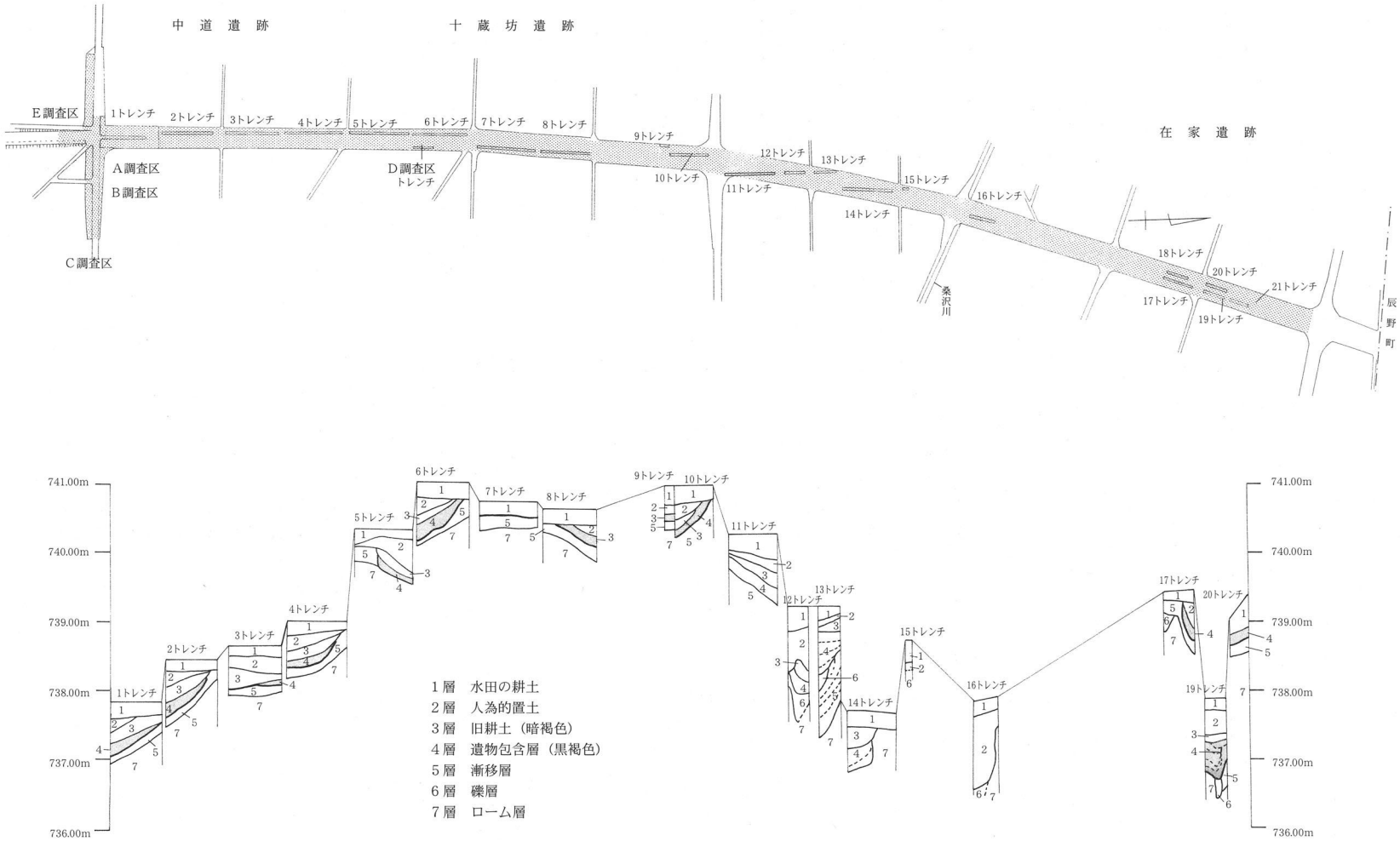
（法量cm・g）

No.	遺　構　名	器　　種	材　　質	長　さ	厚　さ	幅	重　さ	備　　考
1	７号住	石鏃	チャート	2.3		1.8	1.0	凹基無茎
2	C区東	石鏃	黒耀石	2.0		1.4	1.0	凸基有茎
3	C区西	打製石斧	緑泥片岩	9.9		4.5	108.0	
4	11トレンチ	打製石斧	角閃片岩	13.7		7.0	288.0	先端が使用により破壊
5	20トレンチ	打製石斧	角閃片岩	(10.9)		(5.6)	(214.0)	
6	６トレンチ	打製石斧	粘板岩	21.0	3.0	8.0	635.0	石質軟質
7	A区	打製石斧	砂岩	15.0		6.1	158.0	
8	７号住	敲石（磨石）	輝緑凝灰石	12.6	3.0	4.6	325.0	擦痕あり
9	９号住	砥石	凝灰岩	10.3	3.8	5.9	250.0	仕上げ砥か？面取り

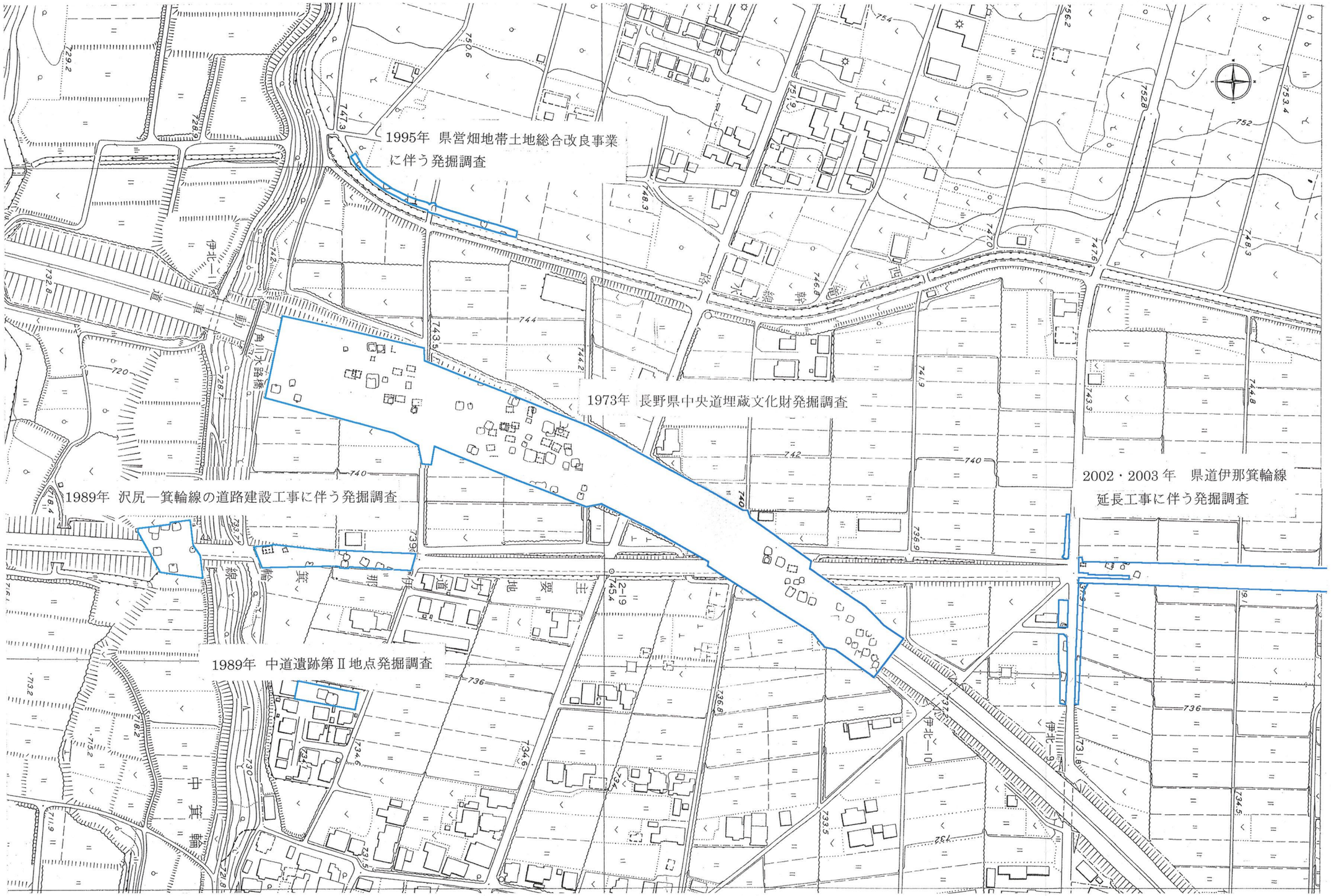
第10表　鉄製品観察表

（法量cm・g）

No.	遺　構　名	器　　種	材　　質	長　さ	厚　さ	幅	重　さ	備　　考
1	２号住	鉄鏃	鉄	(11.4)	(0.4)	(0.7)	10.95	ら線状に巻きつけた繊維痕残
2	７号住	刀子	鉄	14.7	0.5	1.4	27.1	木質残
3	８号住	刀子	鉄	(20.3)	(0.5)	(1.5)	(24.6)	
4	C区東２	鎌	鉄	(51.0)	(0.6)	(2.1)	10.35	
5	20トレンチ	楔状鉄器	鉄	6.6	0.5	0.8	15.0	


中道遺跡
十蔵坊遺跡
在家遺跡
E調査区
A調査区
B調査区
C調査区
D調査区
1トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
4トレンチ
5トレンチ
6トレンチ
7トレンチ
8トレンチ
9トレンチ
10トレンチ
11トレンチ
12トレンチ
13トレンチ
14トレンチ
15トレンチ
16トレンチ
17トレンチ
18トレンチ
19トレンチ
20トレンチ
21トレンチ
桑沢川
辰野町
741.00m
740.00m
739.00m
738.00m
737.00m
736.00m
1層　水田の耕土
2層　人為的置土
3層　旧耕土（暗褐色）
4層　遺物包含層（黒褐色）
5層　漸移層
6層　礫層
7層　ローム層

第35図　土層柱状図



第36図　発掘調査による集落址確認箇所

第Ⅴ章　まとめ

中道遺跡は、1973年の中央自動車道建設に先立つ発掘調査から今回の調査まで、約30年間のあいだに徐々に遺跡の内容が明らかになってきた。その結果、伊那谷北部を代表する集落遺跡であり、特に古墳後期・奈良・平安時代にかけての大集落で、その集落域が、西は西天竜幹線水路の西まで、東は大出集落まで、北は町道52号線付近にまで及ぶことが判ってきた。

今回の調査では、深沢川左岸の河岸段丘突端部から北へ600メートルほど離れた扇央部に位置するＡ・Ｃ調査区より住居址や掘立柱建物址等が確認できたため、集落の範囲はこれまでの想定よりもさらに北に広がることになった。周辺の立会調査による土器採集状況などからすれば、さらに北東へ広がる可能性も考えられる。

検出した10棟の住居址では古墳時代に比定されるものはなく、６・７号住居址の２棟が奈良時代、１～５・８号住居址の６棟が奈良時代末葉～平安時代初頭、10号住居址の１棟が奈良時代？、９号住居址の１棟が平安時代？に属するものと判断した。カマドの位置は、１・２・４・７・８・10号住居址が西カマド、３・６号住居址が東カマド、５・９号住居址は不明であった。また、７号住居址のカマドはカマド内の支脚に小型甕を逆位にして用いていた。掘立柱建物址は３棟検出された。１号掘立柱建物址は、柱痕を２ヶ所ずつ確認したことから柱穴を入れ替えたものと判断した。

出土遺物は、須恵器坏では底部ヘラ切り手法のもの（17個体）と、糸切り手法のもの（８個体）が混在する。また、口径に比し底径が小さいもの（1・7・9・12・14・17・38・51・69・70・73・83）が多い。土師器では、各住居址とも小型甕と長胴甕の出土数が多い。甕は稜線を失ったものがほとんどで、一条の沈線を巡らすものが僅かに見られた。甑は鉢形で把手は持たないものであった。

これまでの調査段階の中で、①地形的に水に恵まれていない扇状地中央部に大集落が築かれている。そしてそれ以降大集落は築かれることはなかった。②奈良・平安時代の住居址が100軒以上（１辺８ｍを越す超大型の住居址３軒）、掘立柱建物址が41棟検出されている。③奈良三彩小壷蓋や銅製絞金具や大型紡錘車など出土遺物が豊富である、などが特筆される。

現在の大出集落は、主に主要地方道伊那－箕輪線から300～600ｍほど東へ行った範囲の中にある。今回の調査地は、深沢川からは約600ｍ離れた所であり、かつては西方の現西天竜幹線水路下付近に清水が湧いていたという話も伝わっているが、毎日の生活に必要な水を得ることができていたか、生産の基盤は何に求めていたかは疑問である。現在の集落がこの場所に無いことなどからも、やはり水は深沢川から得ていたのではないだろうか。中道遺跡の集落が、水の便があまり良いとは言えないこのような場所にまで及んでいたことを考えると、町内の他の（自然発生的な）集落遺跡とは少し異なるような感じを受ける。古代東山道と関係があったかどうかは分からないが、６世紀以降の集落形成において、中央政権と何らかの関わりを持ち、政治的またはそれに準ずる目的をもって形成された、一地方の集落としては特異な位置にあった可能性が高い。

十蔵坊遺跡は中道遺跡と同じく、深沢川の左岸段丘上の扇状地中央に位置する。トレンチ調査の結果、土坑・ピット・溝状遺構・ロームマウンドが検出され、古代の土器が少量出土した。今回の調査地よりも

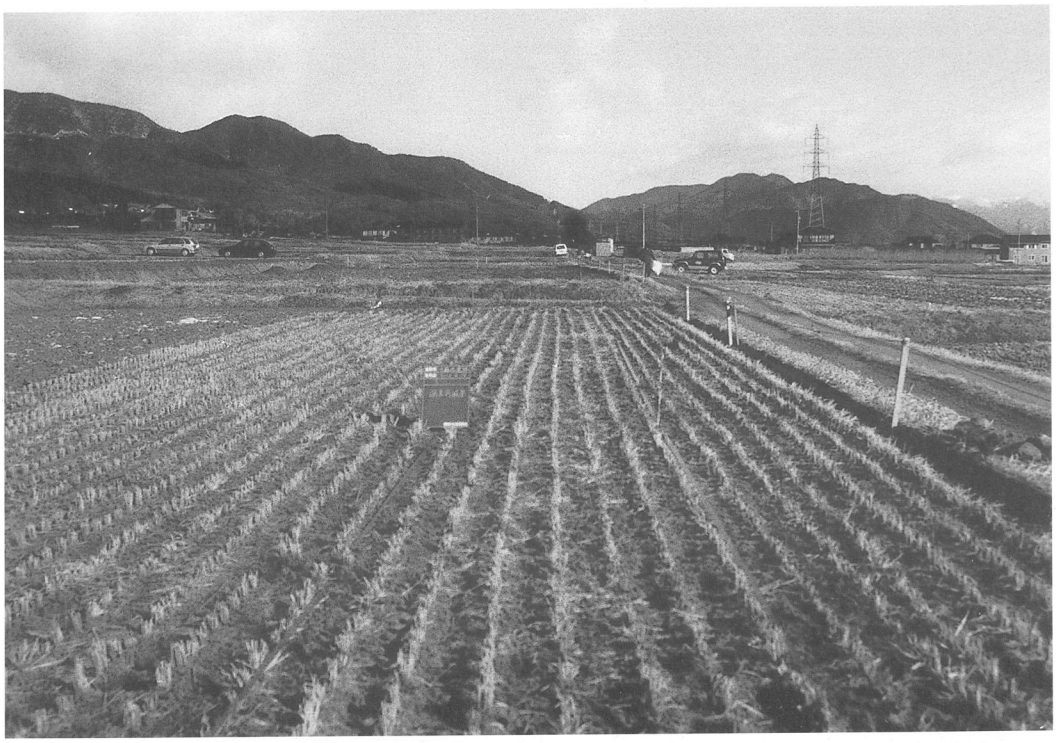
少し西側の長田東遺跡でも同様の遺構を検出しているが、今回の調査地においては遺構の分布は希薄であると判断した。

在家遺跡は、十蔵坊遺跡調査地北に位置する。桑沢川左岸の河岸段丘中段面から段丘上までが調査範囲で、現在は水田と住宅地域となっている。以前遺跡分布調査を行うことが出来なかったところであり、今回の調査では遺跡の範囲を確認することに重点を置いた。トレンチ調査の結果、土坑・ピット・溝状遺構・改修以前の桑沢川の河川敷が検出され、縄文中期の土器片が数点出土したが、やはり遺構の分布は希薄であると思われる。

末筆にあたり、本調査に多大なご協力をいただきました伊那建設事務所、並びに、調査団の方々に深く感謝するとともに厚くお礼申し上げます。尚、長年にわたって調査員として発掘調査にご協力いただきました福沢幸一さんが、調査半ばにして他界されました。故人におかれましては、現場では、熱心且つ敏速な判断力で調査に臨まれ、また、土器の復元に関しては特に造詣が深く、優れた技術で出土土器の復元を行っていただき、一言では語り尽くせぬ御尽力をいただきました。ここに感謝の意を表するとともに、報告書の発刊をもちまして、改めて御冥福をお祈り申し上げます。

参考引用文献（著者名50音順）

長野県教育委員会	1974	48『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』箕輪町
長野県教育委員会	1973	48『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』辰野町 その２
長野県教育委員会	1990	『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４』
長野県教育委員会	1990	『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書８』
長野県教育委員会	1999	『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26』
長野県教育委員会	2000	『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書27』
長野県考古学会	1987	長野県考古学会誌55・56
長野県史刊行会	1981	長野県史　考古資料編　全１巻（1）　遺跡地名表
長野県史刊行会	1985	長野県史　考古資料編　全１巻（3）主要遺跡（中・南信）
長野県史刊行会	1988	長野県史　考古資料編　全１巻（4）遺構・遺物
箕輪町誌編纂刊行委員会	1976	箕輪町誌　第１巻　自然・現代編
箕輪町誌編纂刊行委員会	1986	箕輪町誌　第２巻　歴史編
箕輪町教育委員会	1974	『八乙女五輪遺跡』
箕輪町教育委員会	1989	『堂地・中道遺跡』
箕輪町教育委員会	1989	『中道遺跡Ⅱ発掘調査概報』
箕輪町教育委員会	1990	『丸山遺跡』
箕輪町教育委員会	1995	『堂地中道遺跡』
箕輪町教育委員会	1996	『大道上遺跡』
箕輪町教育委員会	1995	『松島大原遺跡』
箕輪町教育委員会	1997	『本城遺跡』
箕輪町教育委員会	1998	『仲町遺跡』



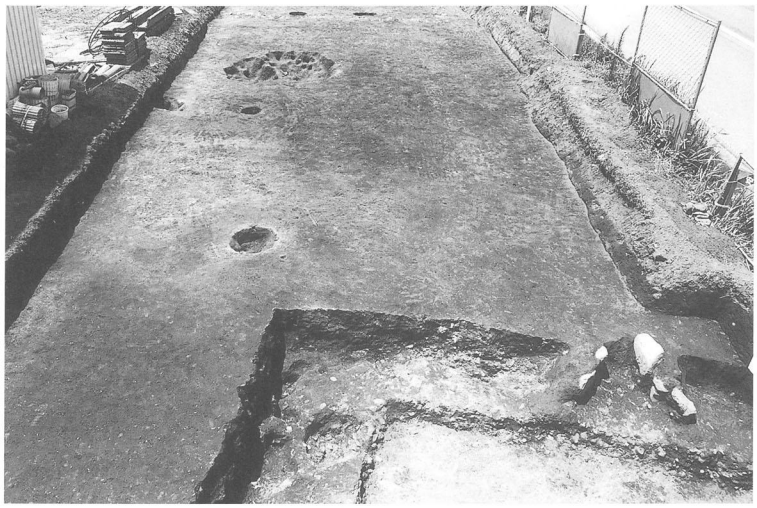
発掘調査地遠景

調査区土層堆積状況

図版2

Ａ１調査区
（北から）

Ａ３調査区
（南から）

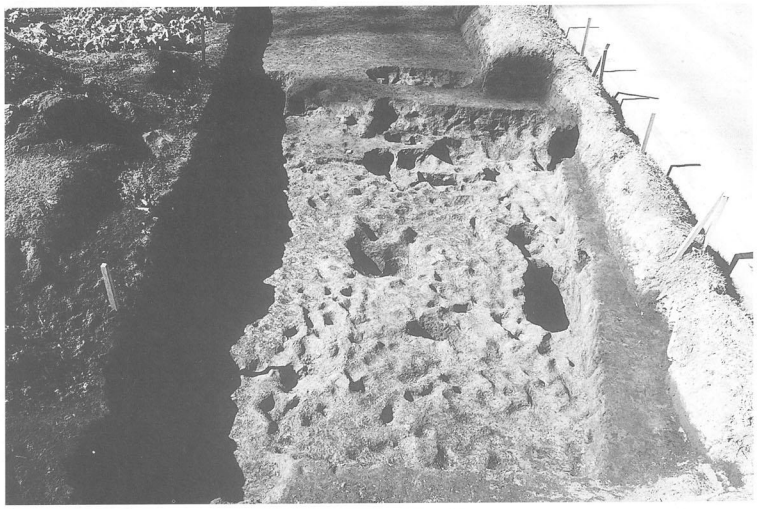


Ｃ区東４調査区
（東から）

図版3

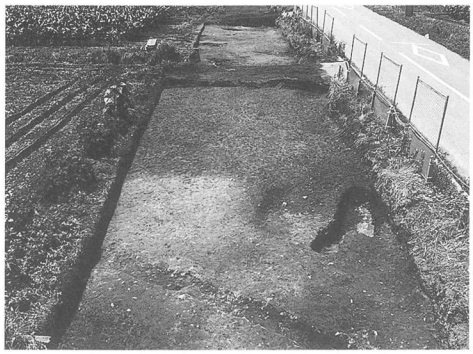
C区東3調査区
（東から）

C区東2調査区
（東から）



C区東1調査区
（東から）

図版4

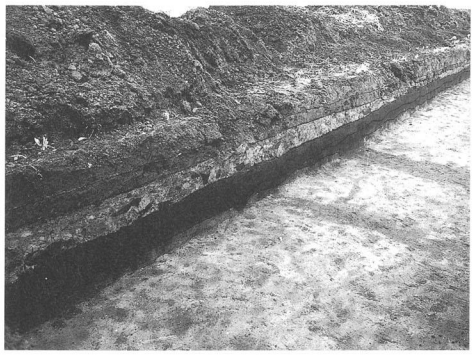


C区西１調査区（東から）

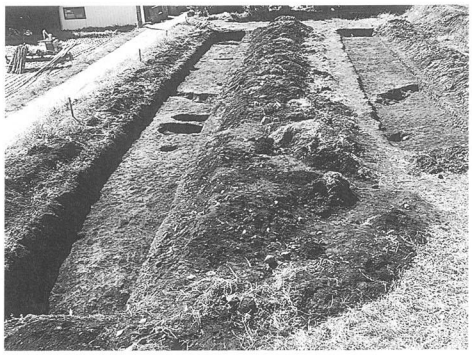
C区西４調査区（東から）

６トレンチ（南から）

６トレンチ断面

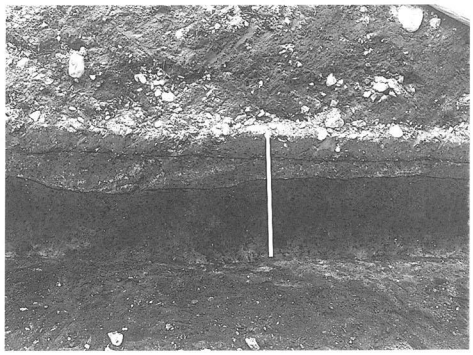


10トレンチ断面

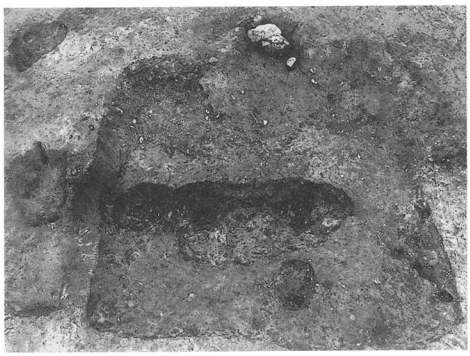


17・18トレンチ（北から）

B区立会調査（10号住居址断面）



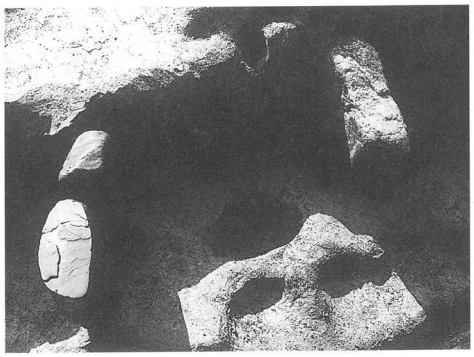
E区立会調査断面



1号住居址

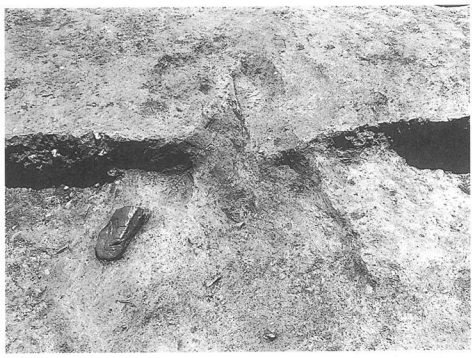
1号住居址カマド

2号住居址

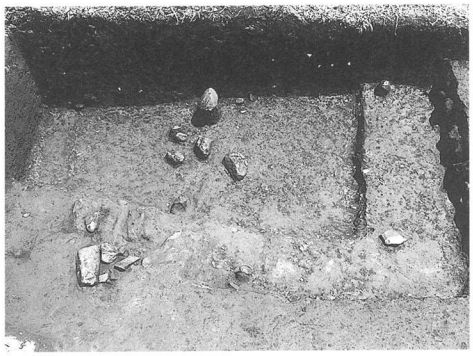


2号住居址カマド

3号住居址



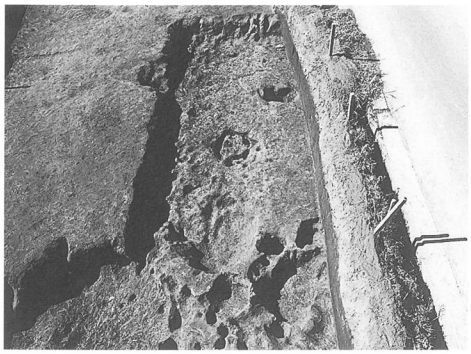
3号住居址カマド



4・5号住居址

4号住居址カマド

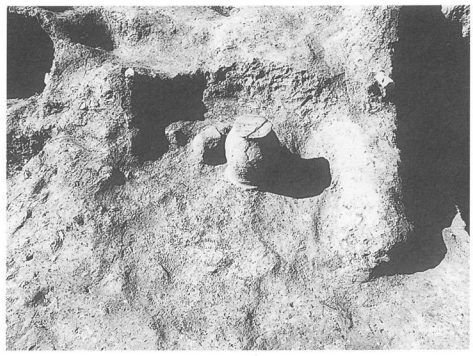
図版6



6号住居址

1号掘立柱建物址

7・9号住居址

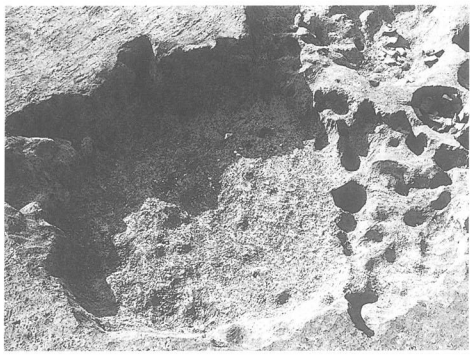


7号住居址カマド

8号住居址

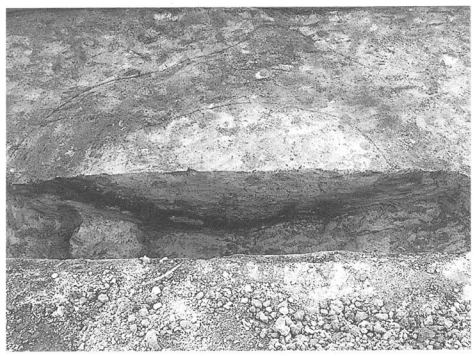
8号住居址カマド

2・3号掘立柱建物址

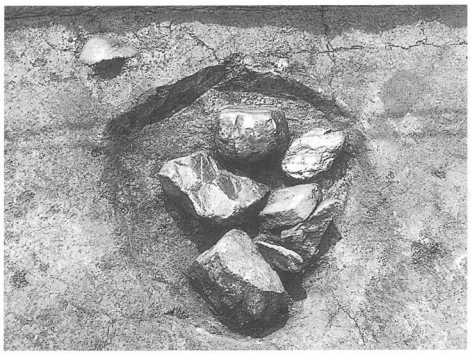


竪　穴　址

3号集石

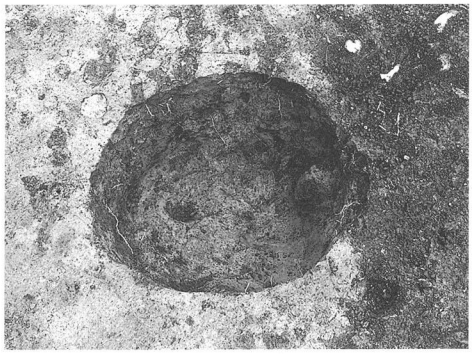


ロームマウンド断面



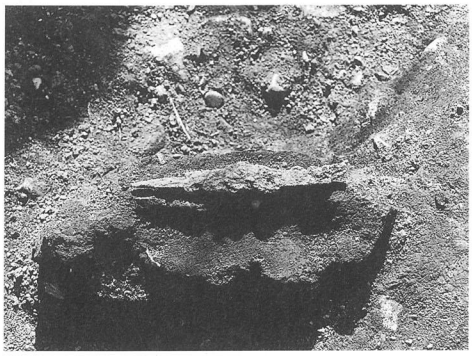
2号集石

35号土坑



100号ピット

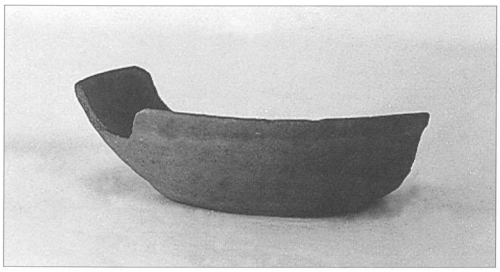
7号住居址内編物石



8号住居址内刀子出土状況

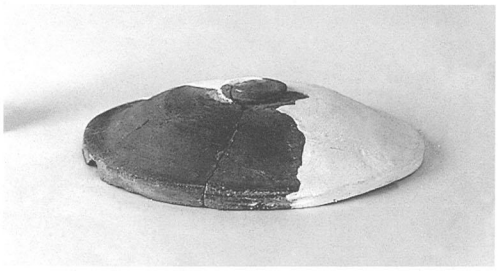
9号住居址内砥石出土状況

図版8

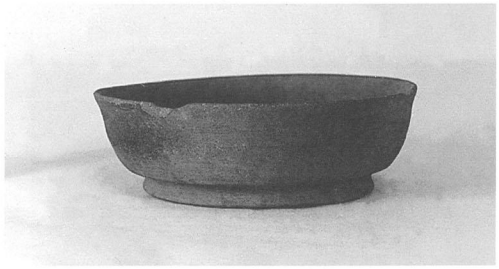


1

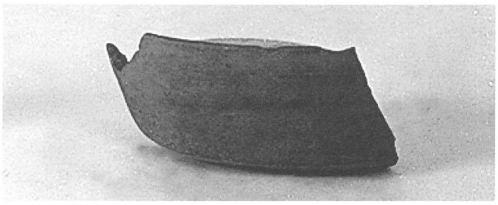
2



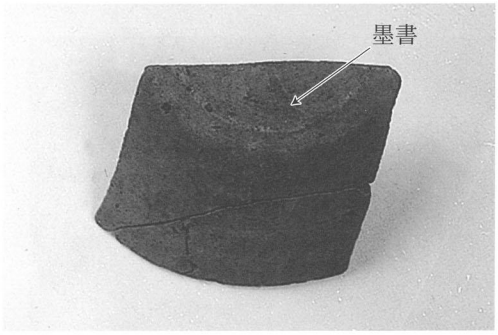
3



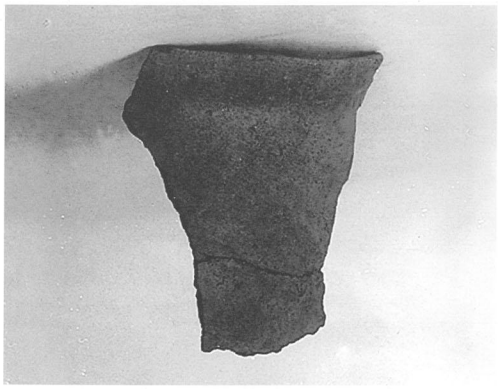
5



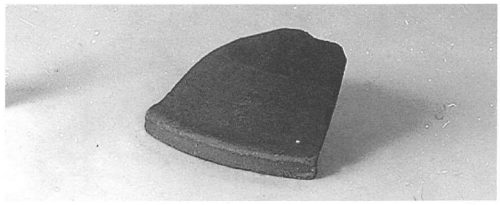
6



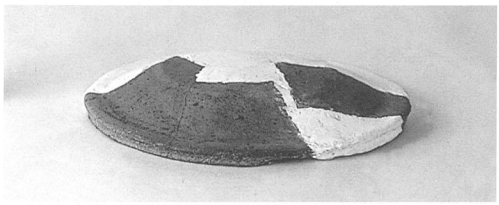
12



23



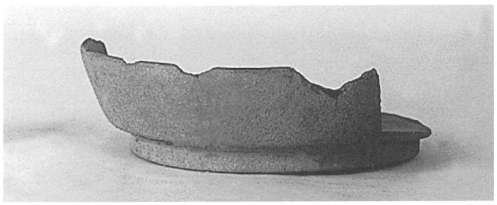
25



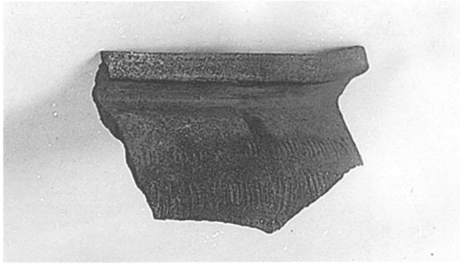
26

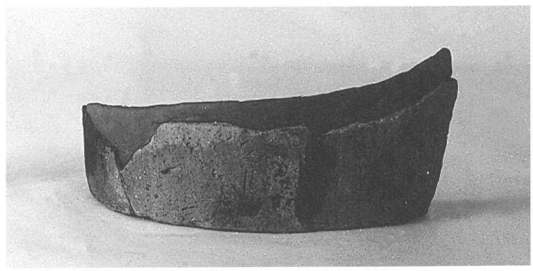
27

出 土 遺 物 1

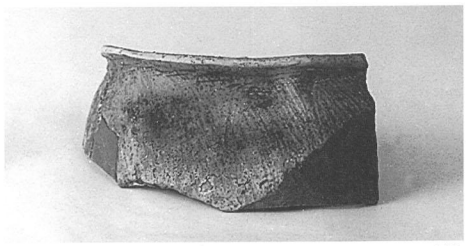

37

38


39

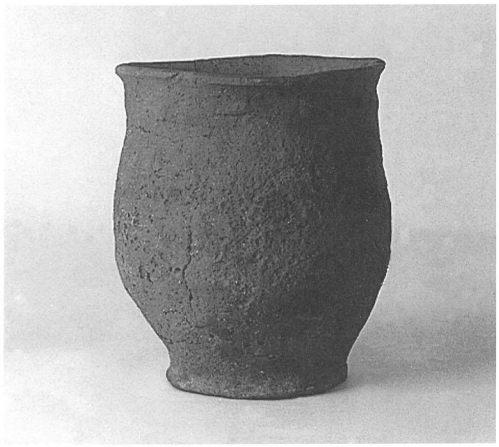

42

43


52

53

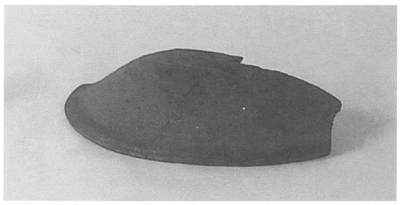
54


55

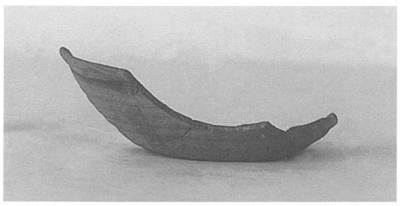
56

出土遺物 2

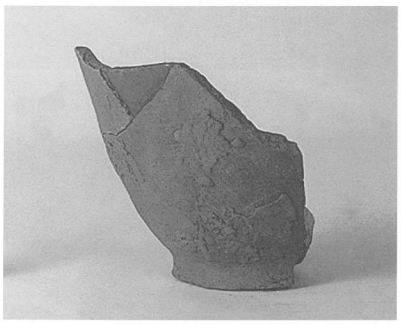
図版10



68

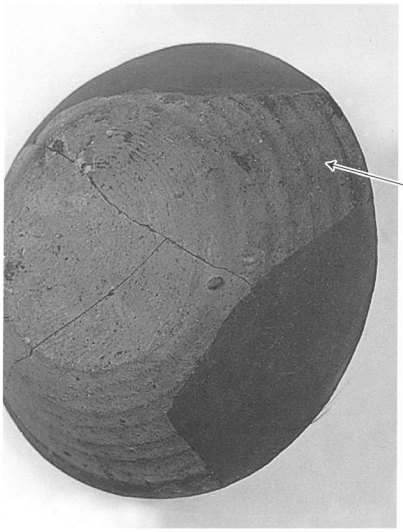


70

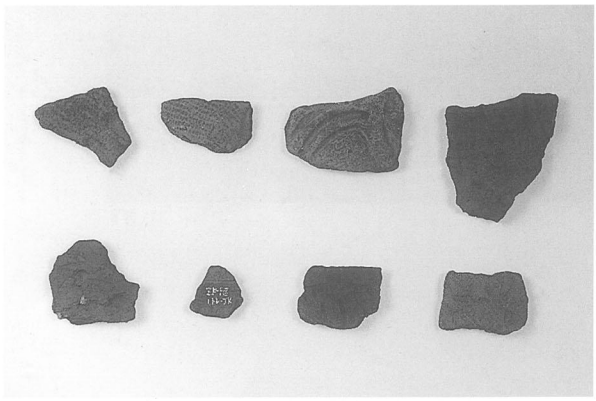


60

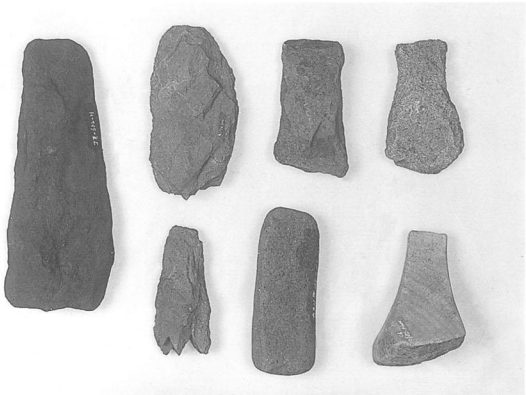
69



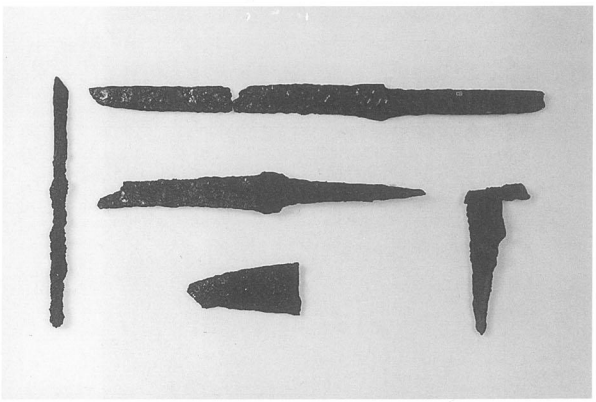
69



出土縄文土器



出土石器



出土鉄製品

出土遺物 3

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかみち・じゅうぞうぼう・ざいけいせき
書　　名	中道・十蔵坊・在家遺跡
副 書 名	主要地方道　伊那箕輪線道路改良事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
著 者 名	赤松　茂　　有賀　一治　　柴　秀毅　　根橋　とし子
編集機関	箕輪町教育委員会
所 在 地	長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10,291番地　(代)Tel 0265－79－3111
発行年月日	2005年２月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯 °′″	東 経 °′″	調査期間	調査 面積 (m²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかみちいせき 中道遺跡 じゅうぞうぼういせき 十蔵坊遺跡 ざいけいせき 在家遺跡	ながのけんかみいなぐんみのわまち 長野県上伊那郡箕輪町 おおあざなかみのわ 大字中箕輪 3366－5番地他	20383	6・8・21	35° 56′ 05″	137° 58′ 40″	2002.2.18～2002.3.12 2002.5.13～2002.11.8 2002.11.22～2002.12.24 2003.10.8～2003.11.5	4,450	(主) 伊那箕輪線改良事業

所有遺跡	種　別	主な時代	主 な 遺 構	主な遺物	特 記 事 項
中道・十蔵坊・在家遺跡	集落址	縄文時代 奈良時代 平安時代	住居址－10 土坑－29 掘立柱建物址－３ ピット－97 竪穴址－１ 溝状遺構－18 ロームマウンド－１ 集石－２ 火葬墓－１	縄文土器 土師器 須恵器 打製石斧 黒曜石 刀　子 砥　石 鉄製品	中道遺跡の集落範囲が、更に北に広がることが確認された。

中道・十蔵坊・在家遺跡

主要地方道 伊那箕輪線道路改良事業に
伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

平成17年２月28日　印刷
平成17年２月28日　発行

発行所　箕輪町教育委員会
〒399-4601
長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10291番地
TEL 0265-79-3111　FAX 0265-79-6368

印刷所　有限会社　工藤写植
〒399-4601
長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪9601番地